

# シヨロマ1遺跡(2)

-厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 17-

2018.3

厚真町教育委員会

カラー図版1



1. シヨロマ1遺跡空撮(平成26年) S→



2. LS-03断面(地すべり堆積) NW→



3. 平成27年度 排土坑断面 N→



4. TP-176.KP02断面  
W→



5. TP-178.KP02断面  
SW→

カラー図版2



1. 平成27年度 調査区Tピット配列 NE→

カラー図版3



1. IV群土器集合



2. 剥片石器集中

カラー図版4



1. 石斧集中



2. 逆茂木

## 序 文

厚真町は、胆振・日高地区屈指の豊かな水田地帯を有する大いなる田園都市であります。この穀倉地帯を潤す厚真川は夕張山地の南端を源とする、農作物への恩恵を授ける大切な河川でもあります。この豊かな厚真川と豊かな“ふるさと厚真”を更なる発展へと進めるために、農業用水確保と治水対策を主な柱とした多目的ダム「厚幌ダム」が、平成7年度に本格着工され、平成30年秋に共用開始となります。

さて本書はこの厚幌ダム建設に先駆けて沈みゆく地域に残された埋蔵文化財の記録保存を目的として発掘調査されたシヨロマ1遺跡の調査報告書であります。本書は平成26・27・28年度の発掘成果を記載するもので約4,000年前の土器が多く出土し、縄文時代のシカの落とし穴などが列をなして多数見つかっています。

今後は、これらの貴重な埋蔵文化財を地域の教育的資源、文化的財産として広く普及、活用を推し進めてまいりたいと思う所存でございます。また本書が広く埋蔵文化財の保護並びに調査・研究の一助となれば幸いに存じます。

最後となりましたが、調査・整理・報告にあたり御指導、御支援を賜りました関係諸氏ならびに関係機関に、真に厚く感謝申し上げる次第であります。

平成30年3月

厚真町教育委員会  
教育長 遠藤 秀明

## 例言

1. 本書は、平成26・27・28年度に行った厚幌ダム建設事業に伴い発掘調査されたシヨロマ1遺跡（登録番号：J-13-81）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、北海道胆振総合振興局の委託を厚真町教育委員会が受託した。
3. 調査・整理（分担）は以下の体制で行った。

調査担当者：奈良智法・乾 哲也・宮塚義人（委託担当者）

調査員・調査補助員：高橋和樹・宮崎美奈子・松井 昭・山戸大知・矢野加奈 事務員：浅野愛子・脇田幹王

測量技能作業員：海津孝之・畑嶋朝江・渡辺博道・石山 容・大山眞由美

整備技能作業員：松本 稔・畑嶋雄樹・柳瀬一行・日野 修・佐藤栄一 写図工：海津孝之・石山 容・畑嶋朝江

発掘作業員40名（H26）・59名（H27）・50名（H28） 整理事業員33名（H27）・20名（H28）・3名（H29）

宮塚：Ⅲ・Ⅴ層図面作成・木製品・石斧実測指導

高橋：Ⅴ層土器復元・拓影

宮崎：Ⅲ・Ⅴ層礫石器実測（石斧以外）

松井・矢野：Ⅴ層石斧実測・剥片石器実測図校正

山戸：Ⅲ層土器復元・拓影

奈良：遺物接合線図・遺構図レイアウト・土器実測指導

乾：図面等作成指導・渉外

4. 本書の編集は乾、宮塚の協力を得て奈良が行い、各節の執筆は文末に記す。
5. 関連諸科学の同定分析については、以下の機関および個人に依頼した。

・AMS法<sup>14</sup>C年代測定：株式会社パレオ・ラボ

・動物遺存体同定：千歳市埋蔵文化財センター 高橋 理

・炭化種子同定：北海道大学 高瀬克範

・石器石材同定・石材採取地分析：アースサイエンス株式会社 加藤孝幸 米島真由子

・地形面区分：アースサイエンス株式会社 岡 孝雄

6. 出土遺物の写真撮影：有限会社写真事務所クリーク 佐藤雅彦

7. 剥片石器実測・写真、復元土器実測の一部を株式会社トラスト技研に委託。

8. 礫石器実測委託写真撮影：株式会社シン技術コンサルに委託。

9. 本調査によって得られた資料等は、厚真町教育委員会で保管している。

10. 調査・報告にあたって下記の機関および個人より御指導御協力を頂き、記して感謝申し上げます。

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課、胆振総合振興局、胆振総合振興局室蘭建設管理部、厚幌ダム建設事務所、公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター、札幌学院大学人文学部、千歳市埋蔵文化財センター、苫小牧市美術博物館、苫小牧駒澤大学、平取町沙流川歴史館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、札幌市埋蔵文化財センター、恵庭市教育委員会、新ひだか町教育委員会、日高町教育委員会、伊達市噴火湾文化研究所、厚真アイヌ協会、苫小牧アイヌ協会、厚真町幌内自治会、最終間氷期勉強会、(株)佐藤組

青野友哉、赤井文人、赤石慎三、阿部明義、天方博章、天野哲也、石井淳平、石川 朗、石橋孝夫、伊藤昭和、右代啓視、臼杵 勲、内田和典、大谷茂之、大沼忠春、岡田路明、長田佳宏、小野哲也、小野寺 聡、加藤 忠、川内谷 修、菊池俊彦、北沢 実、木村淳一、工藤研治、熊谷仁志、越田賢一郎、斎藤大朋、佐藤一夫、佐藤 剛、

澤田一憲、澤田 健、柴田信一、鈴木将太、鈴木琢也、瀬川拓郎、関根達人、田口 尚、田才雅彦、鶴丸俊明、中田裕香、長沼 孝、長町章弘、西脇対名夫、福井淳一、藤原秀樹、三浦正人、三谷智広、蓑島栄紀、宗像公司、村本周三、森岡健治、藪中剛司、山原敏朗、吉田 力、吉田正明

## 凡 例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略号を用いた。なお、層位がこれらの略号に付加している。

〔遺構〕 住居：H 住居跡に付属する柱穴：HP 住居跡に付属する土坑：PT 住居跡に付属する炉跡：HF  
土坑墓：GP 土坑：P Tピット：TP 焼土：F 石組炉：SF

〔遺物〕 土器：P 擦文土器：SP 続縄文土器：ZP 縄文土器：JP 剥片石器：FT 礫石器：ST 礫：S  
フリク・チップ<sup>o</sup>（黒曜石・頁岩製）：FC 石斧石器群削片（緑色泥岩・片岩製）：SFC 石製品：SP

〔遺物等集中〕 土器片集中：PB 礫集中：SB 剥片石器集中：FTB 石斧集中：AXB フリク・チップ<sup>o</sup>集中：FCB  
炭化物集中：CB

2. 地層等について下記の略号を用いた。

〔堆積土〕 樽前 a 砂質降下火山灰：Ta-a 駒ヶ岳 c2 砂質降下火山灰：Ko-c2 樽前 b 降下軽石：Ta-b  
有珠 b 降下火山灰：Us-b 白頭山苫小牧火山灰：B-Tm 樽前 c 砂質降下軽石：Ta-c  
樽前 d1 細礫質降下スコリア：Ta-d1 樽前 d2 中礫質降下軽石：Ta-d2  
恵庭 a 降下軽石：En-a 黄褐色粘土質シルト（いわゆるローム）：L 攪乱：KR  
崖錐堆積物：LS

〔色調〕 小山・竹原編著（1994）『新版 標準土色帳』に従った。

〔注記〕 土層注記は下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列をつけている。また、混入土については（ ）内に粒径（単位：mm）、状態を記載した。

混入土の比率

A+B：A と B が同量比混じる A-B：A を主体に B が多量に混じる

A=B：A を主体に B が少量 A≡B：A を主体に B が微量

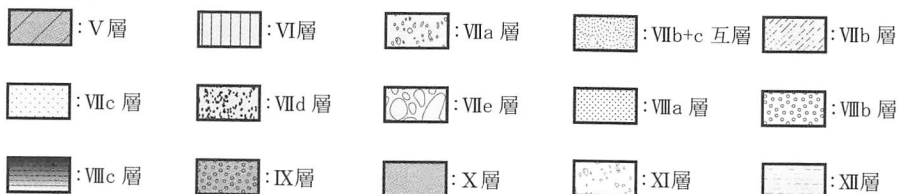
φ：粒径（単位：mm） ↓：以下 （状態）：斑状に混じる・均一に混じる

〔層位〕 標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や風倒木攪乱などの二次的に堆積したものにはアラビア数字を用いた。また、一覧表中には下記の略号を用いている。

U：上位 M：中位 L：下位

〔Tピット〕 第三章 第5節のTピット堆積図には以下のトーンを用いた。



基本層の細分



〔焼土・獣骨集中〕 被熱による土壤赤色化の度合い等の表現に以下のトーンを用いた。





3. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては図中スケールに縮尺を明記している。  
 基本土層：1/40 遺構周辺図：1/100 住居跡 1/40、1/20 土坑墓 1/40 Tピット：1/40 土坑 1/40  
 焼土・炭化物集中：1/20 集中遺物：1/20、1/40 土器実測図：1/3 土器拓影図：1/3  
 剥片石器・石製品実測図：1/2 礫石器実測図：1/3、1/4 金属製品 1/2 逆茂木：1/3 礫：1/3、1/4
4. 遺構実測図中に以下の線種・トーンを用いている。  
 [線種] -----：推定線 -----：トレンチ・攪乱による遺構推定線
5. 土器・石器の挿図および写真図版の番号に後続する枝番号は同一個体表記である。
6. 遺物実測図中に以下の略号を用いている。  
 [断面] V-----V：たたき痕 |-----|：剥片石器 微細剥離 / 礫石器 擦り痕・滑沢面  
 [平面] ：滑沢面範囲 ：被熱による赤色化/付着物範囲
7. 一覧表中の石材については、宮崎、松井が肉眼観察で分類した。下記の凡例は第IV章で報告された石材同定結果の凡例と過年度の報告石材を合わせたものである。また、頁岩・泥岩の分類については、粒度による基準ではなく、破断面等の肉眼観察によるものである。  
 石材以外の凡例についても下記に合せて記す。  
 And.：安山岩 Bl-Sch.：青色片岩 Bs.：玄武岩 Cha.：チャート Con.：礫岩 Gr-Sch.：緑色片岩  
 Gra.：花崗岩 Gr-Mud.：緑色泥岩 Mud.：泥岩 Obs.：黒曜石 Qu.：石英 Sa.：砂岩 Ser.：蛇紋岩  
 Sh.：頁岩 Si.：珪化岩 Tal.：滑石 We-Tu.：溶結凝灰岩 Irn.：鉄

## 本文目次

### カラー図版

- 1-1 シヨロマ1遺跡空撮  
 1-2 LS-03断面  
 1-3 平成27年度排土坑断面  
 1-4 TP-176.KP02断面  
 1-5 TP-178.KP02断面  
 2-1 平成27年度調査区Tピット配列  
 3-1 IV群土器集合  
 3-2 剥片石器集中  
 4-1 石斧集中  
 4-2 逆茂木

- 序文  
 例言  
 凡例

### 第I章 調査の概要

- 第1節 調査要項と体制 …………… 1  
 1. 調査要項 …………… 1  
 2. 調査体制 …………… 1  
 第2節 調査に至る経緯 …………… 2  
 1. 厚幌ダム建設事業 …………… 2  
 2. 発掘調査までの経緯 …………… 2  
 第3節 調査の方法 …………… 5  
 1. 発掘区の設定 …………… 5  
 2. グリッド設定 …………… 5  
 3. 包含層および遺構調査の方法 …………… 5  
 4. 整理作業 …………… 9  
 第4節 遺物の分類 …………… 10  
 1. 土器 …………… 10  
 2. 剥片石器 …………… 12  
 3. 礫石器 …………… 13

第5節 調査結果の概要 ..... 14

1. III層 ..... 14

2. V層 ..... 14

第6節 遺跡の位置 ..... 16

1. 厚真町の概要 ..... 16

2. 遺跡の位置と周辺の環境 ..... 22

3. 調査区内の地形と地質 ..... 24

第II章 III層の調査

第1節 集中区 ..... 41

第2節 焼土 ..... 64

第3節 杭跡 ..... 65

第4節 炭化物集中 ..... 65

第5節 集中出土遺物 ..... 67

1. 土器集中 ..... 67

第6節 包含層出土遺物 ..... 68

1. 土器 ..... 68

2. 剥片石器 ..... 69

3. 礫石器 ..... 69

第III章 V層の調査

第1節 住居跡 ..... 85

第2節 土坑墓 ..... 87

第3節 土坑 ..... 88

第4節 焼土 ..... 92

第5節 Tピット ..... 98

第6節 集中出土遺物 ..... 152

1. 土器集中 ..... 152

2. 礫集中 ..... 167

3. 剥片石器集中 ..... 174

4. フレイク・チップ集中 ..... 175

5. 石斧集中 ..... 182

第7節 V層包含層出土遺物 ..... 182

1. 土器 ..... 182

2. 剥片石器 ..... 196

3. 礫石器・石製品 ..... 205

第8節 まとめ ..... 226

第IV章 自然科学的分析

第1節 シヨロマ1遺跡における  
放射性炭素年代測定 (AMS測定) ..... 253

第2節 北海道勇払郡厚真町シヨロマ1遺跡  
の動物 ..... 256

第3節 厚真町シヨロマ1遺跡から  
検出された種子 ..... 258

第4節 シヨロマ1遺跡石材同定 ..... 265

第5節 シヨロマ1遺跡石材採取地分析 ..... 274

第6節 厚真川上流域の地形面区分および  
シヨロマ1遺跡に関する地質検討 ..... 283

引用・参考文献 ..... 305

報告書抄録 ..... 413

奥付

写真図版

図版 ..... 309

挿 図 目 次

第I章

図I-1 厚幌ダム建設事業関連  
埋蔵文化財包蔵地位置図 ..... 4

図I-2 グリッド設定網及び試掘坑位置図 ..... 6

図I-3 調査範囲及び  
地層観察セクション位置図 ..... 7

図I-4 グリッド区分図 ..... 7

図I-5 厚真町内遺跡分布図 ..... 18

図I-6 周辺の遺跡と地形面区分図 ..... 21

図I-7 VIIa・VIIIa層分布範囲図 ..... 28

図I-8 基本土層柱状図 ..... 29

図I-9 B区En-a分布及び柱状図 ..... 30

図I-10 AAライン東西断面図(1) ..... 31

図I-11 AAライン東西断面図(2) ..... 32

図I-12 AAライン東西断面図(3) ..... 33

図 I-13 Kライン東西断面図 ..... 34  
 図 I-14 Pライン東西断面図 ..... 35  
 図 I-15 17ライン南北断面図 ..... 36  
 図 I-16 31ライン南北断面図 ..... 37  
 図 I-17 25ライン南北断面図 ..... 38  
 図 I-18 38ライン南北断面図 ..... 39  
 図 I-19 LS(崖錐堆積物)セクション断面図 ..... 40

第II章

図 II-1 H25~28年度シヨロマ1遺跡  
 III層遺構配置図 ..... 43  
 図 II-2 集中区4平面・断面及び垂直分布図 .... 45  
 図 II-3 集中区4関連遺構III F-26・27・III SB-09  
 ・11平面及び断面図 ..... 46  
 図 II-4 集中区5平面・断面及び垂直分布図 .... 48  
 図 II-5 集中区5出土土器接合線図 ..... 49  
 図 II-6 集中区5出土礫接合線図 ..... 50  
 図 II-7 集中区6平面図 ..... 52  
 図 II-8 集中区6拡大遺物分布図(1) ..... 53  
 図 II-9 集中区6拡大遺物分布図(2) ..... 54  
 図 II-10 集中区6関連遺構平面・断面及び  
 垂直分布図 ..... 55  
 図 II-11 集中区7平面及び断面図 ..... 58  
 図 II-12 集中区7礫集中平面及び垂直分布図 .... 59  
 図 II-13 集中区4出土礫 ..... 59  
 図 II-14 集中区5出土遺物 ..... 60  
 図 II-15 集中区5出土礫 ..... 61  
 図 II-16 集中区6出土遺物 ..... 62  
 図 II-17 集中区7出土礫 ..... 63  
 図 II-18 III F-28・30平面及び断面図 ..... 64  
 図 II-19 杭跡平面及び断面図 ..... 65  
 図 II-20 III CB-03・III PB-04・06平面・断面及び  
 垂直分布図 ..... 66  
 図 II-21 III PB-05平面・断面及び垂直分布図 .... 68  
 図 II-22 III PB出土土器 ..... 70  
 図 II-23 III層包含層出土遺物 ..... 71

第III章

図 III-1 H25~28年度シヨロマ1遺跡  
 V層遺構配置図 ..... 83  
 図 III-2 VH-17平面及び断面図 ..... 86  
 図 III-3 VH-17関連遺構平面及び断面図 ..... 87  
 図 III-4 VGP-30・VPB-22平面・断面及び  
 垂直分布図 ..... 89  
 図 III-5 VP-31~35平面及び断面図 ..... 90  
 図 III-6 VP-37~39平面及び断面図 ..... 91  
 図 III-7 VSF-04・VF-31~33平面及び断面図 ... 94  
 図 III-8 VF-34~38平面及び断面図 ..... 95  
 図 III-9 VH・VGP・VSF・VF出土遺物 ..... 96  
 図 III-10 TP-51~53平面及び断面図 ..... 102  
 図 III-11 TP-54~56平面及び断面図 ..... 103  
 図 III-12 TP-57~59平面及び断面図 ..... 104  
 図 III-13 TP-60~62平面及び断面図 ..... 105  
 図 III-14 TP-63~65平面及び断面図 ..... 106  
 図 III-15 TP-66~68平面及び断面図 ..... 107  
 図 III-16 TP-69~71平面及び断面図 ..... 108  
 図 III-17 TP-72・73・75平面及び断面図 ..... 109  
 図 III-18 TP-74・76・77平面及び断面図 ..... 110  
 図 III-19 TP-78・79・105平面及び断面図 ..... 111  
 図 III-20 TP-80~82平面及び断面図 ..... 112  
 図 III-21 TP-83・84・86平面及び断面図 ..... 113  
 図 III-22 TP-85・87・88平面及び断面図 ..... 114  
 図 III-23 TP-89~91平面及び断面図 ..... 115  
 図 III-24 TP-92~94平面及び断面図 ..... 116  
 図 III-25 TP-95~97平面及び断面図 ..... 117  
 図 III-26 TP-98~100平面及び断面図 ..... 118  
 図 III-27 TP-101~103平面及び断面図 ..... 119  
 図 III-28 TP-104・106・107平面及び断面図 ..... 120  
 図 III-29 TP-108~110平面及び断面図 ..... 121  
 図 III-30 TP-111~113平面及び断面図 ..... 122  
 図 III-31 TP-114~116平面及び断面図 ..... 123  
 図 III-32 TP-117~120平面及び断面図 ..... 124  
 図 III-33 TP-121~123平面及び断面図 ..... 125  
 図 III-34 TP-124~126平面及び断面図 ..... 126  
 図 III-35 TP-127・128平面及び断面図 ..... 127

図III-36	TP-129・130 平面及び断面図	128	図III-72	V PB 出土遺物(4)	171
図III-37	TP-131~133 平面及び断面図	129	図III-73	V PB 出土遺物(5)	172
図III-38	TP-134~136 平面及び断面図	130	図III-74	V PB 出土遺物(6)・V SB-11 出土遺物	173
図III-39	TP-137・138 平面及び断面図	131	図III-75	V FTB-01~03 平面・断面及び 垂直分布図	176
図III-40	TP-139~141 平面及び断面図	132	図III-76	V FCB-05 平面及び垂直分布図	177
図III-41	TP-142~144 平面及び断面図	133	図III-77	V FCB-06・07 平面及び垂直分布図	178
図III-42	TP-145~148 平面及び断面図	134	図III-78	V AXB-01 周辺平面・断面及び 垂直分布図	179
図III-43	TP-149~151 平面及び断面図	135	図III-79	V FTB-01 出土剥片石器	180
図III-44	TP-152~154 平面及び断面図	136	図III-80	V FTB・V FCB 出土遺物	181
図III-45	TP-155~157 平面及び断面図	137	図III-81	V AXB-01 出土礫石器	183
図III-46	TP-158~160 平面及び断面図	138	図III-82	V 層包含層出土土器(1)	188
図III-47	TP-161~163 平面及び断面図	139	図III-83	V 層包含層出土土器(2)	189
図III-48	TP-164~166 平面及び断面図	140	図III-84	V 層包含層出土土器(3)	190
図III-49	TP-167~169 平面及び断面図	141	図III-85	V 層包含層出土土器(4)	191
図III-50	TP-170~173 平面及び断面図	142	図III-86	V 層包含層出土土器(5)	192
図III-51	TP-174~176 平面及び断面図	143	図III-87	V 層包含層出土土器(6)	193
図III-52	TP-177~179 平面及び断面図	144	図III-88	V 層包含層出土土器(7)	194
図III-53	TP-180~182 平面及び断面図	145	図III-89	V 層包含層出土土器(8)	195
図III-54	TP-183~185 平面及び断面図	146	図III-90	V 層包含層土器接合線図 I~III 群	197
図III-55	TP-186~188 平面及び断面図	147	図III-91	V 層包含層土器接合線図 IV 群	199
図III-56	V 層 T ピット配列図	148	図III-92	V 層包含層出土剥片石器(1)	202
図III-57	T ピット出土遺物(1)	149	図III-93	V 層包含層出土剥片石器(2)	203
図III-58	T ピット出土遺物(2)	150	図III-94	V 層包含層出土剥片石器(3)	204
図III-59	T ピット出土遺物(3)	151	図III-95	V 層包含層出土礫石器(1)	211
図III-60	V PB-17~19 平面及び垂直分布図	159	図III-96	V 層包含層出土礫石器(2)	212
図III-61	V PB-20・21 平面及び垂直分布図	160	図III-97	V 層包含層出土礫石器(3)	213
図III-62	V PB-23・24 平面・断面及び 垂直分布図	161	図III-98	V 層包含層出土礫石器(4)	214
図III-63	V PB-25~27 平面及び垂直分布図	162	図III-99	V 層包含層出土礫石器(5)	215
図III-64	V PB-28・29・31 平面及び垂直分布図	163	図III-100	V 層包含層出土礫石器(6)	216
図III-65	V PB-30・32・34 平面及び垂直分布図	164	図III-101	V 層包含層出土礫石器(7)	217
図III-66	V PB-33・35・36 平面・断面及び 垂直分布図	165	図III-102	V 層包含層出土礫石器(8)	218
図III-67	V PB-37 平面及び垂直分布図	166	図III-103	V 層包含層出土礫石器(9)	219
図III-68	V SB-11 平面及び垂直分布図	167	図III-104	V 層包含層出土礫石器(10)	220
図III-69	V PB 出土遺物(1)	168	図III-105	V 層包含層出土礫石器(11)	221
図III-70	V PB 出土遺物(2)	169	図III-106	V 層包含層出土礫石器(12)	222
図III-71	V PB 出土遺物(3)	170	図III-107	V 層包含層出土礫石器(13)	223

図Ⅲ-108 V層包含層出土礫石器(14) …………… 224

図Ⅲ-109 V層包含層出土礫石器(15) …………… 225

## 挿表目次

### 第Ⅰ章

表Ⅰ-1	グリッド設定関係杭数値一覧表 ……………	7
表Ⅰ-2	シヨロマ1遺跡概要一覧表 ……………	15
表Ⅰ-3	シヨロマ1遺跡出土遺物一覧表 ……………	15
表Ⅰ-4	厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1) ……	19
表Ⅰ-5	厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2) ……	20

### 第Ⅱ章

表Ⅱ-1	Ⅲ層遺構群一覧表 ……………	72
表Ⅱ-2	ⅢP属性表 ……………	72
表Ⅱ-3	ⅢF属性表 ……………	72
表Ⅱ-4	杭跡属性表 ……………	73
表Ⅱ-5	ⅢSB・ⅢB・ⅢPB・ⅢCB属性表 ……………	73
表Ⅱ-6	Ⅲ層遺構出土土器属性表 (擦文文化期) ……………	74
表Ⅱ-7	Ⅲ層遺構出土土器属性表 (続縄文文化期) ……………	75
表Ⅱ-8	Ⅲ層出土礫属性表(アイヌ文化期) ……	75
表Ⅱ-9	Ⅲ層出土礫属性表(擦文文化期) ……	77

表Ⅱ-10 Ⅲ層包含層出土土器属性表 …………… 81

表Ⅱ-11 Ⅲ層遺構・包含層出土遺物属性表 …… 81

### 第Ⅲ章

表Ⅲ-1	V層遺構群一覧表 ……………	228
表Ⅲ-2	VH属性表 ……………	229
表Ⅲ-3	VH付属炉属性表 ……………	229
表Ⅲ-4	VH付属土坑属性表 ……………	230
表Ⅲ-5	VH-17柱穴属性表 ……………	230
表Ⅲ-6	VGP・VP属性表 ……………	230
表Ⅲ-7	VSF・VF属性表 ……………	230
表Ⅲ-8	Tピット属性表 ……………	231
表Ⅲ-9	VPB・VSB・VFTB・VFCB ・VAXB属性表 ……………	234
表Ⅲ-10	V層遺構出土土器属性表 ……………	235
表Ⅲ-11	V層遺構出土遺物属性表 ……………	240
表Ⅲ-12	V層包含層出土土器属性表 ……………	242
表Ⅲ-13	V層包含層出土剥片石器属性表 ……	249
表Ⅲ-14	V層包含層出土礫石器属性表 ……	251

## 写真図版目次

図版 1-1	平成 26 年度調査前 ……………	309
図版 1-2	平成 26 年度 V 層調査完了 ……………	309
図版 1-3	平成 27 年度 28 ラインより東側調査前 ……	309
図版 2-1	平成 27 年度 28 ラインより西側調査前 ……	310
図版 2-2	平成 27 年度 28 ラインより西側調査完了 ……	310
図版 2-3	平成 28 年度 A 区調査前 ……………	310
図版 3-1	平成 28 年度 A 区調査終了 ……………	311

図版 3-2	平成 28 年度 B 区南側調査前 ……	311
図版 3-3	平成 28 年度 B 区南側調査終了 ……	311
図版 4-1	J-38 区南北断面 ……………	312
図版 4-2	K-39 区東西断面 ……………	312
図版 4-3	R-25 区南北断面 ……………	312
図版 4-4	P-24 区東西断面 ……………	312
図版 5-1	U-31 区南北断面 ……………	313
図版 5-2	AA-23 区東西断面 ……………	313
図版 5-3	X-28 区南北断面 ……………	313
図版 5-4	J-27 区旧石器トレンチ ……	313

図版 5-5	J-27 区旧石器トレンチ根痕断面	313	図版 11-5	ⅢF-31 断面	319
図版 5-6	J-27 区旧石器トレンチ根痕完掘	313	図版 11-6	ⅢF-32 断面	319
図版 6-1	J-30 区旧石器トレンチ	314	図版 11-7	ⅢSB-13 検出	319
図版 6-2	M-23 区旧石器トレンチ	314	図版 11-8	ⅢSB-14 検出	319
図版 6-3	N-25 区旧石器トレンチ	314	図版 11-9	ⅢSB-15 検出	319
図版 6-4	O-25 区旧石器トレンチ	314	図版 12-1	ⅢF-31・ⅢSB-13~15 検出	320
図版 6-5	Q-25 区旧石器トレンチ	314	図版 12-2	ⅢKP-124 完掘	320
図版 6-6	R-25 区旧石器トレンチ	314	図版 12-3	ⅢKP-124 断面	320
図版 6-7	P-25 区旧石器トレンチ	314	図版 12-4	ⅢKP-126 完掘	320
図版 6-8	P-24 区旧石器トレンチ	314	図版 12-5	ⅢKP-126 断面	320
図版 6-9	P-23 区旧石器トレンチ	314	図版 12-6	ⅢKP-127 完掘	320
図版 7-1	平成 27 年度排土坑断面	315	図版 12-7	ⅢKP-127 断面	320
図版 7-2	平成 28 年度排土坑断面	315	図版 12-8	集中区 7 調査状況	320
図版 7-3	LS-03 断面	315	図版 13-1	ⅢF-28 検出	321
図版 7-4	S-31・32 区Ⅲ層崖錐堆積物検出	315	図版 13-2	ⅢF-28 断面	321
図版 7-5	X-26・27 区雨天時の砂礫流出状態	315	図版 13-3	ⅢF-30 検出	321
図版 8-1	集中区 4ⅢSB-09・11 ⅢF-26・27 検出	316	図版 13-4	ⅢF-30 断面	321
図版 8-2	ⅢF-26・27 完掘	316	図版 13-5	ⅢKP-121~123 検出	321
図版 8-3	ⅢF-26 検出	316	図版 13-6	ⅢKP-121 完掘	321
図版 8-4	ⅢF-26 エゾタマキガイ検出	316	図版 13-7	ⅢKP-121 断面	321
図版 8-5	ⅢF-26 断面	316	図版 13-8	ⅢKP-122 完掘	321
図版 9-1	ⅢF-27 検出	317	図版 13-9	ⅢKP-122 断面	321
図版 9-2	ⅢF-27 断面	317	図版 13-10	ⅢKP-123 完掘	321
図版 9-3	ⅢSB-09 検出	317	図版 13-11	ⅢKP-123 断面	321
図版 9-4	ⅢSB-11 検出	317	図版 14-1	ⅢPB-04 検出	322
図版 9-5	ⅢSB-11 断面	317	図版 14-2	ⅢPB-04・ⅢCB-03 検出	322
図版 9-6	集中区 4 礫出土状態	317	図版 14-3	ⅢPB-05A~C 検出	322
図版 9-7	集中区 4 完掘	317	図版 14-4	ⅢPB-05A 検出	322
図版 9-8	集中区 4 調査状況	317	図版 14-5	ⅢPB-05B 検出	322
図版 10-1	ⅢB-01 検出	318	図版 14-6	ⅢPB-06 検出	322
図版 10-2	ⅢB-01 土器出土状態	318	図版 14-7	Ⅲ層調査状況 1	322
図版 10-3	ⅢB-01 鉄器出土状態	318	図版 14-8	Ⅲ層調査状況 2	322
図版 10-4	ⅢF-29・ⅢP-05 検出	318	図版 15-1	VH-17 完掘	323
図版 10-5	ⅢP-05 完掘	318	図版 15-2	VH-17 北側断面	323
図版 11-1	ⅢF-29・ⅢP-05 断面	319	図版 15-3	VH-17 南側断面	323
図版 11-2	ⅢSB-12 検出	319	図版 15-4	VH-17 西側断面	323
図版 11-3	ⅢF-31 検出	319	図版 15-5	VH-17 東側断面	323
図版 11-4	ⅢF-32 検出	319	図版 16-1	VH-17.HF01 検出	324

図版 16-2	VH-17. HF01 断面	324	図版 20-7	VF-33 検出	328
図版 16-3	VH-17. PT01 完掘	324	図版 20-8	VF-33 断面	328
図版 16-4	VH-17. PT01 断面	324	図版 21-1	VF-34 検出	329
図版 16-5	VH-17. HP01 完掘	324	図版 21-2	VF-35 検出	329
図版 16-6	VH-17. HP01 断面	324	図版 21-3	VF-34 断面	329
図版 16-7	VH-17. HP02 完掘	324	図版 21-4	VF-35 断面	329
図版 16-8	VH-17. HP02 断面	324	図版 21-5	VF-36 検出	329
図版 16-9	VH-17. HP04 完掘	324	図版 21-6	VF-37 検出	329
図版 16-10	VH-17. HP04 断面	324	図版 21-7	VF-36 断面	329
図版 16-11	VH-17 調査状況	324	図版 21-8	VF-37 断面	329
図版 17-1	VGP-30・VPB-22 検出	325	図版 21-9	VF-38 検出	329
図版 17-2	VGP-30 完掘	325	図版 21-10	VF-38 断面	329
図版 17-3	VGP-30 掘り方完掘	325	図版 22-1	平成 27 年度 Tピット配列状態	330
図版 17-4	VGP-30 南北断面	325	図版 22-2	平成 27 年度 Tピット配列(中央)	330
図版 17-5	VGP-30 坑底面出土炭化材	325	図版 22-3	平成 27 年度 Tピット配列(東側)	330
図版 17-6	VP-31 完掘	325	図版 22-4	平成 27 年度 Tピット配列(西側)	330
図版 17-7	VP-31 断面	325	図版 23-1	平成 27 年度 31 ライン以東 Tピット群完掘	331
図版 18-1	VP-32 完掘	326	図版 23-2	平成 27 年度 北東部 Tピット群完掘	331
図版 18-2	VP-32 断面	326	図版 24-1	平成 28 年度 A 区西側 Tピット群完掘	332
図版 18-3	VP-33 完掘	326	図版 24-2	平成 28 年度 A 区西側 Tピット検出	332
図版 18-4	VP-33 断面	326	図版 24-3	平成 28 年度 B 区 Tピット完掘	332
図版 18-5	VP-34 完掘	326	図版 25-1	TP-51 完掘	333
図版 18-6	VP-34 断面	326	図版 25-2	TP-51 断面(1)	333
図版 18-7	VP-35 完掘	326	図版 25-3	TP-51 断面(2)	333
図版 18-8	VP-35 断面	326	図版 25-4	TP-52 完掘	333
図版 19-1	VP-37・TP-155 検出	327	図版 25-5	TP-52 断面	333
図版 19-2	VP-37 完掘	327	図版 25-6	TP-53 完掘	333
図版 19-3	VP-37 断面	327	図版 25-7	TP-53 断面	333
図版 19-4	VP-38 完掘	327	図版 25-8	TP-54 完掘	333
図版 19-5	VP-38 断面	327	図版 25-9	TP-54 断面	333
図版 19-6	VP-39 完掘	327	図版 25-10	TP-55 完掘	333
図版 19-7	VP-39 断面	327	図版 25-11	TP-55 断面	333
図版 20-1	VSF-04・VP-35 検出	328	図版 25-12	TP-56 完掘	333
図版 20-2	VSF-04 断面	328	図版 26-1	TP-56 断面	334
図版 20-3	VF-31 検出	328	図版 26-2	TP-57 完掘	334
図版 20-4	VF-31 断面	328	図版 26-3	TP-57 断面	334
図版 20-5	VF-32 検出	328			
図版 20-6	VF-32 断面	328			

図版 26-4	TP-58 完掘	334	図版 29-6	TP-75 完掘	337
図版 26-5	TP-58 断面	334	図版 29-7	TP-75 断面	337
図版 26-6	TP-59 完掘	334	図版 29-8	TP-76 完掘	337
図版 26-7	TP-59 断面	334	図版 29-9	TP-76 断面	337
図版 26-8	TP-60 完掘	334	図版 29-10	TP-77 完掘	337
図版 26-9	TP-60 断面	334	図版 29-11	TP-78 完掘	337
図版 26-10	TP-61 断面	334	図版 30-1	TP-77 断面	338
図版 26-11	TP-61 完掘	334	図版 30-2	TP-78 断面	338
図版 26-12	TP-61. KP02 完掘	334	図版 30-3	TP-72・73・75~77 検出	338
図版 26-13	TP-61. KP02 断面	334	図版 30-4	TP-79 完掘	338
図版 26-14	TP-62 完掘	334	図版 30-5	TP-79 断面	338
図版 27-1	TP-62 断面	335	図版 30-6	TP-80 完掘	338
図版 27-2	TP-63 完掘	335	図版 31-1	TP-80 断面	339
図版 27-3	TP-63 断面	335	図版 31-2	TP-81 覆土上位断面	339
図版 27-4	TP-64 完掘	335	図版 31-3	TP-81 完掘	339
図版 27-5	TP-64 断面	335	図版 31-4	TP-82 完掘	339
図版 27-6	TP-65 完掘	335	図版 31-5	TP-82 断面	339
図版 27-7	TP-65 断面	335	図版 31-6	TP-83 完掘	339
図版 27-8	TP-66 完掘	335	図版 31-7	TP-83 断面	339
図版 27-9	TP-67 完掘	335	図版 31-8	TP-84 完掘	339
図版 27-10	TP-66 断面	335	図版 31-9	TP-84 断面	339
図版 27-11	TP-67 断面	335	図版 31-10	TP-84・86 検出	339
図版 28-1	TP-68 完掘	336	図版 31-11	TP-85 完掘	339
図版 28-2	TP-68 断面	336	図版 32-1	TP-85 断面	340
図版 28-3	TP-69 完掘	336	図版 32-2	TP-86 完掘	340
図版 28-4	TP-69 断面	336	図版 32-3	TP-86 断面	340
図版 28-5	TP-70 完掘	336	図版 32-4	TP-87 完掘	340
図版 28-6	TP-71 完掘	336	図版 32-5	TP-87 断面	340
図版 28-7	TP-70 長軸断面	336	図版 32-6	TP-88 完掘	340
図版 28-8	TP-71 断面	336	図版 32-7	TP-88 断面	340
図版 28-9	TP-72 完掘	336	図版 32-8	TP-88. KP01 完掘	340
図版 28-10	TP-72 断面	336	図版 32-9	TP-88. KP01 断面	340
図版 28-11	TP-73 完掘	336	図版 32-10	TP-88. KP02 完掘	340
図版 29-1	TP-73 断面	337	図版 32-11	TP-88. KP02 断面	340
図版 29-2	TP-74 完掘	337	図版 32-12	TP-89 完掘	340
図版 29-3	TP-74 断面	337	図版 32-13	TP-89 断面	340
図版 29-4	TP-74. KP01 完掘	337	図版 33-1	TP-90 完掘	341
図版 29-5	TP-74. KP01 断面	337	図版 33-2	TP-90 断面	341



シヨロマ1遺跡(2)

図版 33-3	TP-91 完掘	341	図版 36-5	TP-108 断面	344
図版 33-4	TP-91 断面	341	図版 36-6	TP-108. KP01 完掘	344
図版 33-5	TP-92 完掘	341	図版 36-7	TP-108. KP01 断面	344
図版 33-6	TP-93 完掘	341	図版 36-8	TP-108. KP02 完掘	344
図版 33-7	TP-92 断面	341	図版 36-9	TP-108. KP02 断面	344
図版 33-8	TP-93 断面	341	図版 36-10	TP-109 完掘	344
図版 33-9	TP-85・93・94 完掘	341	図版 36-11	TP-109 断面	344
図版 33-10	TP-94 完掘	341	図版 36-12	TP-110 完掘	344
図版 33-11	TP-95 完掘	341	図版 36-13	TP-110 断面	344
図版 34-1	TP-94 断面	342	図版 37-1	TP-111 完掘	345
図版 34-2	TP-95 断面	342	図版 37-2	TP-111 断面	345
図版 34-3	TP-96 完掘	342	図版 37-3	TP-112 完掘	345
図版 34-4	TP-96 断面	342	図版 37-4	TP-112 断面	345
図版 34-5	TP-97 完掘	342	図版 37-5	TP-113 完掘	345
図版 34-6	TP-97 断面	342	図版 37-6	TP-113 断面	345
図版 34-7	TP-98 完掘	342	図版 37-7	TP-114 完掘	345
図版 34-8	TP-98 断面	342	図版 37-8	TP-114 断面	345
図版 34-9	TP-99 完掘	342	図版 37-9	TP-114. KP01 完掘	345
図版 34-10	TP-99 断面	342	図版 37-10	TP-114. KP01 断面	345
図版 34-11	TP-100 完掘	342	図版 37-11	TP-114. KP02 完掘	345
図版 34-12	TP-100 断面	342	図版 37-12	TP-114. KP02 断面	345
図版 34-13	TP-101 完掘	342	図版 37-13	TP-114. KP03 完掘	345
図版 35-1	TP-101 断面	343	図版 37-14	TP-114. KP03 断面	345
図版 35-2	TP-102 完掘	343	図版 38-1	TP-115 完掘	346
図版 35-3	TP-103 完掘	343	図版 38-2	TP-115 断面	346
図版 35-4	TP-102 断面	343	図版 38-3	TP-116 完掘	346
図版 35-5	TP-103 断面	343	図版 38-4	TP-116 断面	346
図版 35-6	TP-104 完掘	343	図版 38-5	TP-117 完掘	346
図版 35-7	TP-104 断面	343	図版 38-6	TP-118 完掘	346
図版 35-8	TP-105・78 完掘	343	図版 38-7	TP-117 断面	346
図版 35-9	TP-106 完掘	343	図版 38-8	TP-118 断面	346
図版 35-10	TP-105 断面	343	図版 38-9	TP-119・120 完掘	346
図版 35-11	TP-106 断面	343	図版 39-1	TP-119 断面	347
図版 35-12	TP-107 完掘	343	図版 39-2	TP-120 断面	347
図版 36-1	TP-107 断面	344	図版 39-3	平成 27 年度 Tピット検出	347
図版 36-2	TP-107. KP01 断面	344	図版 39-4	TP-121 完掘	347
図版 36-3	TP-107. KP02 断面	344	図版 39-5	TP-122 完掘	347
図版 36-4	TP-108 完掘	344	図版 39-6	TP-121 断面	347

図版 39-7	TP-122 断面	347	図版 43-2	TP-135 完掘	351
図版 39-8	TP-123 完掘	347	図版 43-3	TP-135 断面	351
図版 40-1	TP-123 断面	348	図版 43-4	TP-135.KP01 断面	351
図版 40-2	TP-124 完掘	348	図版 43-5	TP-135.KP02 断面	351
図版 40-3	TP-124 断面	348	図版 43-6	TP-136 完掘	351
図版 40-4	TP-125 完掘	348	図版 43-7	TP-136 断面	351
図版 40-5	TP-125 断面	348	図版 43-8	TP-137 完掘	351
図版 40-6	TP-125.KP01 検出	348	図版 43-9	TP-137 断面	351
図版 40-7	TP-125.KP01 断面	348	図版 43-10	TP-138 完掘	351
図版 40-8	TP-125.KP02 完掘	348	図版 43-11	TP-138 断面	351
図版 40-9	TP-125.KP02 断面	348	図版 44-1	TP-138.KP01・02 完掘	352
図版 40-10	TP-126 断面	348	図版 44-2	TP-138.KP01・02 断面	352
図版 40-11	TP-126 完掘	348	図版 44-3	TP-138.KP06 完掘	352
図版 40-12	TP-127 完掘	348	図版 44-4	TP-138.KP06 断面	352
図版 41-1	TP-127 断面	349	図版 44-5	TP-139 完掘	352
図版 41-2	TP-128 完掘	349	図版 44-6	TP-139 断面	352
図版 41-3	TP-129 完掘	349	図版 44-7	TP-139.KP01・09・03 断面	352
図版 41-4	TP-128 断面	349	図版 44-8	TP-140 完掘	352
図版 41-5	TP-129 断面	349	図版 44-9	TP-140 断面	352
図版 41-6	TP-129・130 完掘	349	図版 44-10	TP-141 完掘	352
図版 41-7	TP-129・130 断面	349	図版 45-1	TP-141 断面	353
図版 41-8	TP-129.KP01 完掘	349	図版 45-2	TP-141.KP01・04 完掘	353
図版 41-9	TP-129.KP01 断面	349	図版 45-3	TP-141.KP01・04 断面	353
図版 41-10	TP-129.KP02 完掘	349	図版 45-4	TP-142 完掘	353
図版 41-11	TP-129.KP02 断面	349	図版 45-5	TP-143 完掘	353
図版 42-1	TP-129.KP03 完掘	350	図版 45-6	TP-142 断面	353
図版 42-2	TP-129.KP03 断面	350	図版 45-7	TP-143 断面	353
図版 42-3	TP-130 完掘	350	図版 45-8	TP-144 完掘	353
図版 42-4	TP-131 完掘	350	図版 45-9	TP-144 断面	353
図版 42-5	TP-130 断面	350	図版 45-10	TP-145 完掘	353
図版 42-6	TP-131 検出	350	図版 45-11	TP-145 断面	353
図版 42-7	TP-131 断面	350	図版 46-1	TP-146 完掘	354
図版 42-8	TP-132 完掘	350	図版 46-2	TP-146 断面	354
図版 42-9	TP-132 断面	350	図版 46-3	TP-147 完掘	354
図版 42-10	TP-133 完掘	350	図版 46-4	TP-147 断面	354
図版 42-11	TP-133 断面	350	図版 46-5	TP-148 完掘	354
図版 42-12	TP-134 完掘	350	図版 46-6	TP-148 断面	354
図版 43-1	TP-134 断面	351	図版 46-7	TP-149 完掘	354

図版 46-8	TP-149 断面	354	図版 49-10	TP-165 完掘	357
図版 46-9	TP-150 完掘	354	図版 49-11	TP-165 断面	357
図版 46-10	TP-150 断面	354	図版 49-12	TP-166 完掘	357
図版 46-11	TP-151 遺物出土状態	354	図版 50-1	TP-166 断面	358
図版 46-12	TP-151 完掘	354	図版 50-2	TP-167 完掘	358
図版 47-1	TP-151 断面	355	図版 50-3	TP-167 断面	358
図版 47-2	TP-152 完掘	355	図版 50-4	TP-167. KP01 断面	358
図版 47-3	TP-152 断面	355	図版 50-5	TP-167. KP02 断面	358
図版 47-4	TP-153 完掘	355	図版 50-6	TP-168 完掘	358
図版 47-5	TP-153 断面	355	図版 50-7	TP-168 断面	358
図版 47-6	TP-154 完掘	355	図版 50-8	TP-168. KP04 完掘	358
図版 47-7	TP-154 断面	355	図版 50-9	TP-168. KP04 断面	358
図版 47-8	TP-155 完掘	355	図版 50-10	TP-169 完掘	358
図版 47-9	TP-155 断面	355	図版 50-11	TP-169 断面	358
図版 47-10	TP-156 完掘	355	図版 50-12	TP-170 完掘	358
図版 47-11	TP-156 断面	355	図版 51-1	TP-170 断面	359
図版 47-12	TP-157 完掘	355	図版 51-2	TP-171 完掘	359
図版 48-1	TP-157 断面	356	図版 51-3	TP-171 断面	359
図版 48-2	TP-157. KP02・04 完掘	356	図版 51-4	TP-172 完掘	359
図版 48-3	TP-157. KP02・04 断面	356	図版 51-5	TP-172 断面	359
図版 48-4	TP-158 完掘	356	図版 51-6	TP-173 完掘	359
図版 48-5	TP-158 断面	356	図版 51-7	TP-173 断面	359
図版 48-6	TP-159 完掘	356	図版 51-8	TP-174 完掘	359
図版 48-7	TP-159 断面	356	図版 51-9	TP-175 完掘	359
図版 48-8	TP-160 完掘	356	図版 51-10	TP-174 断面	359
図版 48-9	TP-160 断面	356	図版 51-11	TP-175 断面	359
図版 48-10	TP-161 完掘	356	図版 51-12	TP-175 壁崩落状態	359
図版 48-11	TP-161 断面	356	図版 52-1	TP-176 完掘	360
図版 48-12	TP-162 完掘	356	図版 52-2	TP-176 断面	360
図版 49-1	TP-162 断面	357	図版 52-3	TP-176. KP03 断面	360
図版 49-2	TP-162. KP01 完掘	357	図版 52-4	TP-176. KP04 断面	360
図版 49-3	TP-162. KP01 断面	357	図版 52-5	TP-177 完掘	360
図版 49-4	TP-163 完掘	357	図版 52-6	TP-177 断面	360
図版 49-5	TP-163 断面	357	図版 52-7	TP-177. KP01~03 完掘	360
図版 49-6	TP-164 完掘	357	図版 52-8	TP-177. KP01~03 断面	360
図版 49-7	TP-164 断面	357	図版 52-9	TP-178 完掘	360
図版 49-8	TP-164. KP01 完掘	357	図版 53-1	TP-178 断面	361
図版 49-9	TP-164. KP01 断面	357	図版 53-2	TP-178. KP01 断面	361

図版 53-3	TP-178. KP02 断面	361	図版 56-8	VPB-20 検出	364
図版 53-4	TP-179 完掘	361	図版 57-1	VPB-21 検出	365
図版 53-5	TP-179 断面	361	図版 57-2	VPB-22 検出(1)	365
図版 53-6	TP-179. KP01 完掘	361	図版 57-3	VPB-22 検出(2)	365
図版 53-7	TP-179. KP01 断面	361	図版 57-4	VPB-23 検出	365
図版 53-8	TP-180 完掘	361	図版 57-5	VPB-24 検出	365
図版 53-9	TP-180 断面	361	図版 57-6	VPB-25 検出(1)	365
図版 53-10	TP-181 完掘	361	図版 57-7	VPB-25 検出(2)	365
図版 53-11	TP-181 断面	361	図版 57-8	VPB-26(TP-141 掘り上げ土上) 検出	365
図版 53-12	TP-182 完掘	361	図版 58-1	VPB-26 検出	366
図版 54-1	TP-182 断面	362	図版 58-2	VPB-27 検出	366
図版 54-2	TP-182. KP01 完掘	362	図版 58-3	VPB-28・31 検出	366
図版 54-3	TP-182. KP01 断面	362	図版 58-4	VPB-31 検出	366
図版 54-4	TP-183 完掘	362	図版 58-5	VPB-28 検出	366
図版 54-5	TP-183 断面	362	図版 58-6	VPB-29 検出	366
図版 54-6	TP-183. KP02 完掘	362	図版 58-7	VPB-30 検出(1)	366
図版 54-7	TP-183. KP02 断面	362	図版 59-1	VPB-30 検出(2)	367
図版 54-8	TP-184 完掘	362	図版 59-2	VPB-32 検出	367
図版 54-9	TP-184 断面	362	図版 59-3	VPB-33 検出(1)	367
図版 54-10	TP-185 完掘	362	図版 59-4	VPB-33 検出(2)	367
図版 54-11	TP-185 断面	362	図版 59-5	VPB-34・35 検出	367
図版 54-12	TP-186 完掘	362	図版 59-6	VPB-34 検出	367
図版 55-1	TP-186 断面	363	図版 59-7	VPB-35 検出	367
図版 55-2	TP-186. KP01~08 断面	363	図版 59-8	VPB-36 検出(1)	367
図版 55-3	TP-187 完掘	363	図版 60-1	VPB-36 検出(2)	368
図版 55-4	TP-187 断面	363	図版 60-2	VPB-37 検出(1)	368
図版 55-5	TP-187. KP07~09 完掘	363	図版 60-3	VPB-37 検出(2)	368
図版 55-6	TP-187. KP07~09 断面	363	図版 60-4	VSB-11 検出	368
図版 55-7	TP-188 完掘	363	図版 60-5	VSB-11 被熱礫集中範囲	368
図版 55-8	TP-188 断面	363	図版 60-6	VFTB-01 検出	368
図版 55-9	Tピット調査状況	363	図版 60-7	VFTB-01 出土状態	368
図版 56-1	VPB-17 検出(1)	364	図版 60-8	VFTB-02 検出	368
図版 56-2	VPB-17 検出(2)	364	図版 61-1	VFTB-02 トレンチ断面	369
図版 56-3	VPB-18 検出(1)	364	図版 61-2	VFTB-03 検出	369
図版 56-4	VPB-18 検出(2)	364	図版 61-3	VFCB-05 検出	369
図版 56-5	VPB-19・20 検出	364	図版 61-4	VFCB-06 検出	369
図版 56-6	VPB-19 検出(1)	364	図版 61-5	VFCB-07 検出	369
図版 56-7	VPB-19 検出(2)	364			

シヨロマ1遺跡(2)

図版 61-6	V AXB-01 検出	369	図版 84	V層包含層出土土器(8)	392
図版 61-7	K-44 区遺物出土状態	369	図版 85	V層包含層出土剥片石器(1)	393
図版 61-8	E-47 区北筒式土器出土状態	369	図版 86	V層包含層出土剥片石器(2)	394
図版 62-1	集中区 4 出土礫	370	図版 87	V層包含層出土剥片石器(3)	395
図版 62-2	集中区 5 出土遺物	370	図版 88	V層包含層出土礫石器(1)	396
図版 63-1	集中区 5 出土礫	371	図版 89	V層包含層出土礫石器(2)	397
図版 63-2	集中区 6 出土遺物	371	図版 90	V層包含層出土礫石器(3)	398
図版 64	集中区 7 出土礫	372	図版 91	V層包含層出土礫石器(4)	399
図版 65	III PB 出土土器	373	図版 92	V層包含層出土礫石器(5)	400
図版 66	III層包含層出土遺物	374	図版 93	V層包含層出土礫石器(6)	401
図版 67	VH-17・VGP-30・VSF-04・ VF-31・Tピット出土遺物	375	図版 94	V層包含層出土礫石器・石製品	402
図版 68	Tピット出土遺物(1)	376	付編		
図版 69	Tピット出土遺物(2)	377	1-1	上幌内モイ遺跡 III GP-01 副葬品	405
図版 70	VPB 出土遺物(1)	378	1-2	上幌内モイ遺跡 III GP-02 副葬品	405
図版 71	VPB 出土遺物(2)	379	2-1	上幌内モイ遺跡 III GP-03 副葬品	406
図版 72	VPB 出土遺物(3)	380	2-2	ヲチャラセナイ遺跡 III GP-02 副葬品	406
図版 73	VPB 出土遺物(4)	381	3-1	オニキシベ2遺跡 III GP-04 副葬品	407
図版 74	VPB 出土遺物(5)・VSB-11 出土遺物	382	3-2	シヨロマ4遺跡 III GP-01 副葬品	407
図版 75	VFTB-01 出土剥片石器	383	4-1	上幌内3遺跡 III GP-01 副葬品	408
図版 76-1	VFTB-02・03・VFCB-05 出土遺物	384	4-2	上幌内3遺跡 III GP-02 副葬品	408
図版 76-2	V AXB-01 出土礫石器	384	5-1	上幌内モイ遺跡 集中区1出土遺物(1)	409
図版 77	V層包含層出土土器(1)	385	5-2	上幌内モイ遺跡 集中区1出土遺物(2)	409
図版 78	V層包含層出土土器(2)	386	6-1	上幌内モイ遺跡 集中区2出土遺物(1)	410
図版 79	V層包含層出土土器(3)	387	6-2	上幌内モイ遺跡 集中区2出土遺物(2)	410
図版 80	V層包含層出土土器(4)	388	7-1	シヨロマ4遺跡 集中区1出土遺物(1)	411
図版 81	V層包含層出土土器(5)	389	7-2	シヨロマ4遺跡 集中区1出土遺物(2)	411
図版 82	V層包含層出土土器(6)	390	8-1	上幌内モイ遺跡 鍛冶関連遺物	412
図版 83	V層包含層出土土器(7)	391	8-2	厚幌ダム遺跡群 各遺跡出土鉄鍋	412

## 第 I 章 調査の概要

### 第 1 節 調査要項と体制

#### 1. 調査要項

事業名：厚幌ダム建設事業 埋蔵文化財発掘調査 その 2

委託者：北海道胆振総合振興局

受託者：厚真町教育委員会

遺跡名：シヨロマ 1 遺跡（J-13-81）

調査面積：平成 26 年度 853 m<sup>2</sup>

平成 27 年度 7,855 m<sup>2</sup>

平成 28 年度 5,106 m<sup>2</sup>

所在地：北海道勇払郡厚真町字幌内 93-1・2・3 ほか

受託期間：平成 26 年 4 月 9 日～平成 27 年 3 月 27 日

：平成 27 年 4 月 8 日～平成 28 年 3 月 28 日

：平成 28 年 4 月 7 日～平成 29 年 3 月 24 日

発掘期間：平成 26 年 9 月 2 日～平成 26 年 10 月 31 日

：平成 27 年 5 月 13 日～平成 27 年 10 月 31 日

：平成 28 年 5 月 11 日～平成 28 年 10 月 31 日

整理期間：平成 27 年 11 月 1 日～平成 30 年 3 月 16 日

#### 2. 調査体制

厚真町教育委員会 教育長 兵頭利彦（平成 28 年 12 月 2 日迄）

厚真町教育委員会 教育長 遠藤秀明（平成 28 年 12 月 7 日から）

生涯学習課社会教育グループ

平成 26～28 年度

参事 橋本欣哉（H26～28）・伊藤文彦（H29） 主幹 齊藤雪美（H26・27）・宮下 桂（H28・29）

主査 乾 哲也（学芸員） 主任・主査 奈良智法（学芸員）

委託担当者 宮塚義人（有限会社宮塚文化財研究所）

嘱託職員

調査員 高橋和樹（H27 整理）宮崎美奈子（H28）

調査補助員 宮崎美奈子（H26・27・29）松井 昭（H27）山戸大知（H27・28）矢野加奈（H28）

事務員 浅野愛子 脇田幹王（H26～28）

臨時職員 測量技能作業員 海津孝之 渡辺博道 畑嶋朝江 石山 容 大山真由美

整備技能作業員 松本 稔 畑島雄樹 柳瀬一行 日野 修 佐藤栄一

発掘作業員 40 名（H26） 59 名（H27） 50 名（H28）

整理作業員 33 名（H27） 20 名（H28） 3 名（H29）

平成 26 年度調査は同年発掘調査を行った上幌内 1 遺跡、上幌内 2 遺跡、一里沢遺跡の員数で調査を行った。（奈良）

## 第2節 調査に至る経緯

### 1. 厚幌ダム建設事業(図I-1)

町内を縦貫する厚真川中・下流域には約3,000haもの水田地帯が広がっている。このため、春の灌漑用水の確保は勿論のこと、融雪や豪雨による洪水への治水対策が開拓期以来の課題とされていた。

昭和46(1971)年には、現河口より上流38km地点に農業用ダムである「厚真ダム」が完成した。しかし、このダムは洪水調整機能が不十分で、昭和45年には洪水と渇水、昭和48・50・56年にも洪水が発生した。近年においては平成12年春の融雪期と平成13年秋に、家屋や農地に被害を及ぼす洪水、平成18・21・23年にも一部が冠水する事態が発生している。また昭和59・60・63年には深刻な水不足にも見舞われており、平成19年は幼穂形成期の水不足により深水灌漑が行えなかったため低温障害を受け、作況指数が極端に低い年となった。平成26年春にも渇水となり、水田への引水ができず作付を断念する農家もあり、厚真町の基幹産業である農業、豊かな穀倉地帯を築くうえで、治水や農業灌漑などを目的とする新たなダム建設は町民の切望として陳情されてきた。さらには市街地への人口集中の進行による住宅街や苫小牧東港入港船舶への水道水の需要が急増し、取水可能量は限界に達していることから、新たな上水道水源確保が急務となっている。

これらの状況の抜本的な治水等の改善策として、昭和52年に北海道室蘭土木現業所(現北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部、以下、室建管)により厚幌ダム建設事業の予備調査が着手され、昭和61年に実施設計である「厚真川総合開発事業計画調査」の着手が決まった。平成7(1995)年に北海道と厚真町との間で「厚真川総合開発事業厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が結ばれ、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持の多目的ダムとして「厚幌ダム」の建設着工が決定された。また同年には地元厚真町内に厚幌ダム建設事務所(以下、ダム事務所)が開設され、その後、環境アセスメント等も実施されている。近年ではダム事業に関連して、道道切替工事や町内各地区の農業経営体育成基盤整備事業、農業用水路再編対策事業(厚幌導水路建設)が展開され、営農の効率化が促進されている。厚幌ダムの本格着工として、平成14年度からの湛水区域内用地買収とともに、一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に着手し、北進平取線としてむかわ町穂別まで開通の計画である。また、平成24年度からは付随する町道や林道の切替工事も着手されている。

厚幌ダム本体は31.4kmの地点に堤体が完成しており、規模は堤体長516m、高さ47.2mのダムである。貯水は常時湛水面標高85.4m、最深湛水面標高88.1mであり、総貯水量は47,400千 $\text{m}^3$ 、現在の厚真ダムのおおよそ4.7倍の貯水量となり、多方面にわたって絶大な効果波及がある。平成29年10月に厚幌ダム試験湛水が開始され現在に至っている。

### 2. 発掘調査までの経緯(図I-1)

厚幌ダム建設事業の本格化を踏まえて平成12年7月6日にダム事務所より、ダム事業全体に係わる埋蔵文化財事前協議書(室土厚幌第158号)が厚真町教育委員会(以下、町教委)を経て北海道教育委員会(以下、道教委)へ提出された。事前協議区域は常時湛水面標高88.1m以下の区域と道道切替路線や湛水区域外の残土置き場など合計約315,700 $\text{m}^2$ に及ぶ。厚幌ダム関連の埋蔵文化財発掘調査について道教委と町教委で協議した結果、試掘調査までは道教委

が行い、発掘調査は町教委と室建管で委託契約を締結し、町教委が実施することとなった。調査は平成 14 年度の厚幌 1 遺跡から始まり、平成 28 年 10 月で終了し、同年 11 月から平成 30 年 3 月まで整理業務、報告書刊行を行い全ての事業が完了している。

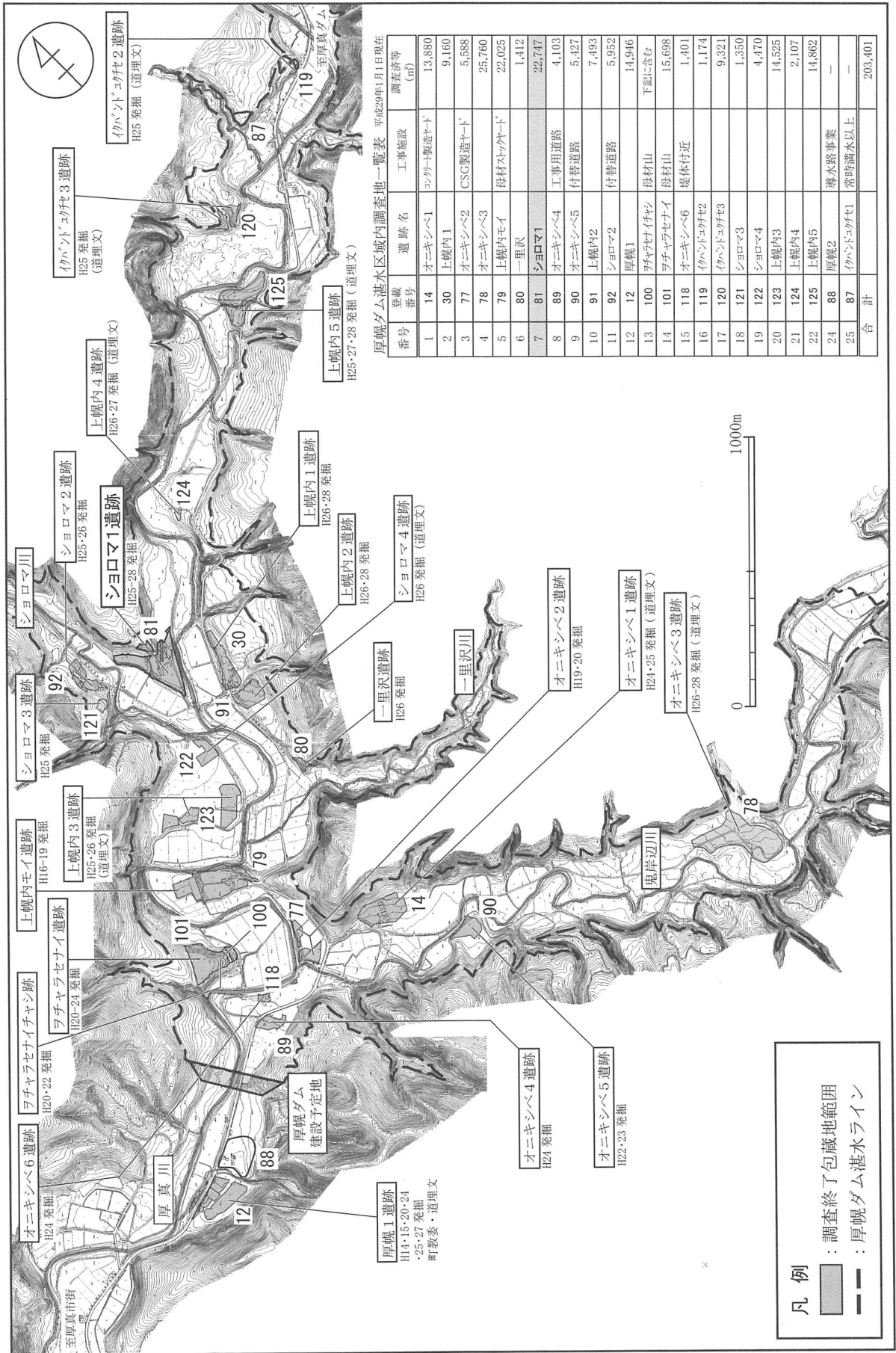
湛水地域内については、平成 13 年 10 月に所在確認調査が行われ、周知の遺跡（オニキシベ 1 遺跡、上幌内 1 遺跡）を含め 16 ヶ所、面積 235,500 m<sup>2</sup>の要試掘調査の回答がされた（平成 13 年 11 月 16 日付け教文第 4532 号）。以後、追加箇所や範囲拡張もあるが平成 19 年度までに 8 回、18 地点の試掘調査が実施され、14 遺跡、約 143,000 m<sup>2</sup>の要発掘・要遺構確認調査地点が確認されていた。しかし、これまでの発掘調査成果から河岸段丘の低位面にも埋蔵文化財包蔵地が広がること等、この地区における遺跡の立地パターンが判明してきており、建設工事中の不時発見を避けるため、新たな視点での再試掘調査の必要性が町教委やダム事務所等から望まれていた。これを受け道教委は平成 21 年 5 月に湛水地域内の所在確認踏査を行い、要試掘調査地点 10 ヶ所を回答した（平成 21 年 6 月 11 日付け教文第 928 号）。このうち 8 地点については 7・8 月に試掘調査を実施し 6 ヶ所の包蔵地が発見された（平成 21 年 9 月 10 日付け教文第 1940 号）。更に平成 21 年 12 月にも試掘調査が実施され新たに 1 ヶ所が追加された（平成 22 年 1 月 5 日付け教文第 3145 号）。平成 28 年度で全ての発掘調査が終了し、総調査面積は要発掘面積、要遺構確認調査を合わせて 203,401 m<sup>2</sup>となる。

ショロマ 1 遺跡は、平成 13 年 10 月に道教委による A 調査で協議地 No.7 として 48,810 m<sup>2</sup>の「要試掘調査」と回答された（平成 13 年 11 月 16 日付け教文第 4532 号）。試掘調査は平成 14 年 6 月と平成 15 年 10 月の 2 回にわたって実施され、1 回目の試掘調査で縄文時代前期や後期の遺物の他、竪穴式住居跡が確認され「ショロマ 1 遺跡」として平成 15 年 1 月に掲載された。2 回にわたる試掘調査で 67 地点のトレンチを掘開した結果、遺物が出土したショロマ川との合流点に突出した先端部とショロマ川に面する西側、厚真川本流沿い東側の 20,000 m<sup>2</sup>が埋蔵文化財包蔵地として要発掘調査回答がされた（平成 15 年 11 月 14 日付け教文第 4692 号）。さらに平成 27 年度の発掘調査で、T<sub>2</sub>面の北側に遺物が広がる様相を示したため、道教委と協議を行い、町教委で試掘をした結果、追加範囲として要発掘調査の回答を得た（平成 27 年 9 月 14 日付け教文博第 1487 号）。また、北側の段丘崖裾からも遺物が出土する状態であり、上位の高位段丘面からの流出と想定した。同年 11 月に T<sub>4</sub>面の再試掘を実施した結果、約 520 m<sup>2</sup>の要発掘調査の回答がなされた（平成 27 年 11 月 30 日付け教文博第 2146 号）。平成 28 年度の調査では前年度に試掘調査した T<sub>4</sub>面を調査した。表土除去中に、さらに北側まで遺物が広がることが想定され、調査の結果を踏まえて道教委と協議し、常時満水標高ラインまでの約 760 m<sup>2</sup>追加の回答がなされた（平成 28 年 9 月 28 日付け教文博第 1814 号）。これにより平成 28 年度の調査範囲は T<sub>2</sub>面の A 区と T<sub>4</sub>面の B 区と合わせて 5,106 m<sup>2</sup>となった。

厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査は、常時満水標高ライン以下の包蔵地の全面を対象とするため、発掘調査の結果、当初の調査区域外への広がりを確認することが複数例あった（上幌内モイ遺跡、オニキシベ 2・3・5 遺跡、ショロマ 3・4 遺跡、上幌内 2・3・4 遺跡等）。この事実が判明した時点で、随時、道教委と事業者との協議、契約変更等の事務手続きを行い、本地区での埋蔵文化財の記録保存に努めた。

（乾）





厚幌ダム湛水区域内調査地一覧表 平成29年1月1日現在

発掘番号	遺跡名	工事施設	調査済等 (㎡)
1	オニキシベ1	コンクリート製造ヤード	13,880
2	30 上幌内1		9,160
3	オニキシベ2	CSG製造ヤード	5,588
4	78 上幌内モイ	母材ストックヤード	25,760
5	79 上幌内モイ	母材ストックヤード	22,025
6	80 一里沢		1,412
7	81 シヨロマ1		22,747
8	89 オニキシベ4	工事用道路	4,103
9	90 オニキシベ5	付替道路	5,427
10	91 上幌内2	付替道路	7,493
11	92 シヨロマ2	付替道路	5,952
12	12 厚幌1		14,946
13	100 78ヤブセテイイヤシ	母材山	下畑に含む
14	101 ワチヤラセナイ	母材山	15,698
15	118 オニキシベ6	堤体付近	1,401
16	119 イハントユウガチ2		1,174
17	120 イハントユウガチ3		9,321
18	121 シヨロマ3		1,350
19	122 シヨロマ4		4,470
20	123 上幌内3		14,525
21	124 上幌内4		2,107
22	125 上幌内5		14,862
24	88 厚幌2	導水路事業	—
25	87 イハントユウガチ1	常時湛水以上	—
合計			203,401

図 I-1 厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地位置図

### 第 3 節 調査の方法

#### 1. 発掘区の設定 (図 I-2)

ショロマ 1 遺跡の発掘調査範囲は、ダム水没地域内であることから遺跡の全面が調査対象となっており、微地形等で若干の変更が生じるものの、道教委の試掘調査回答の「要発掘調査範囲」の 20,000 m<sup>2</sup>に基づいている。平成 25 年度の発掘区は、厚真川とショロマ川の合流点に面する遺跡の南端部から北部への河岸段丘面の 8,933 m<sup>2</sup>で、残りの 11,000 m<sup>2</sup>を 2 カ年で調査する全体計画を立案したが、平成 26 年度に西側の 853 m<sup>2</sup>を先行して調査した。北側の調査区は T<sub>4</sub> 面 (高位段丘面) により、厚真川側 (東側) とショロマ川側 (西側) に V 字状の広がりを示しているため、平成 27 年度は 38 ラインと T ラインまで調査区を設定し、東側の厚真川攻撃面付近の危険箇所は 1~2m のクリアランスを設けた。平成 28 年度は残りの北西側全体と T<sub>4</sub> 面の調査を行った。

調査の対象となる遺物包含層は試掘調査時に確認された III 層、V 層黒色土である。T<sub>4</sub> 面については V 層までの調査終了後に旧石器調査を目的としたトレンチ調査を調査面積の 4% 程度行った (図 I-9)。

#### 2. グリッド設定 (図 I-2・4)

隣接する遺跡とは別に本遺跡のみでのグリッド網を設定した。但し、いずれのグリッド網も公共座標に準ずる設定であるため、グリッド方眼は一致している。

グリッド網は道教委回答の発掘調査区全域を網羅できる北東側に図上の A-0 杭 (日本平面直角座標系第 X II 系 X=-135,655.0 Y=-20,005.0) に設定し、南北 300m×東西 270m の範囲を 5m 四方の方眼で区分した。各グリッド起点も北東角を原点とした。

グリッド名称は、南北の X 軸を A・B…Y・Z・AA・AB…のアルファベット列で、東西の Y 軸ラインを 1・2・3…のアラビア数字列とした。なお、5m 四方のグリッドを V 層調査における剥片類と礫の出土位置記録の際に、2.5m 四方に 4 分割した中グリッドを設定し、報告書の遺構図中に位置関係を示すため、5m グリッドを 1m 四方に 25 分割した小グリッドを定義した (図 I-4)。

現地での測量は、厚幌ダム建設事業の 3 級基準点を与点とするトータルステーション 4 級基準点測量とし、発掘調査区境界杭及びグリッド杭設置を(有)幅田測量設計が行った。現地における Z 座標もグリッド杭設定の際の基準杭や遺物取り上げ時の機械点杭に移設している。

#### 3. 包含層および遺構調査の方法

平成 26 年度は年度途中の 9 月から発掘調査を進めることになり、西側縁辺部に着手した。

平成 27 年度は 4 月下旬から調査員立会のもと、排土置き場を考慮して 28 ラインより東側をバックホーにより樹根を残しながら表土層、攪乱層、樽前 b テフラの除去を行った。この作業中に調査区北東部が V~VII 層まで削平されていることが判明した。発掘調査開始日の 5 月 13 日より作業員を投入し、残存した樹根の枝根の処理と攪乱層や火山灰の除去作業を行い、上層黒色土 III 層上面などの調査着手面を検出し、同時にグリッド杭打設を測量技能作業員が中心となって行った。28 ラインより西側については、V 層包含層調査の目処がついた時点で、表土、樽前 b テフラの除去を行い、順次精査とグリッド打設、地形測量図単点を記録した。

包含層調査は南北に縦断する 17・31 ライン、東西に横断する AA ラインに調査終了面の VII 層まで達するトレンチを掘開し、遺跡内の堆積状態の確認・実測を行っている。

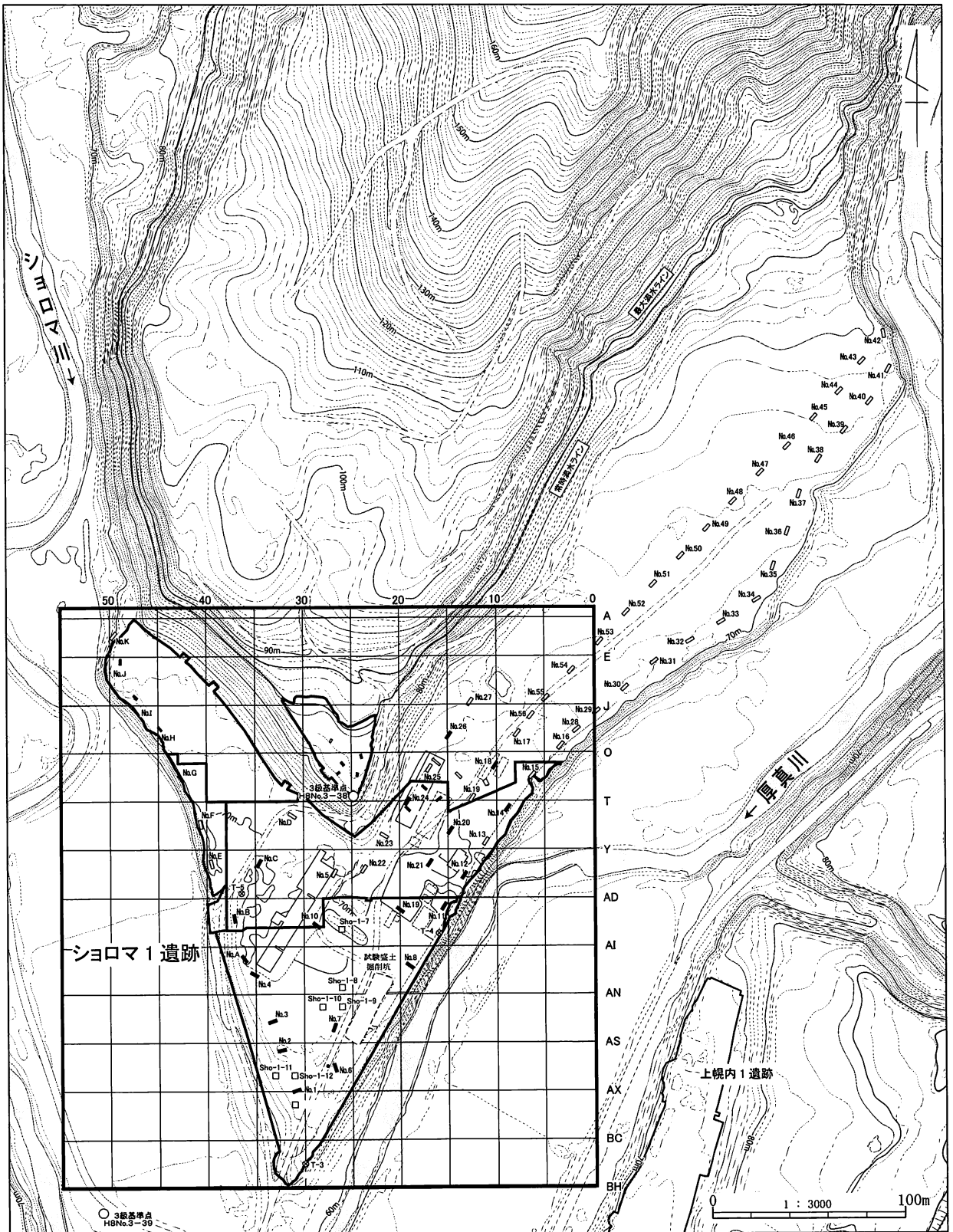


図 I-2 グリッド設定網及び試掘坑位置図

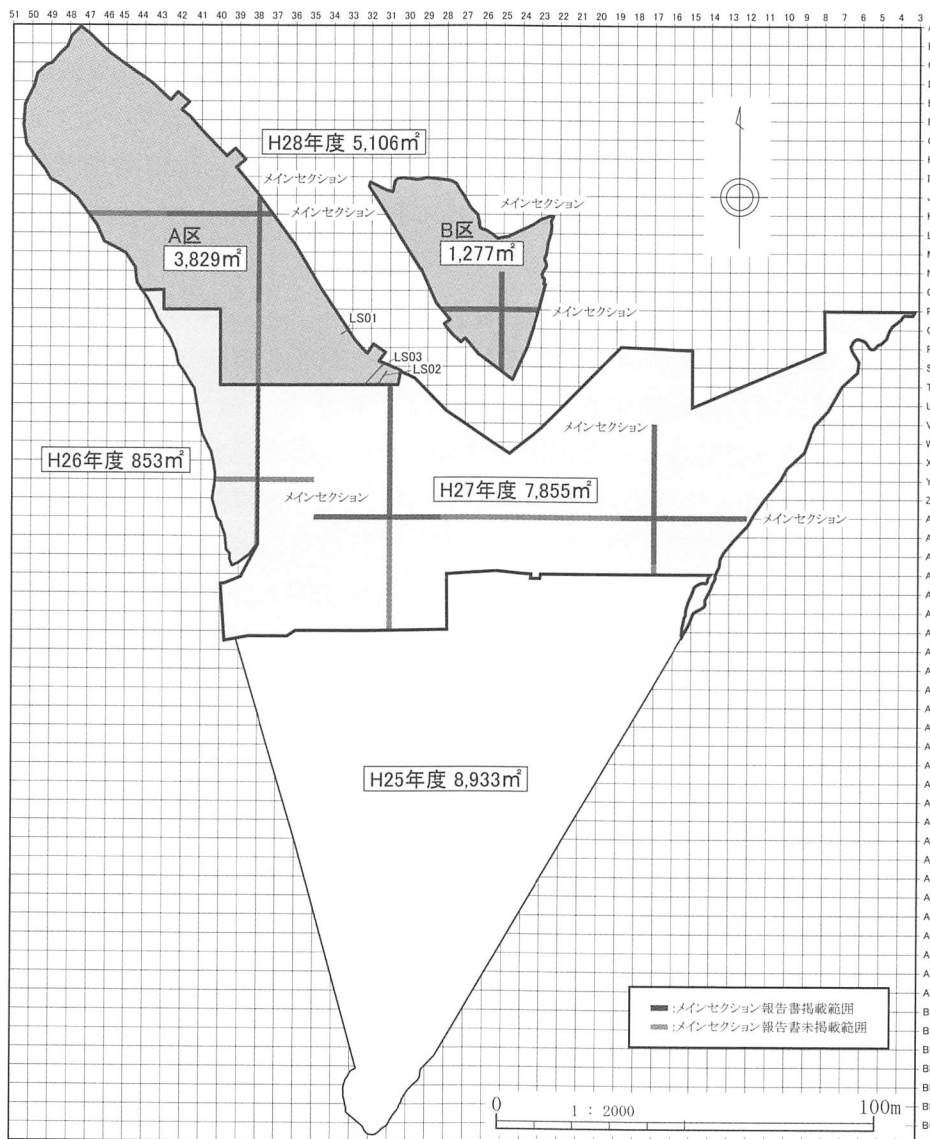
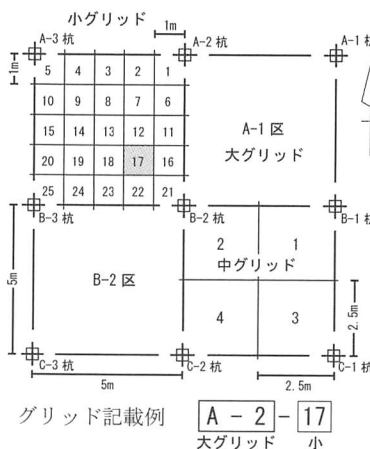


図 I -3 調査範囲及び地層観察セクション位置図

表 I -1 グリッド設定関係杭数値一覧表

杭名	X座標	Y座標	Z座標
3級基準点 H8No.3-38	-135747.043	-20123.588	-
3級基準点 H8No.3-39	-135963.618	-20253.909	-
T-3	-135935.524	-20149.678	68.209m
T-4	-135817.050	-20080.156	69.362m
T-5	-135796.408	-20181.191	69.954m
Sho1-7 (AG-26)	-135815.000	-20130.000	68.614m
Sho1-8 (AM-26)	-135845.000	-20130.000	-
Sho1-9 (AO-26)	-135855.000	-20130.000	-
Sho1-10 (AO-28)	-135855.000	-20140.000	-
Sho1-11 (AV-33)	-135890.000	-20165.000	-
Sho1-12 (AV-31)	-135890.000	-20155.000	-
Sho1-13 (AY-31)	-135905.000	-20155.000	-



- グリッド記載例 **A - 2 - 17**  
大グリッド 小
- ※1 本書の遺構・遺物一覧表は原則、大グリッドを表記している。
  - ※2 中グリッドはV層出土のフレイク・チップと礫の取り上げの際に用いた。
  - ※3 小グリッドは報告書作成にあたり、遺構位置を示すために図中のみに用いた。

図 I -4 グリッド区分図

平成28年度は高位段丘面(B区)周辺の伐採を4月下旬に先行し、その後、A区全体を一度に樽前bテフラまで除去を行った。その結果、A区においては縁辺と段丘崖以外がⅣ～Ⅴ層まで削平されていることが判明した。5月11日から作業員を投入し、樽前bテフラの除去、樹根周辺土壌、攪乱層の除去作業を実施した。合わせてグリッド打設、地形測量図単点と耕作等による削平範囲の記録も実施した。B区に関してはA区の進行状況に合わせて表土・樽前bテフラの除去を行い、途中からA区に並行して包含層調査を行っている。

包含層調査はA区が平成26年度の延長である南北38ライン、東西はKライン、B区が台地のほぼ中央で捉えられるように南北25ライン、東西Pラインで設定し堆積状態の確認を行っている。なお、調査区内の地形図作成の測量単点は、Ⅲ層で50cm、Ⅴ層で1m間隔の記録を行い、等高線図作成ソフトで処理した地形図を作成した。上層黒色土Ⅲa層及びⅢb層の残存範囲は移植ゴテで厚さ1～2cmの掘削調査を行った。Ⅲc層は一部に続縄文文化期の土器集中が出土したことから、周辺のみ手掘り調査を行ったが、それ以外はジョレンで掘削し、樽前cテフラ上面で遺構検出を行った。樽前cテフラの除去は、削平範囲と隣接する部分を人力で除去し、プライマリーな状態で残存している範囲は重機と人力併用で除去作業を行った。Ⅴ層包含層の掘削調査は、概ね5cmを目安に1回の掘削深度とし、可能な限り分層した層位面を揃えて調査している。

遺構調査は、Ⅲ層については包含層掘削中に焼骨片や灰層、土器片や礫などを一定の範囲で集中的に検出確認した際に、堆積状態観察のためのベルトを設定してから、範囲確定の精査を行った。これにより遺構等の被覆土の層厚の記録も可能であり、層位からの帰属時期の推定条件となった。土坑や杭穴などの掘り込み等を伴う遺構については、Ⅲc層～Ⅳ層(樽前cテフラ)上面を確認面とし、包含層の主体であるⅢb層調査終了後にこれらの遺構検出作業を行った。

Ⅴ層の遺構調査で土坑やTピットなどは基本的にⅥ層上面を確認面とし、ジョレンで遺構平面形の検出確認作業を行った。掘り上げ土と浅いくぼみが隣接する地点においては、掘り上げ土検出層位で平面の記録後、ベルトを残して堆積状態の把握に努めた。記録図化は、完掘後にトータルステーションを用いて平面形及びエレベーションを記録し、堆積状態については半截状態で調査員が分層と土層注記を行い、測量技能作業員が堆積状態の実測を行った。遺物出土状態等微細図については、土器片や礫などの輪郭をトータルステーションで記録し、1/5もしくは1/10縮尺でプリントした輪郭図を下地に測量技能作業員が作成した。各調査経過の写真記録は各調査員が35mm一眼レフデジタルカメラで撮影した。

出土遺物は、Ⅲ層については全点、Ⅴ層は土器と石器・礫に遺物番号を付与した。取り上げについては調査員による層位確認のうえ、トータルステーションによる3次元座標のデータ取得を行うと同時に、手簿(日付・グリッド・層位・遺物名等)の記載も行い、データ入力ミスの補完を行った。Ⅴ層のフレイク・チップに関してはトータルステーションによる位置記録を行わず、層位を記録しながら5m四方グリッドの4分割中グリッドもしくは遺構単位で取り上げている。

Ⅲ層及びⅤ層の土器片やフレイク・チップの細片集中は範囲を記録後に土壌ごと回収し、水洗選別としている。また焼土や礫集中については、調査時に各担当者が土壌サンプルを回収し、

発掘現場内に設置したビニールハウス内で乾燥した後にフローテーション作業を現地で行っている。なお、フローテーションや遺物水洗、調査区内の散水等で用いる作業用水は、井戸を掘削し独自に確保している。

#### 4. 整理作業

出土遺物の一次整理は、発掘調査段階から軽舞遺跡調査整理事務所において遺物水洗、調査区遺構名や層位、種別等の台帳確認作業、分類作業、注記作業を行った。11月からの整理業務は本郷地区と軽舞地区の整理事務所に分かれて行い、本郷遺跡調査整理事務所では、遺構図作成(H28)、出土土器(H27)、剥片石器(H28)、礫石器・礫の整理(H27・28)、軽舞遺跡調査整理事務所では遺構図作成(H26・27)、写真図版作成(H26・27)、出土土器(H28)、剥片石器(H26・27)、フローテーション試料選別(H27・28)、出土遺物の写真撮影(外部委託)を主に行った。

遺構図等の実測図編集やトレース図作成については、パソコンでのデジタル編集(0s Windows Adobe IllustratorCS5)で行った。出土遺物の写真撮影は写真事務所クリークに委託し、パソコン(0s Windows Adobe PhotoshopCS5)での背景の切抜き作業等を行っている。報告書掲載図や写真図版、一覧表の編集・版組みも上記のソフトウェアで行い、本文のWord文書と合わせて印刷所へデジタル入稿した。

遺物の収納保管は、報告書掲載のものは図版毎に行い、軽舞遺跡調査整理事務所(旧軽舞小学校)に、それ以外のものは層位、分類および調査区遺構毎にコンテナに収納し、旧鹿沼小学校に収蔵している。なお、金属製品については、軽舞遺跡調査整理事務所の特別収蔵室内において、湿度40%以下の防湿庫内に保管している。(乾)

## 第4節 遺物の分類

### 1. 土器

縄文時代早期から擦文文化期までの土器をローマ数字で群別し、アルファベットとアラビア数字で類別した。

#### 第Ⅰ群土器 縄文時代早期に属する土器。

- A類 貝殻文・条痕文土器。
- B類 早期後半の東釧路式土器群。
  - B1類 東釧路Ⅱ式に相当するもの。
  - B2類 東釧路Ⅲ式、コッタロ式に相当するもの。
  - B3類 中茶路式に相当するもの。
  - B4類 東釧路Ⅳ式に相当するもの。

#### 第Ⅱ群土器 縄文時代前期に属する土器。

- A類 縄文尖底・丸底土器群。
  - A1類 美沢3式、網文式土器に相当するもの。
  - A2類 トビノ式、静内中野式に相当するもの。
- B類 円筒土器下層式系土器群。
  - B1類 円筒下層a式ないしはb式に相当するもの。
  - B2類 円筒下層c式ないしはd式に相当するもの。  
所謂フゴッペ貝塚式土器も含める。
  - B3類 植苗式ないしは大麻Ⅴ式に相当するもの。  
便宜的に宮本式の一群である横走沈線文上に刺突文を施す土器も含める。
  - B4類 シュブノツナイ式に相当するもの。
  - B5類 胎土に蛇紋岩を含む土器。

#### 第Ⅲ群土器 縄文時代中期に属する土器。

- A類 中期前半の円筒土器上層式系土器群。
  - A1類 円筒上層a式またはb式に相当するもの。
  - A2類 円筒上層c式またはd式、厚真1式に相当するもの。
- B類 中期後半から末葉の土器群。
  - B1類 萩ヶ岡1・2式、天神山式に相当するもの。
  - B2類 a種 柏木川式に相当するもの。  
b種 大安在B式に相当するもの。
  - B3類 a種 北筒式に相当するもの。  
b種 ノダツプⅡ式・煉瓦台式に相当するもの。

#### 第Ⅳ群土器 縄文時代後期に属する土器。

- A類 後期初頭の土器群。
  - A1類 a種 古手の余市式土器。円形刺突文の有無に関わらず、貼付帯や地文縄文が多段の羽状構成の土器。
  - A1類 b種 IV群A1類a土器に併存する沈線文系の土器。非在地系。
  - A1類 c種 天祐寺式に相当するもの。IV群A1類a種土器に併存する。非在地系。
  - A2類 新しい段階の余市式。タブコブ式の手。階段状の器表面や斜め下方からの刺突文や縄端圧痕文が施される土器。
- B類 後期前葉の土器群。
  - B1類 新手のタブコブ式。縦位の棒状貼付帯縄線文または地文縄文のみが施されているもの。
  - B2類 手稲砂山式に相当するもの。
  - B3類 入江式、大津7群、白坂3式土器。
- C類 後期中葉の土器群。
  - C1類 ウサクマイC式に相当するもの。
  - C2類 手稲式に相当するもの。
  - C3類 ホッケマ式に相当するもの。
- D類 後期後葉の土器群。
  - D1類 堂林式、御殿山式に相当するもの。

#### 第Ⅴ群 縄文時代晩期に属する土器群。

- A類 晩期前葉の土器群。
  - A1類 爪形文や刺突文を施すもの。
  - A2類 大洞B・BC式土器に相当するもの。
- B類 晩期中葉の土器群。
  - B1類 縄線文や円弧文を施すもの。美々3式、ママチⅠ・Ⅱ群に相当するもの。
  - B2類 大洞C1・C2式土器に相当するもの。

C類 晩期後葉の土器群。

C1類 ママチⅢ・Ⅳ・Ⅴ群に相当するもの。

C2類 大洞A・A'式土器に相当するもの。

a: アヨロ2類 a 相当の土器。

b: アヨロ2類 b 相当の土器。

B2類 アヨロ3類相当の土器。

C1類 江別太1~3式土器。

C2類 後北B式土器。

C3類 後北C<sub>1</sub>式土器。

C4類 後北C<sub>2</sub>-D式土器。

D1類 宇津内Ⅱa式土器。

D2類 宇津内Ⅱb式土器。

E1類 北大Ⅰ式土器。

E2類 北大Ⅱ式土器。

#### 第Ⅵ群土器 続縄文文化期に属する土器群。

A1類 砂沢式・二枚橋式に並存する在地の土器。

a: 札幌市H37遺跡 丘珠空港地点相当のもの。

b: いわゆる汐見式相当。縄線文が施され、地文に帯縄文発達以前の土器。

A2類 砂沢式・二枚橋式に並存する搬入系土器。

a: 砂沢式土器。 b: 二枚橋式土器。

B1類 アヨロ2類土器並行の土器。

#### 第Ⅶ群土器 擦文文化期に属する土器群。

A 北大Ⅲ式相当

B 擦文土器（甕形）

B1: 擦文「前期」に相当するもの。

主として胴部上半に横走沈線のみを施す一群。

B1a: 軽い段により頸部を形成した無文もしくは数条の横走沈線を廻らすもの。

B1b: 多条の横走沈線を施すものもの。

B2: 擦文「中期」に相当するもの。

主として口縁部文様帯が未形成もしくは単調な刻みのみの一群。

B2a: 横走沈線を地文とし、刻文を重ねるもの。

B2b: 刻文のみものもの。

B2c: 無文のもの。

B3: 擦文「後期」に相当するもの。

主として口縁部文様帯を形成した一群。

B3a: 横走沈線を地文とするもの。

B3b: 綾杉文主体のもの。

B3c: 斜位、あるいは縦位の沈線で鋸歯状文、「X」字状文等を施すもの。

B3d: 胴部文様帯を3段以上に区画した上でⅦB3a~cの文様要素を施したもの。

B3e: 無文のもの。

B3f: 口縁部文様帯に数条の沈線を廻らせたもの。

C 擦文土器（坏形）

C1: 台部を有さないもの。

C2: 平底の低い台部を有するもの。

C3: 平底の高台部を有するもの。

C4: 上げ底の高台部を有するもの。

C4a: 口縁部に沈線を有するもの。

C4b: 体部に刻文を施すもの。

D 擦文土器（鉢形・壺形）

E ロクロ成形土器

E1: 甕形

E2: 壺形

E3: 鉢形

E4: 坏形

E4a: 軟質で内面黒色処理を施さないもの。

E4b: 軟質で内面黒色処理を施すもの。

E4c: 硬質で酸化炎焼成のもの。

E4d: 硬質で還元炎焼成のもの



## 2. 剥片石器

### ポイント類

長軸 4 cmを境に石鏃と石槍・石銛とを区分した。

#### A 「石鏃」

- 1 細身で薄手のもの。
- 2 無茎のもの。
  - a 平基。
  - b 凹基。
  - c 凸基。
- 3 明瞭な茎部をもつもの。
  - a 基部端が尖状。
  - b 基部端が丸状。
- 4 不明瞭な茎部を持つもの。

#### B 「石槍」・「石銛」

- 1 明瞭な茎部をもつもの。
  - a 基部端が平坦。
  - b 基部端が丸・尖り状。
- 2 不明瞭な茎部をもつもの。

#### C 欠損品・未製品

### 石 錐

- A 剥片の一部に機能部を作出したもの。
- B 柄と機能部の区別が明瞭なもの。
- C 柄と機能部の区別が不明瞭で幅広なもの。
- D 柄と機能部の区別が不明瞭で幅広でないもの。
  - 1 平面形が棒状のもの。
  - 2 平面形が紡錘形のもの。
- E 他石器からの転用品と思われるもの。

### ナイフ・スクレイパー類

縁辺に刃部が作出されたもののうち、素材の1辺に対し半分以上の範囲で刃部が形成されているもの。

#### A 「つまみ付きナイフ」

- 1 つまみ部軸線と体部軸線の角度が  $30^\circ$  未満のもの「縦型」。
- 2 つまみ部軸線と体部軸線の角度が  $30^\circ$

～ $60^\circ$  未満のもの「中間型」。

- 3 つまみ部軸線と体部軸線の角度が  $60^\circ$  以上のもの「横型」。

「縦型」「中間型」「横型」はそれぞれ以下の分類に分けられる。

- a 2 縁辺で構成。
- b 3 縁辺で構成。

- 4 素材剥片につまみを形成するもの。
- 5 つまみ付きナイフに分類されるが欠損のあるもの。

#### B 素材端部に刃部が形成されているもの。

##### 1 「ラウンド・スクレイパー」

- a 原石・転石面無。
- b 原石・転石面有。

##### 2 「エンド・スクレイパー」

- a 原石・転石面無。
- b 原石・転石面有。

#### C 素材端部に刃部が形成されていないもの。

##### 1 「サイド・スクレイパー」

- a 原石・転石面無。
- b 原石・転石面有。

##### 2 「コンケイブ・スクレイパー」

- a 原石・転石面無。
- b 原石・転石面有。

##### 3 「抉入石器」

- a 原石・転石面無。
- b 原石・転石面有。

#### D 続縄文時代に伴う「ナイフ状石器」

#### E 欠損品

- a 原石・転石面無。
- b 原石・転石面有。

### 両面調整石器

木葉形で刃部調整が見られないもの。

#### R. F・U. F

一縁辺の長さの半分以下の調整痕をもつものを R. F、使用による細かな剥離が見られるものを U. F とした。

### ピエス・エスキーユ

黒曜石製で両端に剪断面をもつもの。

### 石 核

剥片を剥離した母核。

## 3. 礫石器

## 石 斧

- A 磨製石斧
  - 1 短冊形
  - 2 撥形
  - 3 丸のみ形
  - 4 剥片素材のもの
  - 5 欠損品
- B 未製品 1：礫皮をほぼ残さず、研磨・剥離・敲打調整により完成に近いもの。
- C 未製品 2：調整痕は認められるが半分以上の礫皮を残すもの。
- D 未製品 3：調整痕は認められないが石斧素材礫と思われるもの。

## たたき石

敲打痕が面状に形成されるもので、素材礫の形状で細分類を行った。

- I 平面形が縦長のもの。
  - A 扁平のもの。
    - 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
    - 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
    - 3 1・2を並存するもの。
  - B 棒状または角柱状のもの。
    - 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
    - 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
    - 3 1・2が並存するもの。
- II 平面形が方形～不整形で幅広のもの。
  - A 扁平のもの。
    - 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
    - 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
    - 3 1・2を並存するもの。
  - B 棒状または角柱状のもの
    - 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
    - 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

3 1・2が並存するもの。

## III 平面形が円～楕円形のもの。

- A 扁平のもの。
  - B 球形または棒状のもの。
- IV 破片のため上記に分類不可のもの。
- V すり石と複合するもの。

## すり石

- A 断面三角形の礫の稜に擦り面のあるもの。
- B 断面楕円形の礫の側縁に擦り面のあるもの。
- C 扁平礫の側縁に擦り面があるもの。
- D 北海道式石冠
- E その他
- F たたき併用

## 砥 石

素材礫の形状が変形する使用面を有するもの。

## 滑沢面のある礫

素材礫の形状を変えず、平滑な面を有するもの。  
 線条痕はほとんど観察できない。

## 線条痕のある礫

肉眼観察において、明瞭な線条痕があるもの。

## 石皿・台石

便宜的に素材礫の重量が 900 g 以上で、素材礫の平坦面に擦痕・敲打痕があるもの。

## 加工痕のある礫

加工目的の剥離があるもので、剥離加圧（打点）部分に潰打面が形成されず、側面観が稜線状となるもの。

## 第5節 調査結果の概要

今回報告対象となる調査区は平成26～28年度に発掘調査を行った13,814㎡である(図I-3)。

### 1. III層

平成26年度は遺構、遺物が出土していない。平成27年度の調査区は、28ラインより東側と西側の2回に分けて樽前bテフラまで除去を行っている。北東側は一部広範囲にV層までの削平が認められるが、校舎や豚舎等の基礎部分以外III層は大部分が残存している。平成28年度は中位段丘面(T<sub>2</sub>面)をA区、高位段丘面(T<sub>4</sub>面)をB区として調査を行っている。B区は当初予定範囲境界から遺物が出土したため、常時満水ラインまで拡張を行って調査している。

遺構、遺物については平成27年度がIIIa層、IIIb層上位からは殆ど遺物が出土せず、IIIb層下位から擦文文化期の遺構、遺物を検出した。平成28年度はA区が畑造成のためIII層の大部分が削平され、包含層は段丘縁辺部とB区にのみで、B区に中世アイヌ文化期と推定できる集中区が認められる。

今回報告対象となる範囲からはIII層の遺構遺物は少量であるが、平成27・28年度の集中区4・5・7はいずれも河岸段丘の東側に検出し、広い段丘の一部を選択的に利用していることがうかがえる。その他集中区6とした範囲は段丘中央部に位置する。

集中区は焼土を伴うもの(集中区4・6・7)や遺物のみで構成されるもの(集中区5)があり、これまでの厚真町の発掘成果から前者は作業場で後者は捨て場と考えられる。時期は検出層位と遺物から低位段丘面の集中区5・6は擦文文化期に相当し、集中区4・7は中世アイヌ文化期と考えられる。その他は単体の焼土2ヵ所、杭跡3基、炭化物集中1ヵ所、続縄文文化期前期前葉・後葉、擦文文化期前期の土器集中が3ヵ所と全体的に希薄である。

これらの分布から考えると、中世アイヌ文化期も含め擦文文化期までは平成25年の調査結果から段丘先端部分を主体的に利用していたことが分かる。

### 2. V層

今回の調査では樽前cテフラ上位には縄文時代の土器は検出していない。平成26年度は耕作によりVb層上位まで削平を受けているが、平成27・28年度は大部分が樽前cテフラに覆われ良好な保存状態であった。

火山灰除去の段階では竪穴状の窪みは検出されず、遺物も疎らであったことから全体的に希薄であることが予想された。調査はIII層と同様の手順で開始しており、VI層遺構確認面で黒色土の落ち窪みを半截して調査を行った。また、平成28年度のB区は中位段丘面と並行して調査を行い、最終的にIII層と同じ範囲を調査している。遺構は3ヵ年合わせ竪穴式住居跡1軒、土坑墓1基、土坑8基、焼土9ヵ所、Tピット138基、土器集中21ヵ所、礫集中1ヵ所、剥片石器集中3ヵ所、石斧集中1ヵ所を検出している。焼土については攪乱と段丘崖に挟まれた地点に石組炉を1ヵ所検出したが、立ち上がりを確認できなかつたため屋外の炉跡と判断しV SF-04として調査を行った。時期については周辺の土器から北筒式期と思われる。その他遺構で特筆すべきものとしてはTピットの配列が挙げられる。これまでも多く検出されている遺構だが、今回の調査では厚真川段丘縁辺部の東側からシヨロマ川に面する西側段丘面に向かって弧状に配列が認められた。平面形は溝状を成すものが主体を占め、構築の際に掘り上げた樽前dテフラがTピットの覆土に認められる。このような検出状態から新旧関係や構築面が確認できる調

査となり、配列も時間差をおいて構築されていたことがわかる。

出土土器は中茶路式や円筒土器下層 d2 式、堂林式など各時期認められるが、柏木川式、北筒式土器が主体を占め、次いで余市式土器が多い。発掘調査範囲については、B 区とした高位段丘面（T<sub>4</sub>面）段丘崖から多量の段丘礫に混じって礫石器、土器などが少量出土することから北側斜面を拡張して遺物の分布を確認した。更に高位段丘面東側も当初調査区壁面まで遺物の分布が認められたため、事業者承諾のうえ試掘後に拡張を行っている。これらの調査結果を踏まえ、平成 27 年度の発掘調査終了後、道教委による高位段丘面の試掘調査を行った。平成 28 年度調査の B 区は常時満水まで拡張し、最終的に 1,277 m<sup>2</sup>の調査を行っている。

遺構、遺物の分布から台地の南側は縄文時代前期後半、後期初頭を主体とした集落跡であったが、北側は竪穴式住居跡 1 軒のみで遺物も希薄であるため狩猟場として利用されていたことが明らかとなった。(奈良)

表 I-2 ショロマ1遺跡 概要一覧表

項目	Ⅲ層						Ⅴ層						備考
	統縄・擦文・アイヌ文化期						縄文時代						
調査年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	H26~28年度計	H25~28年度計	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	H26~28年度計	H25~28年度計	
発掘調査面積(m <sup>2</sup> )	8,933	853	7,855	5,106	13,814	22,747	8,933	853	7,855	5,106	13,814	22,747	
住居跡	1	-	-	-	0	1	16	-	-	1	1	17	
集中区	3	-	3	1	4	7	-	-	-	-	0	0	
土坑墓	-	-	-	-	0	0	27	-	1	-	1	28	
土坑	3	-	1(1)	-	1	4	21	-	5	3	8	29	
灰集中	3(1)	-	-	-	0	3	-	-	-	-	0	0	
焼土	20(9)	-	5(3)	2(2)	7	27	27	-	4	5	9	36	
Tピット	-	-	-	-	0	0	50	8	79	51	138	188	
杭跡	-	-	3	3(3)	6	6	-	-	-	-	0	0	
杭列跡	1	-	-	-	0	1	-	-	-	-	0	0	
道 跡	1	-	-	-	0	1	-	-	-	-	0	0	
土器集中	2	-	3	-	3	5	15	2	5	14	21	36	
礫集中	8(4)	-	3(3)	3(3)	6	14	8	-	1	-	1	9	
剥片石器集中	-	-	-	-	0	0	-	-	2	1	3	3	
石斧集中	-	-	-	-	0	0	-	-	1	-	1	1	
土製品集中	-	-	-	-	0	0	2	-	-	-	0	2	
鉄器集中	1	-	-	-	0	1	-	-	-	-	0	0	
フレイク・チップ集中	-	-	-	-	0	0	4	-	-	3	3	7	
炭化物集中	2	-	1	-	1	3	-	-	-	-	0	0	
獣骨集中	3(2)	-	-	-	0	3	1	-	-	-	0	1	
遺物集中	1	-	1	-	1	2	-	-	-	-	0	0	
盛土範囲	-	-	-	-	0	0	1	-	-	-	0	1	

※ ( )の数字は住居跡または集中区に含まれる遺構

表 I-3 ショロマ1遺跡出土遺物一覧表

層位	細分類										合計
	土器	礫石器	剥片石器	土製品	石製品	鉄製品	石斧石器群削片	剥片類	礫	その他	
	P	ST	FT	PP	SP	IP	SFC	FC	S		
Ⅲ層	636	14	3	-	-	2	15	19	1,744	3	2,436
Ⅴ層	9,855	768	630	5	16	-	349	4,792	8,843	11	25,269
表採・攪乱	129	9	39	-	-	-	18	142	26	-	363
合計	10,620	791	672	5	16	2	382	4,953	10,613	14	28,068

(枝番等を含む遺物点数)

## 第6節 遺跡の位置

### 1. 厚真町の概要

#### A 地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁、北海道胆振総合振興局管内の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川流域に広がる、人口4,661人(平成29年12月現在)の農業の町である。町域の総面積は404.61km<sup>2</sup>で、流路52.3kmの二級河川厚真川水系と同入鹿別川右岸に広がり南北32.5km、東西17.3kmと細長く、南部は約6.5kmにわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。

北部は夕張市や由仁町と接し、夕張山地南端域の標高200~600mの山地が続き、町域総面積の約70%を山林が占めている。東は夕張山地から続く低い山地を挟んでむかわ町と接し、北西は標高100m前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯(以下、苫東)内で苫小牧市と接する。厚真の語源は3説ほどあるが、有力な説としてアイヌ語の「アットマム」(at-to-mam・向こうの湿地帯)で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという(厚真村1956)。

町内は大きく5つの地区に分かれ、沿岸部の浜厚真地区、厚真川下流域の上厚真地区、中流域の厚真市街地周辺、中流から上流域の富里・幌内地区、むかわ町と接し、入鹿別川流域の鹿沼地区がある。

以下に厚真川中流域から本遺跡が所在する厚真川上流域にかけての概略を述べる。

厚真町の中心市街地は厚真川中流域にあり、むかわ地区・穂別地区、平取、安平町早来地区、浜厚真方面への道道交差点に官公署や住宅地が形成されている。かつては、町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展してきた。また、平成3年に日勝峠を含む「石勝樹海ロード」が全面開通する以前は札幌方面から厚真町市街地を通過し、日高・十勝へ抜けるルートともなっていた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知決辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追丘陵南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中流域から上流域にかけては、厚真川は頗美宇川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。中流域最奥部の幌内地区は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部でもあり、本流とシュルク川、幌内川の3河川の合流点である。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、明治44年から昭和24年まで早来駅とを結ぶ軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く。山地は標高400m以上の頂部は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜で壮年期地形の様相を呈している。厚真川は夕張市、由仁町との1市2町の境界線付近、標高500m付近の夕張山地南域に源流部がある。

#### B 歴史的環境

##### (1) 先史時代

厚真町内には現在141ヵ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、後期旧石器時代から近現代の軌道跡やトーチカなどの第二次世界大戦時の戦争遺跡までの時期幅がある(図I-5、表I-4・5)。遺跡の分布傾向は開発行為の多寡に左右されるが、南部の苫東地区と北部の高丘・幌内地区にやや密集する傾向がある。他の市町村と異なる特徴として、これらの北部地区の遺跡

は安平町安平地区や夕張市紅葉山地区、むかわ町豊田・穂別・稲里地区に抜ける山越えルート上の遺跡と思われる。

時期的には上幌内モイ遺跡で後期旧石器（札滑型細石刃核等）のブロックが調査されている。縄文時代では浜厚真 3 遺跡で東釧路Ⅱ式土器がややまとまって出土している（道埋文 2003）。後続する東釧路Ⅲ式やコッタロ式土器が多量に出土する早期後葉の遺跡は、厚真川中流域以南に分布しており、上流域の幌内地区では、散発的な極少量の遺物が出土しているに過ぎない。上流域では、中茶路式期以降が遺跡の増加傾向にあり、厚真川流域において縄文時代の人の拡散を考えると、海岸部から内陸部への進出が想定できる。遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代前期前葉のトビノ式期～前期中葉の円筒下層 b 式期で、厚幌 2 遺跡（88）、オコッコ 1 遺跡（107）、幌内 5 遺跡（57）、ニタツナイ遺跡（104）、豊丘遺跡（69）、鹿沼 7 遺跡（99）などでは多量の被熱礫や哺乳網の焼骨片が出土しており、厚真町南部から北部に至るまで確認されている。この時期の遺跡は湧水地点に隣接する特徴的な立地で、鹿沼 7 遺跡や幌内 5 遺跡、ニタツナイ遺跡、オコッコ 1 遺跡では露頭や試掘調査で「盛土遺構」を伴うことが判明している。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭の北筒・余市式期で遺跡数がピークをとなる。縄文時代後期中葉から後葉にかけての遺跡数が激減し、晩期前葉に再び増加する傾向にある。続縄文文化期から擦文文化期前期にかけての遺跡数も少ない。このような各時期における遺跡数の偏りは隣接する苫小牧市の傾向と一致している。しかし、厚真町内では白頭山苫小牧火山灰（B-Tm・10 世紀前葉）降下以降の擦文中期以降に再び遺跡数が増加する点において、隣接する苫小牧市とは異なる様相を示している。アイヌ文化期についても、厚幌ダムや厚幌導水路建設事業に伴う発掘調査で 13 世紀以降 17 世紀中葉に至るまでの数多くの遺構・遺物が検出されており、中世アイヌ文化期の一様相の解明に期待が高まっている。

## (2) 町内における埋蔵文化財調査の概要

町内における埋蔵文化財の調査・研究・活用は、大正 5 年（1916 年）、現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を、教材として学校に保管する許可書が発行されたことが最初である（厚真村郷土研究会 1956）。これ以降、現在に至るまでを大きく 3 期に別けることが可能である。

### a. 厚真村郷土史研究会・埋蔵文化財の地域自主的研究（昭和 20 年代後半から 40 年代中頃）

元厚真村長 亀井喜久太郎氏が昭和 28 年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報での遺物紹介を行い、昭和 31 年には『厚真村古代史』を発刊した（厚真村郷土研究会 1956）。また分布調査なども積極的に行い、埋蔵文化財包蔵地カードの「調査・文献」には「厚真村郷土研究会」の記載で始まるものが 32 遺跡もあり、厚真町の文化財保護・研究に大きな功績を残している。

### b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センター・大規模発掘「苫東調査」（昭和 48 年から昭和 54 年）

昭和 48 年（1973 年）から苫小牧市埋蔵文化財調査センターによる苫小牧東部工業地帯の試掘・発掘調査が開始され、59 年までの 12 年間で厚真町域では新規登載 14 遺跡、調査着手 11 遺跡があり、縄文時代早期～擦文文化期までの資料が得られている。昭和 51 年調査の厚真 1 遺跡（苫小牧市教育委員会 1986）では、この地域で初めての T ピットが確認され、縄文時代中期中葉の「厚真 1 式土器」（赤石 1999）の標識遺跡でもある。厚真 7 遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居跡 8 軒、石狩川中流域を中心に分布する「丸のみ形石斧」も出土した（苫小牧市教育

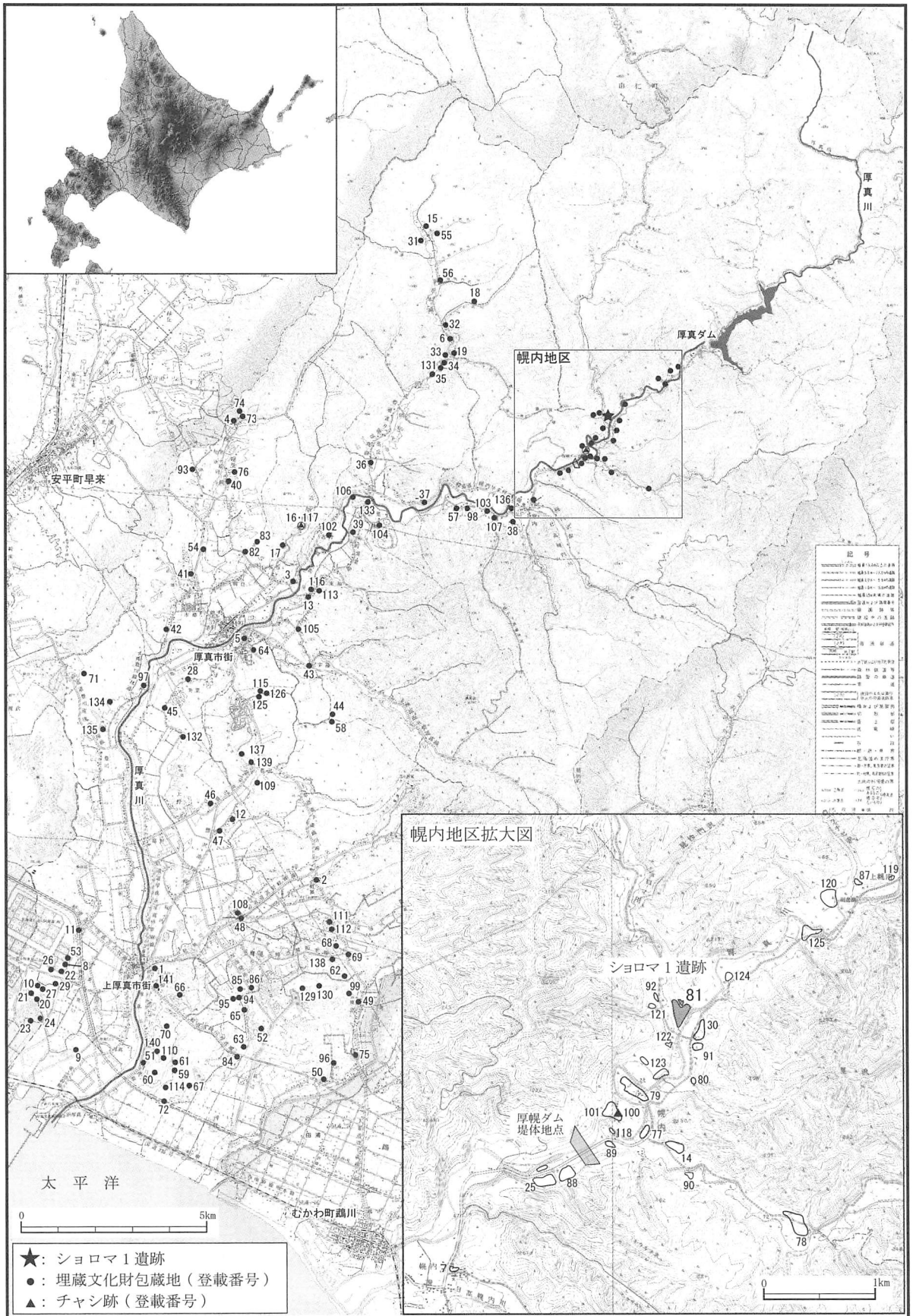


表 I -4 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1)

登録番号	種別	名称	時代	発掘調査年度
1	遺物包含地	上厚真遺跡	縄文中期、統縄文期、 擦文期	
2	遺物包含地	軽舞遺跡	縄文中期、統縄文期	
3	遺物包含地	朝日遺跡	縄文中～晩期、統縄文期、 擦文期、近代	2012・13
4	遺物包含地	幌里1遺跡	縄文中・晩期、統縄文期	
5	遺物包含地	新町遺跡	縄文早・中期、統縄文期、 アイヌ期	
6	遺物包含地	高丘1遺跡	縄文中期・統縄文期、擦文 期、アイヌ期	
7	遺物包含地	幌内1遺跡	縄文中・後期	
8	集落跡	共和遺跡	縄文晩期、統縄文期、 擦文期	1978
9	遺物包含地	浜厚真遺跡	詳細不明	
10	溝穴遺構	厚真10遺跡	縄文中・晩期	1977・78
11	遺物包含地	厚真11遺跡	縄文時代	
12	遺物包含地	豊沢1遺跡	統縄文期	
13	遺物包含地	東和遺跡	縄文後期	
14	集落跡	オニキシベ1遺跡	縄文早～晩期、擦文期	2012・13
15	遺物包含地	高丘3遺跡	縄文中期	
16	チャン跡	桜丘チャン跡	中世アイヌ期	
17	遺物包含地	桜丘1遺跡	縄文晩期	
18	遺物包含地	高丘2遺跡	詳細不明	
19	集落跡	高丘10遺跡	詳細不明	
20	集落跡	厚真1遺跡	縄文中期	1976
21	溝穴遺構	厚真2遺跡	縄文時代	1977
22	溝穴遺構	厚真3遺跡	縄文早～晩期、統縄文期、 擦文期	1978・79
23	集落跡	厚真4遺跡	縄文中・後期、統縄文期、 近代	
24	遺物包含地	厚真5遺跡	縄文時代、統縄文期	
25	集落跡	厚幌1遺跡	縄文早～晩期、統縄文期、 中・近世アイヌ期	2002・03 ・08・12・ 13・15
26	集落跡	厚真7遺跡	縄文早・中～晩期、統縄文 期、擦文期	1977・78
27	集落跡	厚真8遺跡	縄文早・中～晩期、 統縄文期	1977
28	溝穴遺構	美里2遺跡	縄文早・中期	
29	墳墓	厚真12遺跡	縄文早・後・晩期、擦文期	1979
30	集落跡	上幌内1遺跡	縄文早～晩期、統縄文期、 擦文期、中世アイヌ期	2014・16
31	遺物包含地	高丘4遺跡	縄文時代	
32	遺物包含地	高丘5遺跡	縄文時代	
33	遺物包含地	高丘6遺跡	縄文時代	
34	遺物包含地	高丘7遺跡	縄文中期	
35	遺物包含地	高丘8遺跡	縄文時代	
36	遺物包含地	高丘9遺跡	統縄文期	
37	遺物包含地	富里1遺跡	縄文中・後・晩期、アイヌ期	2015・16
38	遺物包含地	幌内4遺跡	縄文中期?	
39	遺物包含地	チコマナイ遺跡	縄文時代	
40	遺物包含地	幌里2遺跡	縄文中期	
41	遺物包含地	本郷1遺跡	縄文中・晩期	
42	遺物包含地	本郷2遺跡	縄文後期	
43	遺物包含地	宇隆1遺跡	擦文期	
44	遺物包含地	宇隆2遺跡	縄文後期	
45	遺物包含地	美里1遺跡	縄文中期	
46	遺物包含地	豊沢2遺跡	擦文期	

登録番号	種別	名称	時代	発掘調査年度
47	遺物包含地	豊沢3遺跡	統縄文期	
48	遺物包含地	鯉沼1遺跡	詳細不明	
49	遺物包含地	鹿沼2遺跡	縄文中期	
50	遺物包含地	鹿沼1遺跡	縄文早期	
51	遺物包含地	厚和1遺跡	縄文中期、アイヌ期	
52	遺物包含地	鹿沼3遺跡	縄文中・晩期	
53	溝穴遺構	厚真13遺跡	縄文早期	1980
54	遺物包含地	本郷3遺跡	縄文時代	
55	遺物包含地	高丘11遺跡	縄文晩期	
56	遺物包含地	高丘12遺跡	縄文時代	
57	墳墓	幌内5遺跡	縄文前期、近世アイヌ期	2009
58	溝穴遺構	豊沢4遺跡	縄文早・後期	
59	遺物包含地	厚和2遺跡	縄文中期	
60	遺物包含地	厚和3遺跡	縄文後期	
61	遺物包含地	厚和4遺跡	縄文中期	
62	遺物包含地	鹿沼4遺跡	縄文時代	
63	遺物包含地	厚和5遺跡	縄文時代	
64	遺物包含地	新町2遺跡	縄文後期	
65	遺物包含地	鹿沼5遺跡	縄文後期	
66	遺物包含地	厚和6遺跡	縄文前期	
67	遺物包含地	浜厚真2遺跡	縄文早期	
68	溝穴遺構	鯉沼2遺跡	縄文時代	1999・2000
69	遺物包含地	豊丘遺跡	縄文前期	
70	集落跡	厚和7遺跡	縄文後期	
71	集落跡	豊川1遺跡	縄文前～後期	2000
72	溝穴遺構	浜厚真3遺跡	縄文早期	2002
73	遺物包含地	ニタツポロ沢遺跡	縄文後・晩期	
74	遺物包含地	幌里神社遺跡	縄文時代	
75	溝穴遺構	入鹿別沼遺跡	縄文中期	
76	溝穴遺構	幌里3遺跡	縄文時代	
77	集落跡・墳墓	オニキシベ2遺跡	縄文中・後期、統縄文期、 擦文期、中世アイヌ期	2007・08
78	遺物包含地	オニキシベ3遺跡	縄文後期	2014・16
79	集落跡・墳墓	上幌内モイ遺跡	旧石器、縄文早・中～晩期、統 縄文期、擦文期、中世アイヌ期	2004・07
80	溝穴遺構	一里沢遺跡	縄文時代、アイヌ期	2014
81	集落跡	シヨロマ1遺跡	縄文前・後期、統縄文期、 擦文期、アイヌ期	2013・16
82	遺物包含地	東ニタツポロ1遺跡	縄文中・晩期	
83	遺物包含地	東ニタツポロ2遺跡	縄文中・晩期	
84	遺物包含地	浜厚真4遺跡	縄文中期	
85	集落跡	鯉沼3遺跡	縄文前～後期	2006・07
86	遺物包含地	鯉沼4遺跡	縄文後期	
87	遺物包含地	イクバンドユクチ 七遺跡	縄文後期	
88	溝穴遺構	厚幌2遺跡	縄文前期	2015・17
89	集落跡	オニキシベ4遺跡	縄文早・中～晩期、統縄文 期、擦文期、近代	2012
90	集落跡	オニキシベ5遺跡	縄文中期・後期	2010・11
91	集落跡・墳墓	上幌内2遺跡	縄文早～後期、統縄文期、 擦文期、アイヌ期	2014・16
92	集落跡	シヨロマ2遺跡	縄文早～後期	2013・14
93	溝穴遺構	幌里4遺跡	縄文時代	
94	集落跡	厚和8遺跡	縄文中・後期	
95	遺物包含地	厚和9遺跡	縄文中期	
96	遺物包含地	鹿沼6遺跡	縄文時代	
97	遺物包含地	豊川2遺跡	統縄文期、擦文期	



表 I-5 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2)

登載番号	種別	名称	時代	発掘調査年度
98	集落跡	幌内6遺跡	縄文前～晩期、擦文期、中世アイヌ期	2015
99	集落跡	鹿沼7遺跡	縄文早～晩期	
100	チャン跡	ラチャラセナイチャン跡	中世アイヌ期	2008・10
101	集落跡	ラチャラセナイ遺跡	縄文早～晩期、統縄文期、擦文期、中世アイヌ期	2008-12
102	遺物包蔵地	吉野1遺跡	縄文中・晩期	
103	集落跡	幌内7遺跡	縄文前～晩期、統縄文期、擦文期、中世アイヌ期	2008・15・16
104	集落跡	ニタツナイ遺跡	縄文前～晩期、統縄文期、擦文期、近世アイヌ期、近代	2007・08
105	遺物包蔵地	宇隆3遺跡	縄文中期	
106	集落跡	富里2遺跡	縄文後・晩期、擦文期、近世アイヌ期	2009
107	集落跡・墳墓	オコッコ1遺跡	縄文前～後期、擦文期、中世アイヌ期	2015・16
108	遺物包蔵地	軽舞2遺跡	縄文前期、統縄文期	
109	遺物包蔵地	豊沢5遺跡	縄文後・晩期	2016
110	遺物包蔵地	厚和10遺跡	縄文早・中・後期	
111	溝穴遺構	豊丘3遺跡	縄文早期	2017
112	遺物包蔵地	豊丘3遺跡	縄文中期	
113	遺物包蔵地	東和2遺跡	縄文晩期	
114	遺物包蔵地	浜厚真5遺跡	縄文後期	
115	遺物包蔵地	豊沢6遺跡	縄文早・中・後期	
116	遺物包蔵地	東和3遺跡	縄文早期	
117	遺物包蔵地	桜丘2遺跡	縄文中期	
118	遺物包蔵地	オニキシベ6遺跡	縄文早～晩期、統縄文期、擦文期	2012
119	溝穴遺構	イクバンドユクチセ2遺跡	縄文早・中～晩期	2013

登載番号	種別	名称	時代	発掘調査年度
120	集落跡	イクバンドユクチセ3遺跡	縄文中・後期、擦文期、中世アイヌ期	2013
121	集落跡・墳墓	シヨロマ3遺跡	縄文早～後期、統縄文期、擦文期	2013
122	集落跡・墳墓	シヨロマ4遺跡	縄文早・中・後期、統縄文期、擦文期、中世アイヌ期	2014
123	集落跡・墳墓	上幌内3遺跡	縄文中・後期、統縄文期、擦文期、中・近世アイヌ期、近代	2013・14
124	遺物包蔵地	上幌内4遺跡	縄文中期、中世アイヌ期	2014-16
125	溝穴遺構	上幌内5遺跡	縄文時代	2013・15・16
126	遺物包蔵地	豊沢7遺跡	縄文中・後期	
127	遺物包蔵地	豊沢8遺跡	縄文後期	
128	遺物包蔵地	ライカルマイ遺跡	統縄文期、擦文期、中・近世アイヌ期、近代	2010・11
129	遺物包蔵地	長沼1遺跡	縄文早期	
130	遺物包蔵地	長沼2遺跡	縄文中期	
131	遺物包蔵地	高丘13遺跡	縄文前期、擦文期	
132	遺物包蔵地	上野1遺跡	縄文中期	
133	遺物包蔵地	富里3遺跡	縄文中・晩期、中・近世アイヌ期	2015
134	遺物包蔵地	豊川3遺跡	縄文晩期	
135	遺物包蔵地	三ヶ月沼遺跡	縄文晩期	
136	遺物包蔵地	幌内8遺跡	縄文前・中期	
137	遺物包蔵地	豊沢9遺跡	縄文時代	
138	溝穴遺構	鯉沼5遺跡	縄文時代	
139	遺物包蔵地	豊沢10遺跡	縄文後期	2017
140	溝穴遺構	厚和11遺跡	縄文時代	
141	溝穴遺構	厚和12遺跡	縄文時代	

委員会 1987)。共和遺跡では苫東地区内で唯一の擦文文化期前期の竪穴式住居跡 2 軒を調査している(苫小牧市教育委員会 1987)。

c. 開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業の開始(平成 12 年以降)

平成 12 年(2000 年)道教委による豊川 1 遺跡、鯉沼 2 遺跡の調査が行われたほか、平成 14 年には道埋文によって高規格道路日高自動車道の建設に伴う浜厚真 3 遺跡が調査され、187 基の Tピットが検出されている(道埋文 2003)。

平成 12 年にはダム事務所より厚幌ダム建設事業に係る事前協議書が提出され A・B 調が開始された。発掘調査は平成 14 年から町教委により継続的に行われ、平成 24 年度からは道埋文も本事業の調査に入り、平成 28 年度までの 15 年間の調査総面積は 202,749 m<sup>2</sup>である。

平成 15 年には総延長 24.5km に及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が提出され、平成 19 年度から発掘調査が開始され、厚真川上流域厚幌 1・2 遺跡、厚真川中流域富里地区のニタツナイ遺跡、富里 1・2・3 遺跡、幌内地区の幌内 5・6・7 遺跡やオコッコ 1 遺跡、下流域の豊沢 5・10 遺跡、豊丘 2 遺跡の 15 ヶ所で発掘調査が行われた。

これらの大規模開発に伴う発掘調査は、平成 30 年秋頃までを予定し、31 年度に整理業務を終え、厚幌ダム、厚幌導水路建設事業に係る一連の埋蔵文化財発掘調査業務を完了する予定である。



図 I-6 周辺の遺跡と地形面区分図

### (3) 歴史時代

厚真町に係わる最初の記述は、1692(元禄5)年に書かれた『続々類従本蝦夷記』でシャクシャインの戦いにおいて「於多久見具印住處阿津摩ニテ討取ル」というものである(野澤1692)。その後、寛政年間(18世紀末)に八王子千人同心等数名の和人が浜厚真に移り住むが定住することはなかった。近世アツマ場所の産物としては、干鮭や椎茸、シナ縄が記されているが、詳細な記述はなく、紀行文や測量日誌に交通路であった勇払と鶴川間の厚真川河口周辺や千歳と日高間の富里地区の簡単な記述に留まっている。

内陸部まで詳述したものは、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』(松浦・吉田1962、松浦・高倉1985)で、1857(安政5)年6月に勇払から厚真川河口を経てトンニカ(現富里)にて3泊している。この時、町内にはアツマ(厚真河口)、キムンコタン(現厚和・厚和1遺跡)、シナイ(現新町・新町遺跡)、チケツへ(現本郷)、トンニカ(現富里)、ニタツナイ(現富里・ニタツナイ遺跡周辺)の5ヵ所のコタンが記録されている。この中で比較的規模の大きいキムンコタンやトンニカコタンでは、粟、稗、隠元、蕪などの畑作が盛んで、漆器や刀剣類の宝物が多く、これまでの地域とは別格として記している。しかし直前に発生した厚真川の氾濫によって、畑地のほとんどが流されていることも記されており、かつてより洪水の多い河川であったことが伺える。上流部に関しては聞き取りによるもので、夕張方面への交通路やシカやワシ・タカ類の狩猟に関する記述がある。武四郎の日誌からは、上流域におけるこの時期の集落跡は存在せず、無人地帯となっていたことがわかり、中世アイヌ文化期から近世アイヌ文化期にかけて厚真川流域における社会・集落構造の変容が分かりつつある。

これらの記録以前のアイヌ文化期については、厚幌ダム水没地域内の試掘・発掘調査で確認された上幌内モイ遺跡、オニキシベ2遺跡、ヲチャラセナイチャシ跡、富里2遺跡、ニタツナイ遺跡などのほか、新町遺跡では昭和20年代の公営住宅建設時に、厚和1遺跡、幌内5遺跡では耕作営農により近世アイヌ土坑墓が単独で発見されている。

近代以降の明治時代以降は、明治3年(1870年)に新潟県人青木与八が浜厚真へ移住したのが、本町における和人参住の始まりとされている。アイヌ民族に係わる明治時代の記録としては、明治21年(1888年)に北海道庁から農業指導技師が来町し、勸農政策という名目で厚和地区キムンコタンから吉野地区への強制移住があったことが厚真村史に記されている。本格的な和人参植は、明治24年ころからで明治30年(1897年)に苫小牧外16ヶ村から分離独立し、行政単位としての厚真村が誕生する。以降、農業開拓の様々な苦労を経て現在の穀倉地帯の厚真町へと発展していく。

なお、ニタツナイ遺跡と上幌内3遺跡においてアイヌ民族の伝統を残す近現代の住居跡が調査報告されている(町教委2009・道埋文2017)。

## 2. 遺跡の位置と周辺環境

### A 地理的環境(図I-5)

遺跡の周辺地域を幌内市街地より厚真川上流域で現存する厚真ダムまでの範囲は行政区画上、厚真町字幌内地番であるが、以後、便宜的に「厚幌地区」と称する。厚幌地区には比較的大きな支流である鬼岸边川、シヨロマ川がある。分水嶺を介して鬼岸边川は東方の鶴川水系キナウス川のむかわ町豊田地区へ、本遺跡が所在するシヨロマ川は分水嶺を越えて石狩川水系夕

張川支流於兔牛沢川の夕張市滝之上地区へのルートが想定される。この他、ショロマ川との合流点より約 4.8km 上流、厚真ダム左岸の支流メルクンナイ川も鶴川水系むかわ町穂別地区へのルートとして考えられる。厚幌地区は標高約 150~250m の山頂に囲まれ、厚真川が浸食開折した谷状の地形で緩やかに傾斜する“線状”の地域となっており、遺跡群は流域に形成された河岸段丘上に立地している。厚真川流域の段丘面は上流~中流域まで発達し、厚真川上流域の上幌内モイ遺跡周辺の段丘面を標識として  $T_0$ ~ $T_5$  面に細分されている（出穂 2006）。本流河川面との比高差や支笏、恵庭、樽前の各火山灰の堆積状態から離水時期がわかり、他地域よりも詳細に把握することができる。支流域まで含めた詳細な検討はされていないものの、概ね連動していると思われる。

本遺跡は夕張山地南端部、厚真川河口から約 35.6km に位置し、厚真川とショロマ川の合流点より上流 180m の右岸に所在している。ショロマ川の水源地は直線距離で北北東側約 9.3km、由仁町との境界にある標高約 494m 峰を水源とする。本遺跡の北東約 4.5km に位置する 436m 峰から半島状に突出した山塊先端部の段丘面  $T_2$ （現地表面標高約 68~71m）と  $T_1$ （現地表面標高約 65m）に形成されている。段丘面  $T_2$  は先端部から厚真川本流沿いの北東方向に約 530m、幅約 90m とショロマ川沿いの北北西方向に約 280m、幅約 50m の範囲の北へ開く鉤状に段丘面  $T_2$  が形成されている。上流部側には標高 217m 峰を頂点とする崖面からの崩落再堆積物が段丘面を覆っており、沖積錐地形が発達している。この段丘面  $T_2$  南端部に北西-南東軸を長軸とする 12m×7m の狭小な低位段丘面  $T_1$  が形成されている。なお、南東に隣接する厚真川との比高差は段丘面  $T_1$  で 5m、段丘面  $T_2$  で 10m 前後となっている。

周辺環境として厚真川とショロマ川との合流点に面する本遺跡の北側には標高 85m 前後の段丘面  $T_4$ 、標高 95m 前後の段丘面  $T_5$  が続き、標高 290m の山頂へと続く山体がある。ショロマ川を挟んだ北西には標高 300m 前後の南北に連なる山稜があり、東側には標高 200~260m の山体によって三方向を囲まれている。本遺跡の南から南西方向にかけては広い段丘面が形成され、谷状地形によって日照条件は好条件となっている。

## B 歴史的環境

厚幌地区には、後期旧石器時代から中近世アイヌ文化期までの時期にわたる 24 遺跡が所在する（図 I-1）。最上流のイクバンドユクチセ 2 遺跡（J-13-87）は厚真川の河口より約 37km の地点にあるが、さらに約 1.5 km 上流に位置する厚真ダム堤体付近にも遺跡が所在していたという。全ての調査が終了し、本地区の特徴が見え始めている。時期的な特徴として縄文時代の遺跡は中茶路式以降であり、これ以前の東釧路系土器群や貝殻文系土器群はほぼ皆無に近い。また、中茶路式と東釧路Ⅳ式土器がセットとなって出土し、これらに石英結晶粒を多量に含む富良野盆地系土器が伴う。これに対し、厚真川中下流域や苫小牧市苫東地区での試掘・発掘調査ではコッタロ式や東釧路Ⅲ式、貝殻文・条痕文系土器群の遺跡が確認されており、厚真川流域においては海岸部から上流域への縄文文化の進入拡散が想定される。継続する縄文前期前半期も遺跡や出土遺物が少ない傾向にあり、本地域での遺跡数や遺構数増加は縄文時代前期後葉の植苗式から円筒土器上層 a 式期にみられ、平成 20~24 年度にかけて発掘調査したヲチャラセナイ遺跡も当該期の集落跡である（町教委 2013・2014）。また縄文時代後期初頭から前葉にかけての余市式土器群も各遺跡から出土しており、この時期の富良野盆地系土器も多産してい

る。時期の偏りが見受けられると同時に富良野盆地系土器が伴う特徴も見逃せない。また擦文文化期中期後半以降、中世アイヌ文化期に至るまでの遺跡数も多い。発掘調査が行われた遺跡は本遺跡のほか、厚幌1遺跡、上幌内モイ遺跡、オニキシベ2遺跡などがあり、平成20・22年度にはヲチャラセナイチャシ跡も全面発掘調査されている。しかし、17世紀前葉以降のアイヌ文化期の遺跡数は極端に減少し、本地区での寛永通寶や煙管の出土例は今のところ確認されていない。1667年降下の樽前bテフラを直接被覆する大木に伴うシカ送り場跡が確認されていることから、本地区は集落居住域から後述する狩猟区域として位置づけを変えていった可能性が見えてきている。

### C 松浦武四郎の記録とアイヌ語地名

この地区でのアイヌ文化に係る記録としては、先述の松浦武四郎の記録が最も古い。本地区にはヲチャラセナイやカニシユウ（現一里沢遺跡）、ヲニケレベ（現鬼岸边）、シヨウロマ（現シヨロマ）、メルクンナイなどの多数の地名が記載されている。特徴としては、「ル」（路）の付く地名が多く、複数の山越えルートが存在する地域でもある。厚真川から鶴川水系へは厚真ダム左岸のメルクンナイ～鶴川水系穂別川へのパンケオビラルカ川へ、鬼岸边川～良樹ノ沢（ルーマキウシ）～鶴川～パンケルベシベ川～沙流川水系オサチナイ沢川へのルートが想定される。

シヨロマ（現シヨロマ川）も厚真村史では「草ソテツの群生するところ」とあるが、ソ（滝）・ル（路）・マ（泳ぎ渡る）とも読み取れる。明治29年発行の地形図には「シヨルマ」と記載されており、かつては滝瀬の中を馬車道として木材や木炭を運び出したこと、明治・大正期の夕張山地への熊狩の記録（厚真村史1956）から、夕張川水系滝ノ上地区於兔牛（おそうし）へのルートが想定される。現在は「厚真川林道」で通り抜けることが可能である。

これらのルートは厚真川本流とオニキシベ川との合流点付近で1本となり、対岸に位置するヲチャラセナイチャシ跡は早来方面と鶴川流域、沙流川流域や日高方面、夕張方面への全てのルートが把握できる地点に立地している。人やモノの流れにおいて厚幌地区が重要な位置にあったことも容易に想定でき、考古学的にも縄文時代早期からの富良野盆地系土器や道東北地域の縄文土器、黒曜石原石、豊富な金属製品の出土がその証拠ともなろう。

シヨロマ川流域に関する武四郎の記述は「西岸川巾五六間、急流峨々たる山の間より落来るとかや。是滝川に成るより号るとかや。」と記され、この流域について「マタヤツチセ 是冬分鷲、熊等を取に來りし時の小屋」、「ソウ 滝に成て此処に落る。少し此辺より上一面の榎木立に成り」、「ベンケヤツチセ 是も獵師の立置処～中略～うしろはユウハリのソウホコマナイのうしろに当るとかや」と3つの地名等を書き記している。この記述からも夕張へのルートの他、鷲鷹、熊猟の地域でもあることが記されている。なお、ユウハリのソウホコマナイ（草木舞川）には夕張市滝ノ上チャシ跡が所在している。（乾）

## 3. 調査区内の地形と地質

### A 地形

平成26～28年度に調査した発掘区の標高は68～85mで、大きく段丘面T<sub>2</sub>（標高約70m以下；A区）と段丘面T<sub>4</sub>（標高約82m以上；B区）に大別できる（図I-6）。

T<sub>2</sub>面はⅧ層の樽前dテフラ降下以前に離水した段丘面であるが、イベント堆積物の洪水堆積

層 VII 層（再堆積層：スコリア（Ta-d1）主体、軽石（Ta-d2）主体）が 26～28 年度調査区では ショロマ川に沿って、A 区の北西側から厚真川に向かって堆積していた。VIIb+c 層以下が堆積している地点は、降下火山灰層である Ta-d 層（VIII 層）は堆積していない。Ta-d 降下以降に大規模な土石流がショロマ川沿いに発生し、降下 Ta-d 層を削剥したと考えられる。さらに、洪水最終段階に起こる滞水によって、Ta-d2 を起源とする、ローム化したシルト層（VIIa 層）が VIIb+c 層以下の洪水堆積物層を覆っているほか、VIIb+c 層以下が分布する縁辺部の VIIIa 層を覆って堆積している。VIIa 層上面の標高は、TP-53・58（0-43 区、P-42 区）で 69.7m、TP-175（S-39 区）で 69.1m、TP-120（T-37 区）で 68.9m、TP-117・118（Z-24 区）で 68.7m、TP-100（Y-15 区）で 68.5m と ショロマ川の下流に向かって標高を下げている。このことも、ショロマ川に沿って洪水が発生したことを裏付ける。VIIa 層は降下した Ta-d 層が存在する区域も被覆しており、上述した、TP-107・111 付近から北東の、厚真川に沿う段丘の後背湿地状をなす沢状地形の部分を広く覆っている（図 I-7）。これが、Ta-d 降下以降の第 1 のイベントである。

厚真川・ショロマ川に沿った段丘浸食崖はさらに VII 層下位の段丘礫層なども削剥し、ショロマ 1 遺跡の南端に位置する、段丘面 T<sub>1</sub> では VII 層を削剥し、VI 層以上が残っていた現状であり、中茶路式土器以降の遺物が検出されている（町教委 2015）。よって、段丘面 T<sub>1</sub> の離水は Ta-d 降下後比較的早い時期に起こったことと考えられ、中茶路式土器の年代から、おおよそ 7,000～8,000 年前の第 2 のイベントとして捉えられる。

なお調査区東側の北部は厚真川と接しており、現在も浸食が進んでいる。

平成 26～28 年調査区の中央部から東側は、昭和 35～47 年まで旧上幌内小学校があり、校舎・教員住宅等の建設やグラウンドや周辺施設の造成によって、III 層の広い範囲が削平を受けていた。昭和 47 年に撮影された航空写真では、校舎の北東側に長い建物が 2 棟あり、豚舎として使われていた。豚舎の周辺はさらに攪乱が著しく平成 27 年度調査区の北東側では VIII 層上面まで削平が進んでいた。また、平成 28 年度に調査した A 区の北西側は、畑の造成によって削平されており、一部では表土層を除去した段階で VIII 層が露出した地点もあった。

平成 28 年度は当初予定していた A 区に加え、B 区の調査が加わった。B 区は A 区より約 13m 高い位置にあり、前述したように T<sub>4</sub> 面に相当する。B 区の尾根上の部分には恵庭 a 降下軽石（En-a）層が残存しており、En-a 層の周囲は樽前 d 降下火山灰層同様、削剥されていることが分かった。地質については、次項で述べる。

B 区の調査は常時湛水面標高 85.4m 以下の区域について行い、遺跡自体はさらに奥（北）に延びる可能性がある。

## B 地質

図 I-8 に平成 26～28 年度調査区の基本層序を示した。平成 28 年度 A 区の基本層序が Y-31 区付近（段丘面 T<sub>2</sub>）であり、B 区の基本層序が Q-25 区（段丘面 T<sub>4</sub>）である。

本遺跡は旧上幌内小学校等の造成によって現代の攪乱を受けており、III 層の残存状態は良好とは言えない。このため、近世アイヌ文化期以降に堆積した樽前山、駒ヶ岳のテフラや上層黒色土 III 層は削平等によって広範囲に遺失している。通常は表土層直下に II a 層の樽前 a テフラ（Ta-a・1739 年降下）や II d 層の樽前 b テフラ（Ta-b・1667 年降下）が面的に堆積し、2 層の間に II c 層の駒ヶ岳 c2 テフラ（Ko-c2・1694 年降下）が不連続に挟在している。また、樽前 b テ

フラの直下には有珠 b テフラ (Us-b・1663 年降下) が数ミリ程度の層厚で確認できるところもある。これらの近世アイヌ文化期の火山灰層は通常 20~30cm の層厚で堆積している。近世火山噴出物以下に遺物包含層となる黒色腐植土Ⅲ層、Ⅴ層と、その間にⅣ層の樽前 c テフラ (Ⅳ層 Ta-c・B.P. 2500 年前後に降下) が堆積している。さらにⅥ層の下には樽前 d テフラ (Ⅷ層 Ta-d・B.P. 8000 年降下) と Ta-d 起源の再堆積層 (Ⅶ層) が堆積している。Ⅷ層は d1 と d2 の 2 層のユニットで堆積しており、樽前山起源の噴出物が計 4 層堆積している。このほかⅢ層中に白頭山苦小牧火山灰 (B-Tm・10 世紀前半降下) が倒木痕の窪み等に厚く堆積している。

縄文晩期後半以降の遺物包含層であるⅢ層黒色腐植土層は、色調や火山灰の混入比率によりⅢ層を a~c まで 3 層に分層している。Ⅲ層出土の遺物はⅡ層とⅣ層のテフラに保護されていたことから、ほぼ原位置を保って出土することが多く、このような層位認識は厚真町における発掘調査で、平成 14・15 年度に調査した厚幌 1 遺跡と平成 16 年度から調査に着手した上幌内モイ遺跡での調査成果によって確立した層位認識、調査方法である。

黒色腐植土Ⅴ層は、他の遺跡と比べて全体的に発達度合いが良く、20~40cm と厚く堆積していた。本層もⅣ層の混入で黒褐色を呈するⅤa 層、中位の黒色土をⅤb 層、下のローム質土を漸移的に含み、黒褐色を呈する下位層をⅤc 層として分層した。本遺跡においてⅤc 層中にはⅨ層起源の角礫シルト岩や砂岩の亜角礫を含む特徴があった。Ⅴb 層は調査掘削回数を目安にⅤbU~ⅤbL 層の 3 つに分けて遺物を取り上げており、概ね縄文後期以降の遺物はⅤb 層上位 (ⅤbU)~Ⅴa 層より出土している。Tピットの掘り上げ土と考えられる Ta-d を多量に含む土壌も、Ⅳ層を除去した段階で検出される場合が多い。

平成 27 年度に、段丘面 T<sub>4</sub> 裾部を調査している段階で、斜面裾部から段丘礫層に混じり、剥片石器・フレイク・チップ類の他、土器片が少量出土した。この段階では、後述する地すべりの痕跡は見いだせなかったが、平成 28 年度の調査区域東端から、上述した B-Tm 上とⅤ層中に崖錐堆積物層を検出した (図 I-19)。崖錐堆積物が多くみられる位置は、B 区の谷状地形をなす区域の下にあたり、谷状地形から滑落したものと思われる。LS-03 (崖錐堆積 03) の断面を見ると、Ⅲ層中の崖錐堆積物は B-Tm 堆積後に、Ⅴ層中の崖錐堆積物はⅤb・c 層を挟んで大きく 2 層に分けられる。上層の 11~13 層はシルト岩を含む程度であるが、下の 14 層以下はシルト岩のほか、Ta-d を含んでいる。このことから、下の崖錐堆積物は Ta-d が降下した後に堆積したもので、厚幌 1 遺跡の地すべり堆積物下の腐植土の年代 (較正年代 5,400 年前 田近ほか 2004) と同時期のものと考えられる。LS-03 の北東約 5m に位置する TP-184 は、前述した下の Ta-d を含む層の上から掘り込まれており、堆積した時期と矛盾しない。

Ⅵ層は黒色腐植土のⅤ層と下層のⅦ・Ⅷ層との漸移層である。本層より縄文時代早期後葉の中茶路式や末葉の東釧路Ⅳ式土器が出土している。他の遺跡においても同様の出土例が多数ある。本地区における黒色腐植土層の発達開始時期が概ね縄文時代前期からで、Ⅵ層は下層のⅦ層やⅧ層に植物の根による落ち込みや色素の移行によるものである。

Ⅶ層は、水成再堆積層と考えられる a 層、ラミナ状の堆積が見られる b+c 層 (互層堆積) と、Ta-d2 テフラ主体の c 層、段丘堆積砂主体の d 層、亜角礫主体の e 層に分けられる。図 I-7 に排土坑の断面を示したが、Ⅶ層はⅧ層以下の段丘礫層も削剥している。

Ta-d 主体のⅧ層は、上層の降下スコリア (Ta-d1 : Ⅷa) 層と下層の降下軽石 (Ta-d2 : Ⅷb)

層に分けられる(町田・新井 1992)。VIIIb 層は周氷河現象の一つである凍結擾乱のクリオターベーション(宮田 1988)によるグライ化が進み、白色化した部分も見られる。樽前 d テフラ降下以降も寒冷、冷涼な気候環境下であったことを示唆する重要な堆積構造と思われる。これが、厚真川上流域周辺の局所的な現象か課題は残るものの、新千歳空港建設に伴う美沢川流域遺跡群の発掘調査で確認されている樽前 d テフラ下層の III B 層とする黒色土が堆積していないこと、V 層黒色土発達の開始時期も縄文前期以降と思われることもこれに符号する。さらに VIII b 最下層には黄褐色のシルト層や褐鉄鉱層がみられ、VIIIb 層が沈殿化したものと思われるため、VIIIc 層として区分した。VIIIc 層は VIIIb 層の下にのみ存在する。

A 区(T<sub>2</sub>面)では、VIIIc 層の下は砂・En-a パミスを含む粘土質シルト層・段丘礫層に続く。B 区の層位や後期旧石器文化の遺物が出土した上幌内モイ遺跡の層位と分別するため、A 区ではこの層を IXd 層とした。

B 区では、上述した VIII 層以下に IXa~c 層、X、XI、XII、段丘礫層が続く(図 I-9)。

T<sub>4</sub>面の離水時期は、支笏降下軽石(Spfa-1)の堆積を確認できず、En-a パミスを確認しているので、Spfa-1 の降下以降、En-a パミス降下以前と考えられる。

B 区東側の旧道の露頭を見ると、新第三系軽舞層板状泥岩層の上位に、段丘礫層、灰褐色火山灰質砂質泥層が堆積している。それらの上位に後述する En-a パミス層他が堆積している(第 IV 章第 6 節参照)。

B 区は V 層遺構調査が終了した段階で、旧石器確認のためのトレンチ調査を行った。断面観察では VIIIb 層の下位に VIIIc 層は顕著にはみられない。T<sub>2</sub>面と異なり滞水したことがなかったため沈殿化が顕著に起こらなかったことが原因と考えられる。VIIIb 層下位のグライ化による白色化は顕著で連続した褶曲が見られる。

VIII 層の下位には IX 層が存在し、a~c 層に分けられる。IXa 層はローム層で、上幌内モイ遺跡の後期旧石器時代遺物包含層に相当する。IXb・c 層は、En-a パミスを含むシルト層で、b よりも c 層が、En-a パミスをやや多く含み、色調も暗い。その下位に IXd 層があり、砂・En-a パミスを含み、上記の 2 層より暗い色調である。基本的な層序は上記のとおりであるが、構成物の差異・粒度等から現地ではさらに細かく分層した。

X 層は En-a パミス層を切っており、降下後の土石流等の氾濫によって形成されたと思われる。En-a パミス (IX 層に含まれるパミス粒よりは極端に細かい) や、羊蹄軽石・スコリア 3 (Yo-ps3) に起因する黒色の砂が縞状の堆積をなしている。B 区東側にはわずかに En-a パミス層 (XI 層) の上位にみられ、西側では緩やかな谷状地形に沿って厚く堆積している。谷状地形には En-a パミス層 (IX 層) は存在しない。本層も構成物の差異・粒度等からさらに細かく分層した。クロスラミナ状の堆積を見せる箇所もあり、洪水による氾濫堆積物の様相を見せる。

XI 層は、En-a パミス層である。B 区では、尾根上にのみ分布している。

En-a パミス層の下位と、谷状地形の X 層の下位には、X 層と類似した色調を見せる XII 層が存在する。砂・シルト層が縞状に堆積し、絹糸状発泡の Spfa-1 パミスを含む。X 層同様、支笏軽石が降下した後に土石流ほかの氾濫によって形成されたものと思われる。

XII 層以下は、トレンチ調査では確認していないが、B 区東側の崖面の観察から上述した段丘礫層に続いていくものと思われる。Spfa-1 は調査区内では確認できなかった。(宮塚)



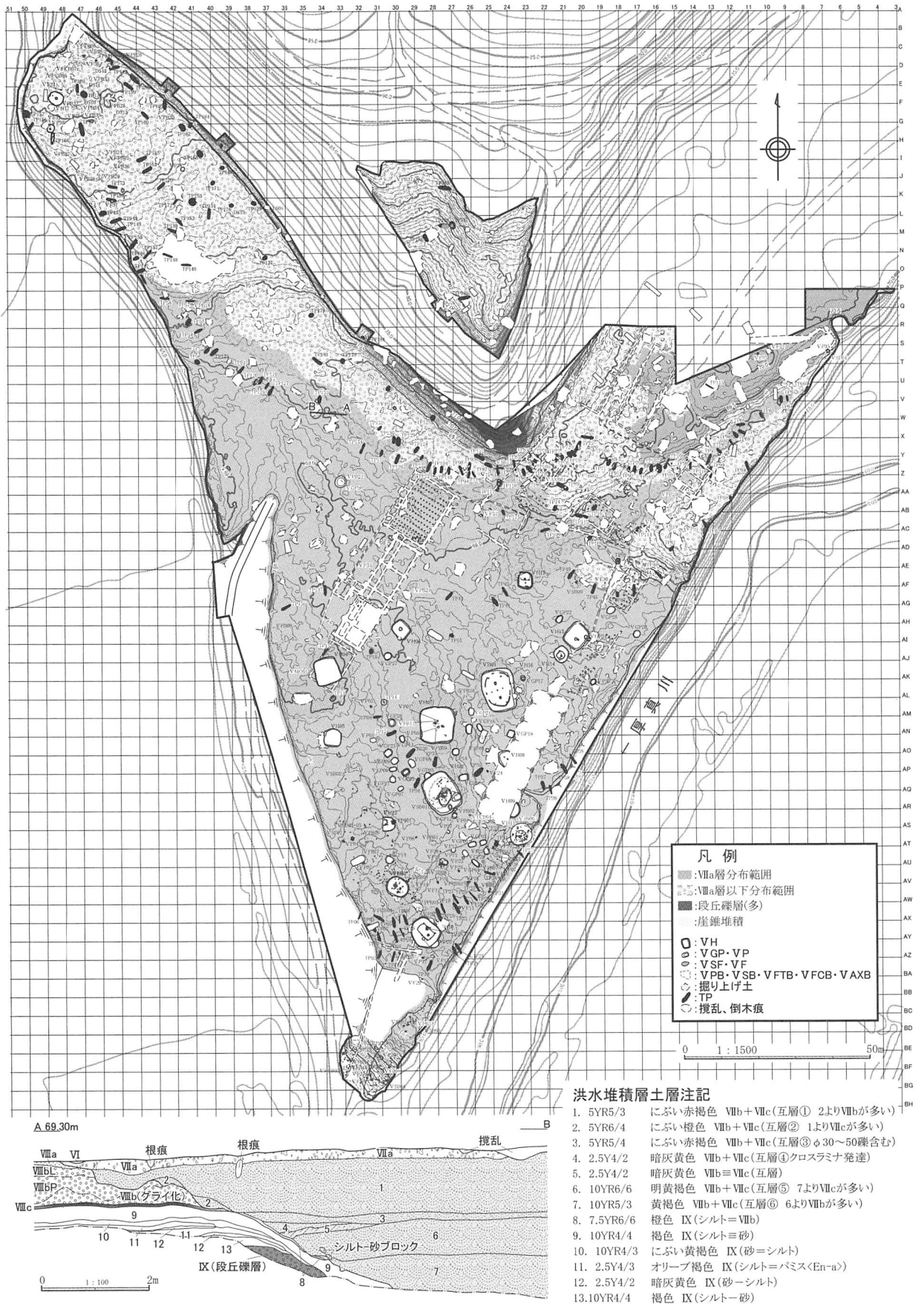
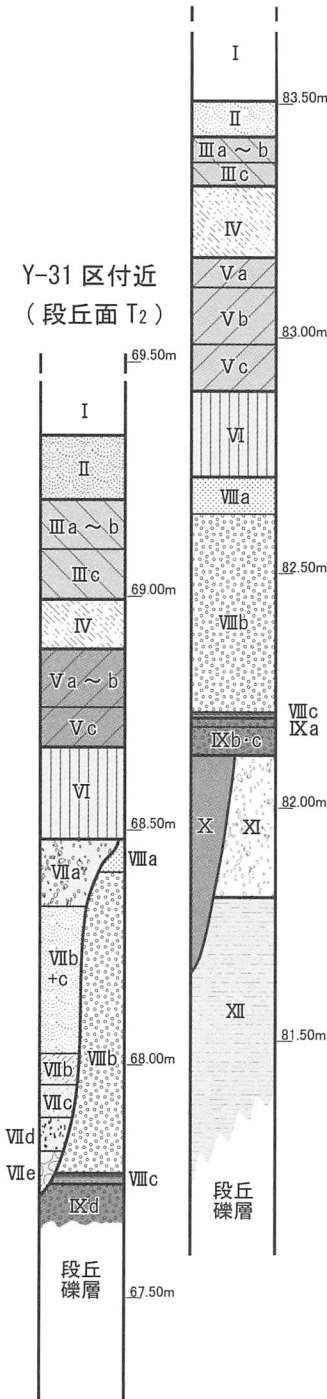


図 I-7 VIIa・VIIIa層分布範囲図

〔シヨロマ 1 遺跡基本土層〕

Q-25 区付近  
(段丘面 T<sub>4</sub>)

Y-31 区付近  
(段丘面 T<sub>2</sub>)



- I 層 : 近現代表土 7.5YR3/1 黒褐色砂質土
- II 層 : 近世火山噴出物及び黒色砂質腐植土  
 a ; 樽前 a テフラ (Ta-a) 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂質降下火山灰 1739 年降下。部分的に堆積。層厚 5cm 前後。  
 b ; 黒色砂質腐植土層 10YR2/1 黒色 新千歳空港 (美沢川流域の遺跡群) の調査における 0 黒層相当。  
 c ; 駒ヶ岳 c2 テフラ (Ko-c2) 10YR8/3 浅黄橙色 砂質降下火山灰 1694 年降下。II 層中において部分的に堆積している。  
 d ; 樽前 b テフラ (Ta-b) 2.5YR7/3 浅黄色 細礫質降下軽石 1667 年降下。層厚 20cm 前後。
- III 層 : 黒色腐植土  
 新千歳空港 (美沢川流域の遺跡群) の調査における I 黒層相当。  
 a ; 砂質シルト 7.5YR2/1 黒色 II d 層を斑状に含む。層厚 1cm 前後。やや赤味あり。近世初頭遺物包含層。  
 b ; シルト 10YR1.7/1 黒色 やや粘性あり。層厚 15cm 前後。上位から中位が中近世アイヌ文化期遺物包含層。下位が擦文文化期包含層。III b 層と III c 層との層境に白頭山小牧火山灰 (B-Tm シルト質降下火山灰 10c 前半降下) が部分的に堆積する。  
 c ; 砂質シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚 5cm 前後。擦文文化期～縄文晩期後半の包含層。
- IV 層 : 樽前 c テフラ (Ta-c) 10YR6/6 明黄褐色 砂質降下軽石 B.P. 2,500 年前降下。層厚 15cm 前後。I 層のフォール・ユニット。
- V 層 : 黒色腐植土  
 新千歳空港 (美沢川流域の遺跡群) 調査における II 黒層相当。  
 a ; シルト 10YR3/2 黒褐色 層厚 1cm 前後。縄文晩期前半の遺物包含層。  
 b ; シルト 10YR1.7/1 黒色 層厚 25cm 前後。縄文中・後期の遺物包含層。  
 c ; シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚 10cm 前後。縄文前・中期の遺物包含層。部分的に小礫を含む。
- VI 層 : 漸移層 2.5YR4/6 褐色 暗褐色シルト。層厚 20cm 前後。縄文早期の遺物包含層。
- VII 層 : 沖積世河岸段丘堆積物。樽前 d テフラ主体の再堆積層。  
 a ; 樽前 d 主体 水成 / 風成層 10YR5/6 黄褐色～5YR4/8 赤褐色。  
 b+c (互層) ; b・c 層の互層 (ラミナ状) 堆積層。  
 b ; 樽前 d1 テフラ主体 2.5YR5/2 暗灰黄色再堆積層。  
 c ; 樽前 d2 テフラ主体 5YR4/8 赤褐色再堆積層。  
 d ; 段丘堆積砂主体層 10YR6/1 灰色。  
 e ; 亜角礫主体層 2.5YR6/4 にぶい黄色。
- VIII 層 : 樽前 d テフラ (Ta-d) B.P. 8,000～9,000 年降下。  
 a ; 樽前 d1 テフラ (Ta-d1) 5G4/1 暗緑灰色 細礫質降下スコリア (sfa \*1) (φ5↓) 層。層厚 15cm 前後。  
 b ; 樽前 d2 テフラ (Ta-d2) 5YR4/8 赤褐色 中礫質降下パミス (pfa \*2) 層。層厚 100cm 前後。部分的に水成 / 風成粘土化した部分が上位に、白色にグライ化した部分が下位に見られる (\*1・2 町田・新井 1992)  
 c ; 最下位に黄褐色に沈殿化した部分、褐鉄鉱層を残す部分も見られる。
- IX 層 : 恵庭 a テフラ起源の風成及び水成堆積層。本報告では a～d に細分した。  
 a～c は T<sub>4</sub>面、d は T<sub>2</sub>面に堆積。  
 a ; ローム 7.5YR4/6 褐色 後期旧石器時代遺物包含層。  
 b ; En-a パミスを微量含むシルト層 7.5YR5/6 明褐色 氾濫堆積物。  
 c ; En-a パミスを少量含むシルト層 7.5YR6/6 橙色 氾濫堆積物。  
 d ; 砂・En-a パミスを含む粘土質シルト層 10YR4/4 褐色 河岸段丘基盤層。
- X 層 : 礫・砂～シルト 2.5YR5/2 暗灰黄色 En-a・Yo-ps3 (φ1↓) を含む氾濫堆積物。T<sub>3</sub>・T<sub>4</sub>面に堆積。
- XI 層 : 恵庭 a テフラ (En-a) 2.5Y7/6 明黄褐色 中礫質降下パミス T<sub>4</sub>面の一部に確認される。
- XII 層 : 砂～シルト 10YR4/6 褐色主体 Spfa を含む氾濫堆積物。

図 I-8 基本土層柱状図

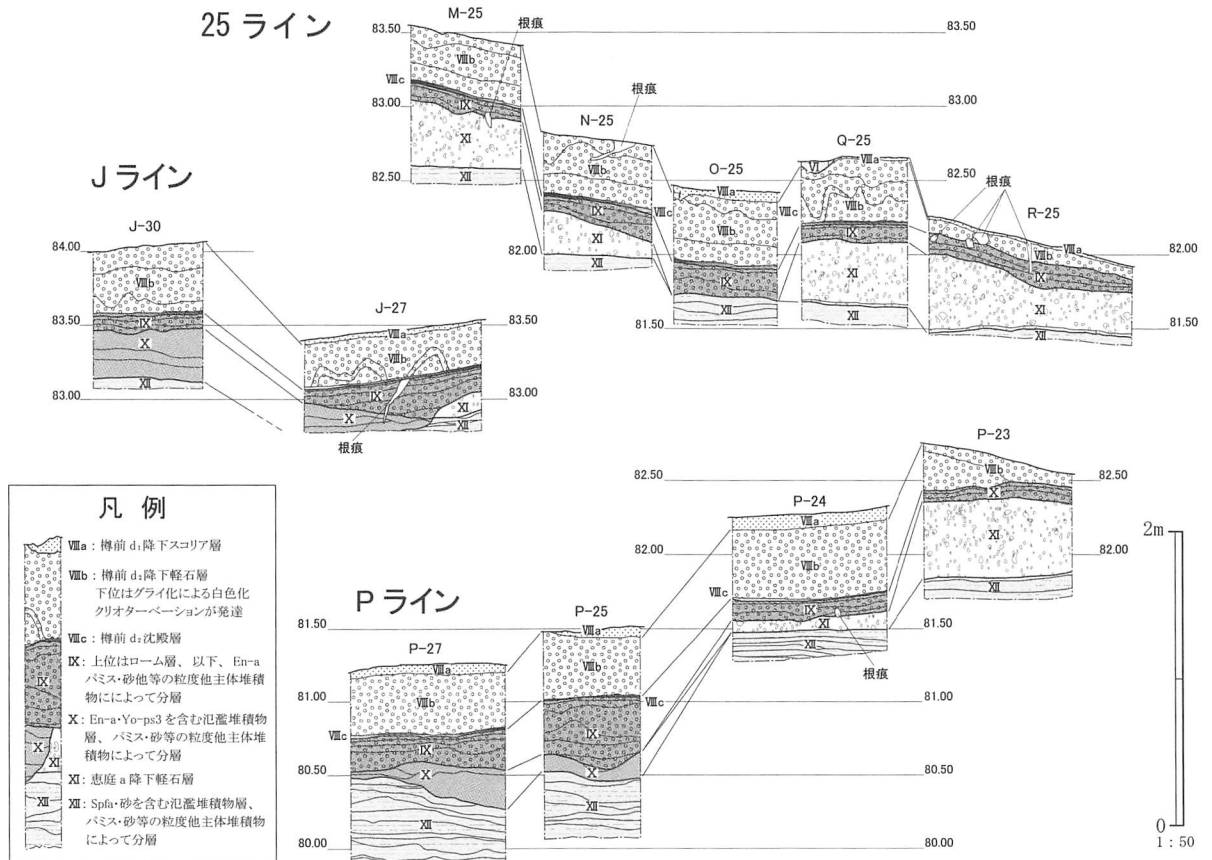
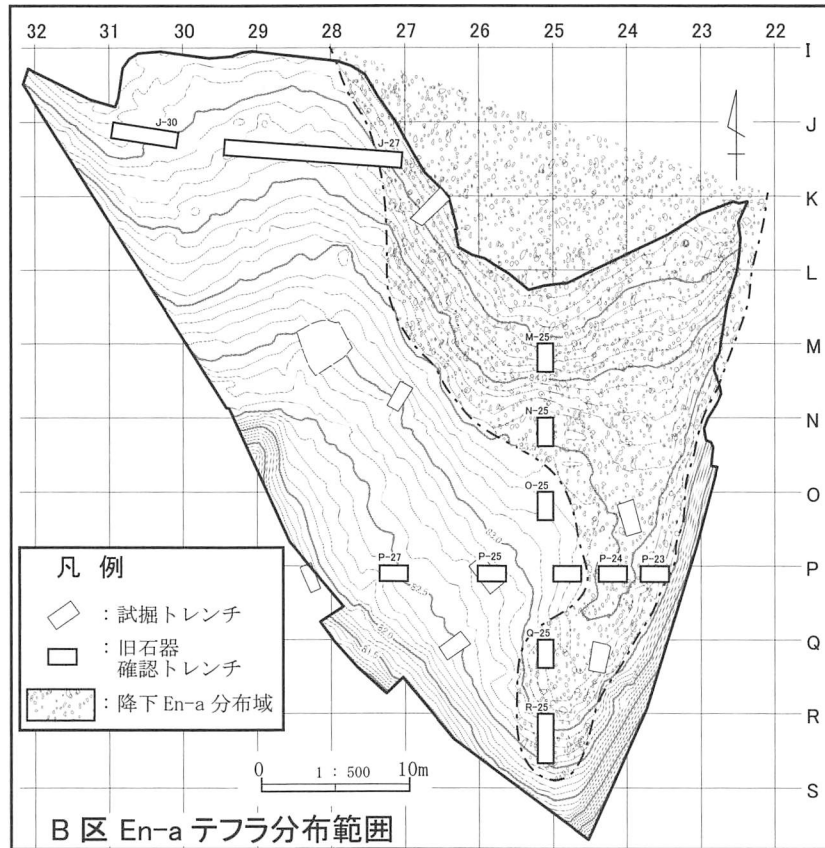


図 I-9 B区 En-a 分布及び柱状図

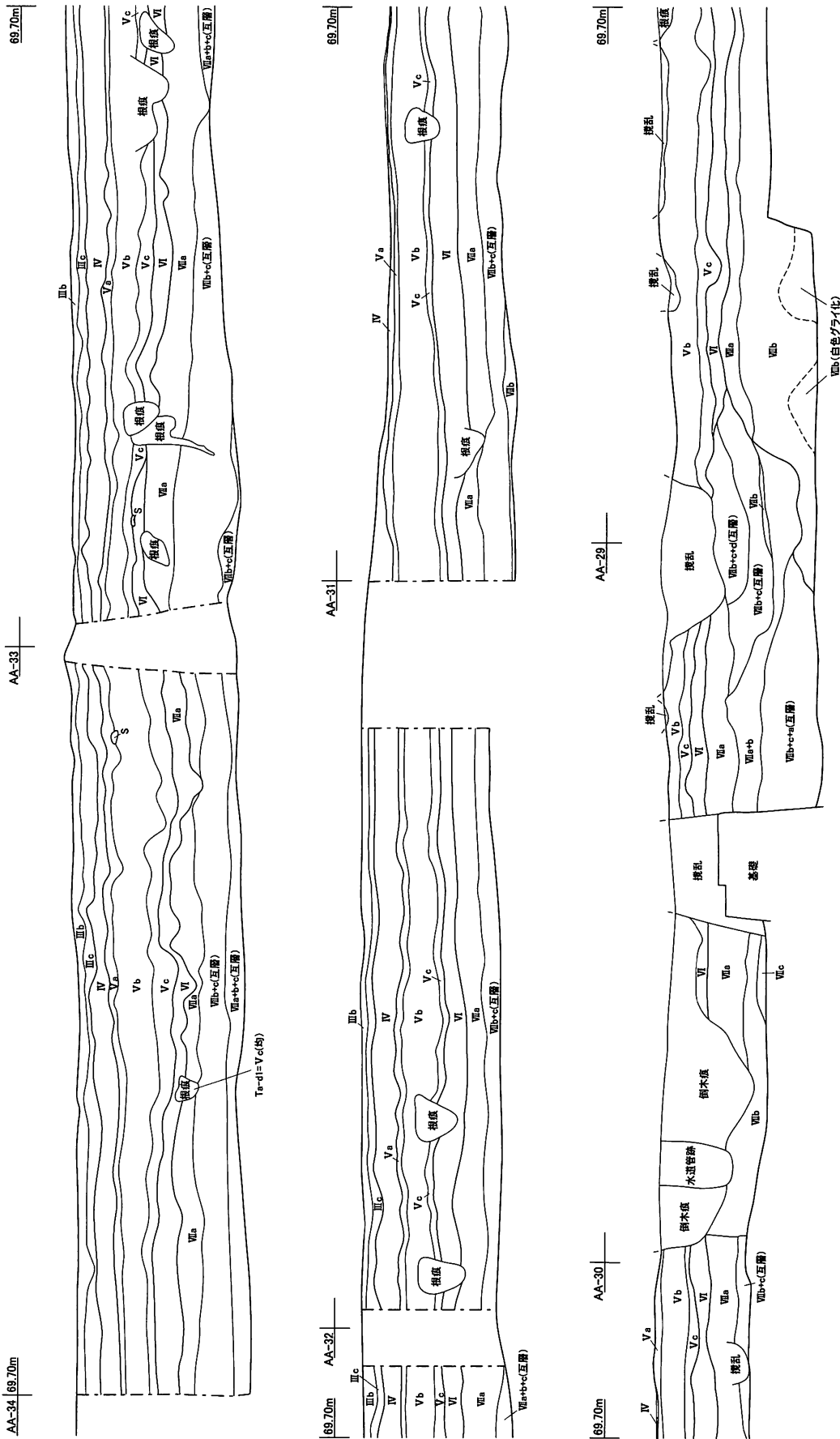


図 I-10 AAライン東西断面図(1)

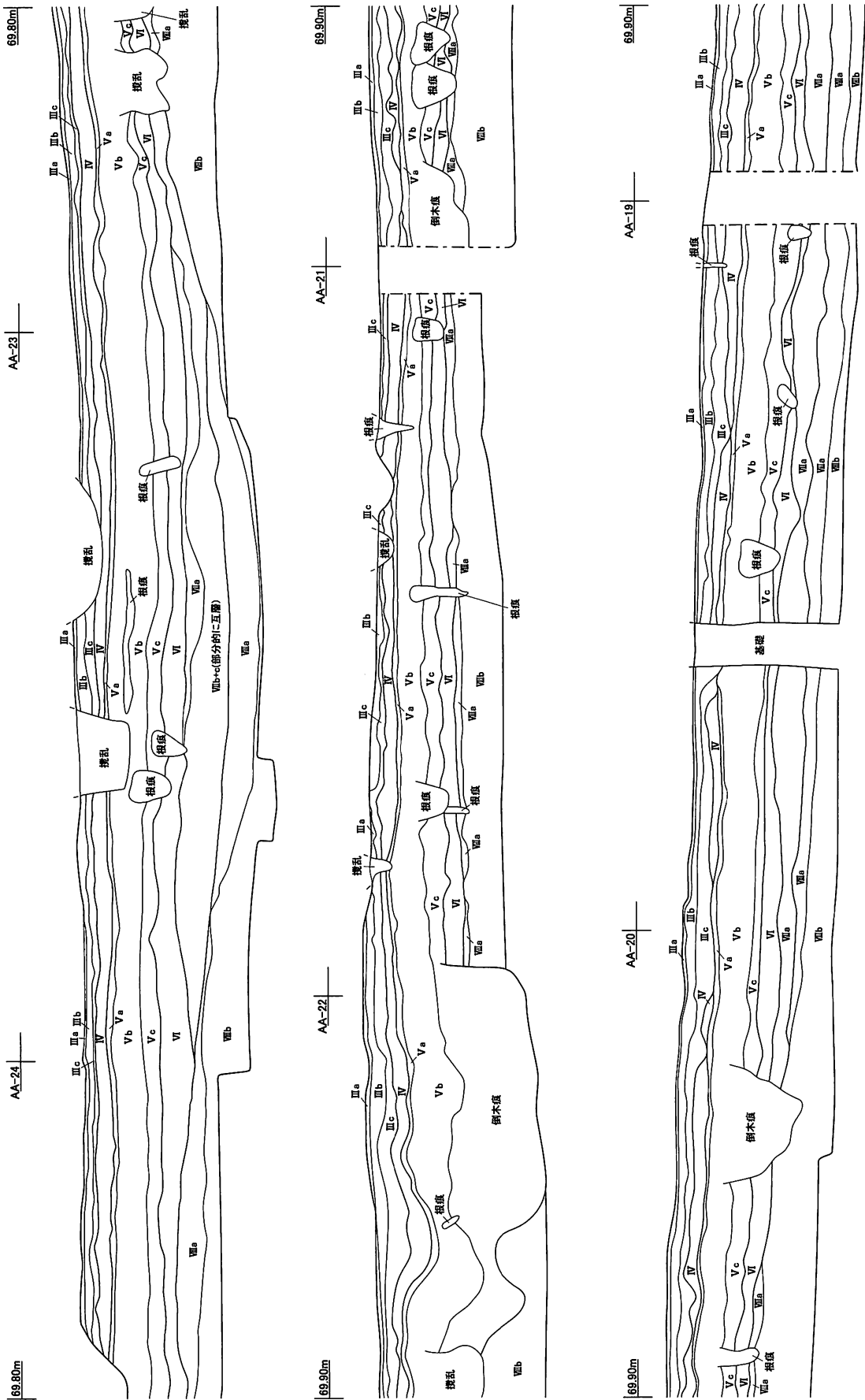


図 I-11 AAライン東西断面図(2)

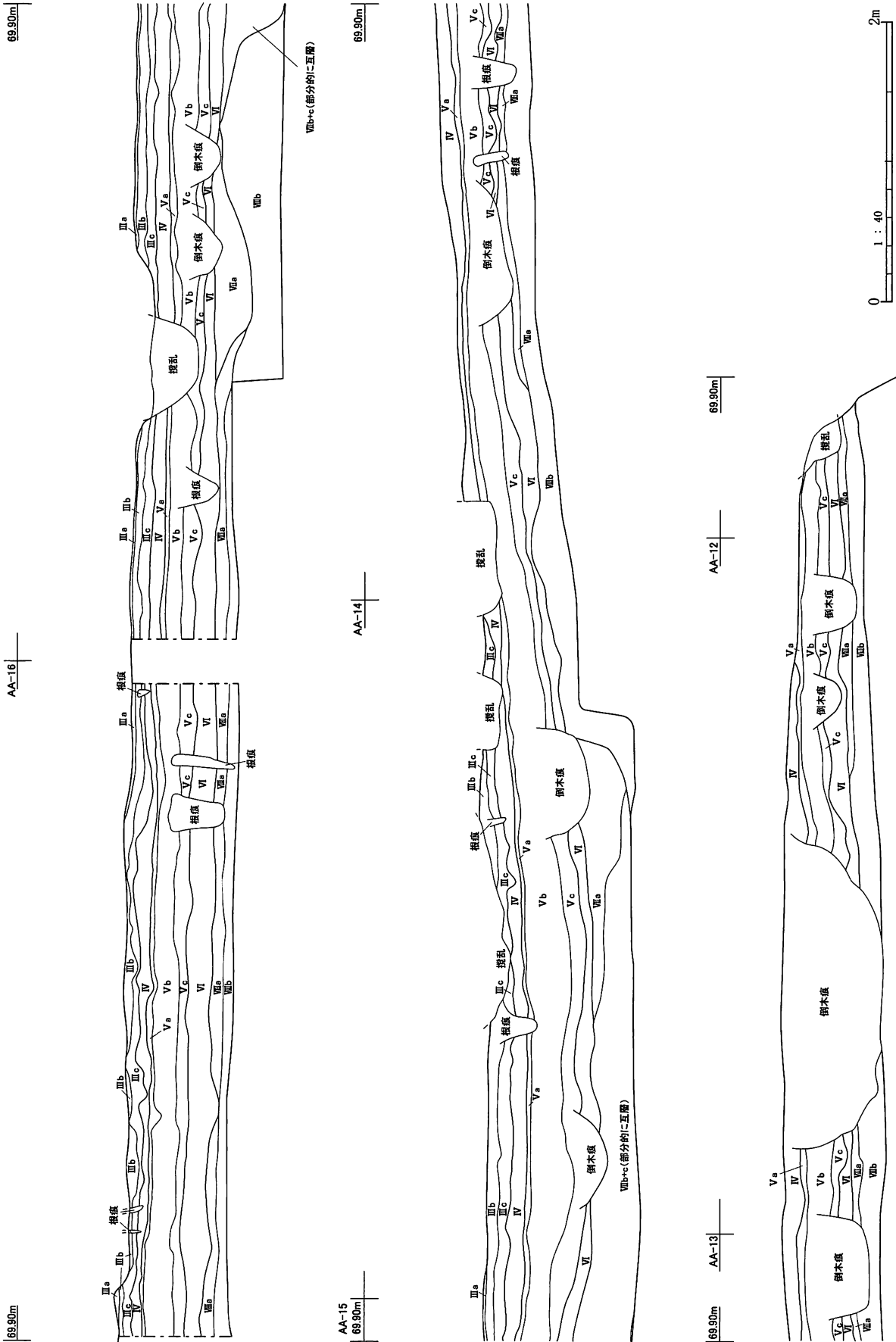


図 I-12 AAライン東西断面図 (3)

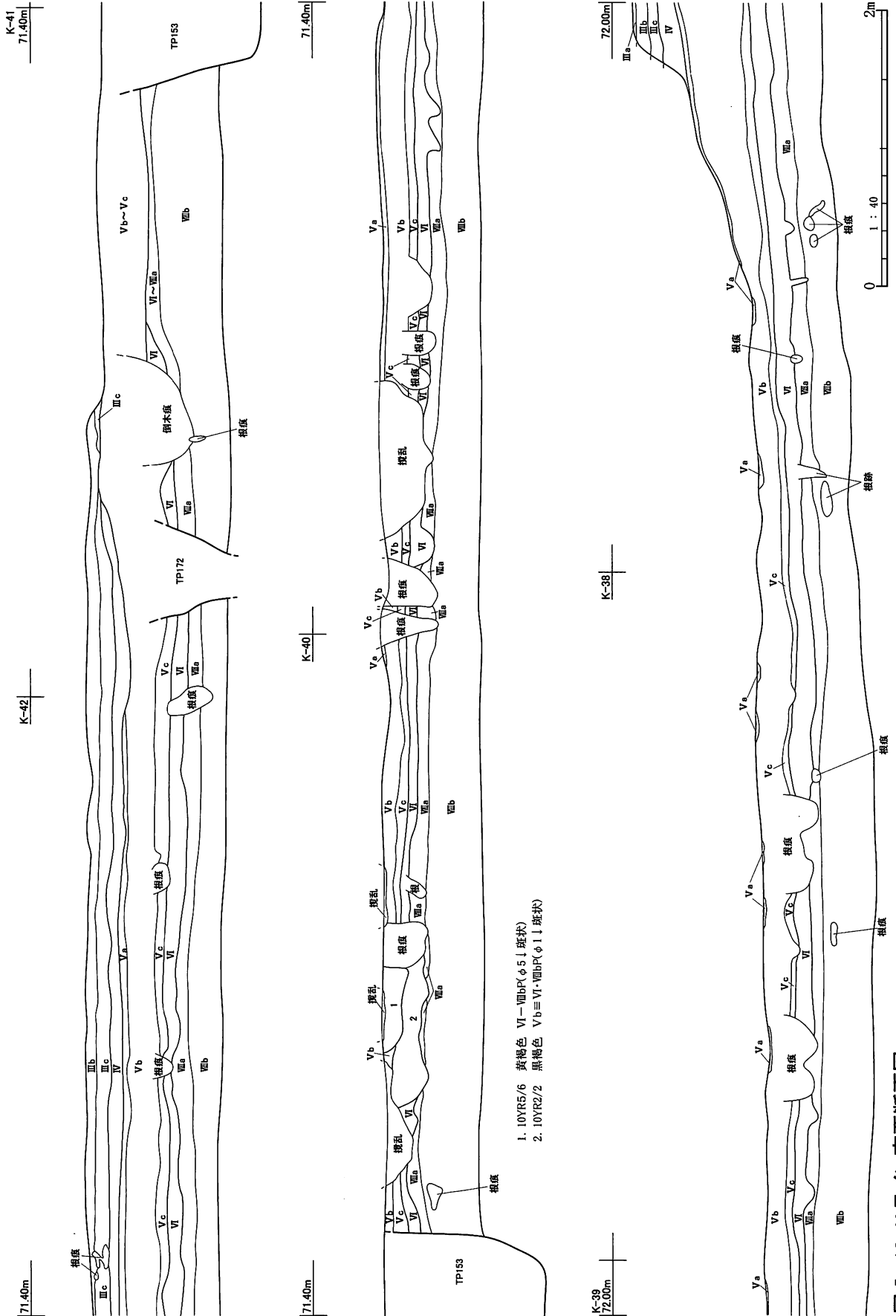


図 I-13 Kライン東西断面図

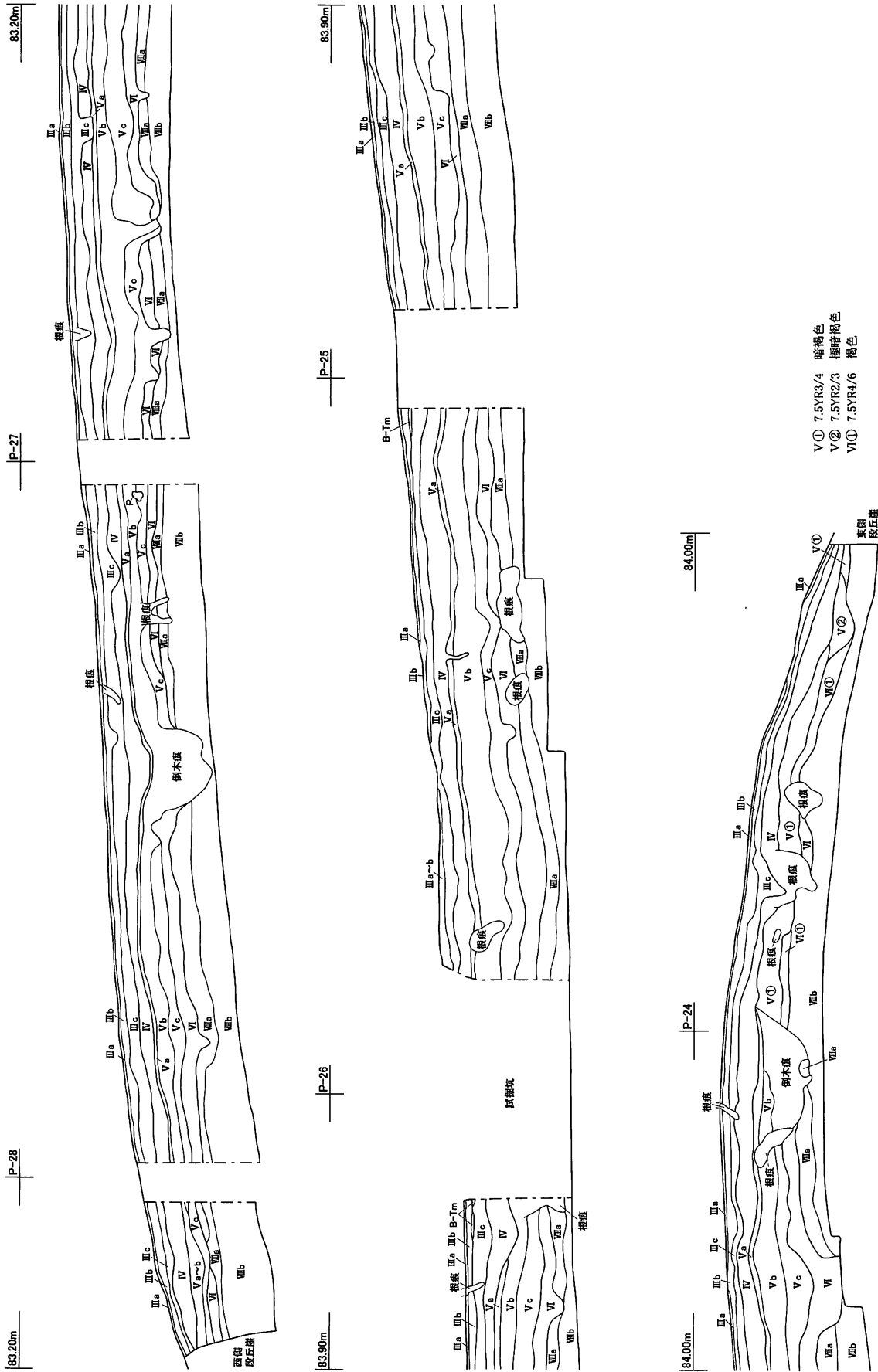


図 I-14 Pライン東西断面図



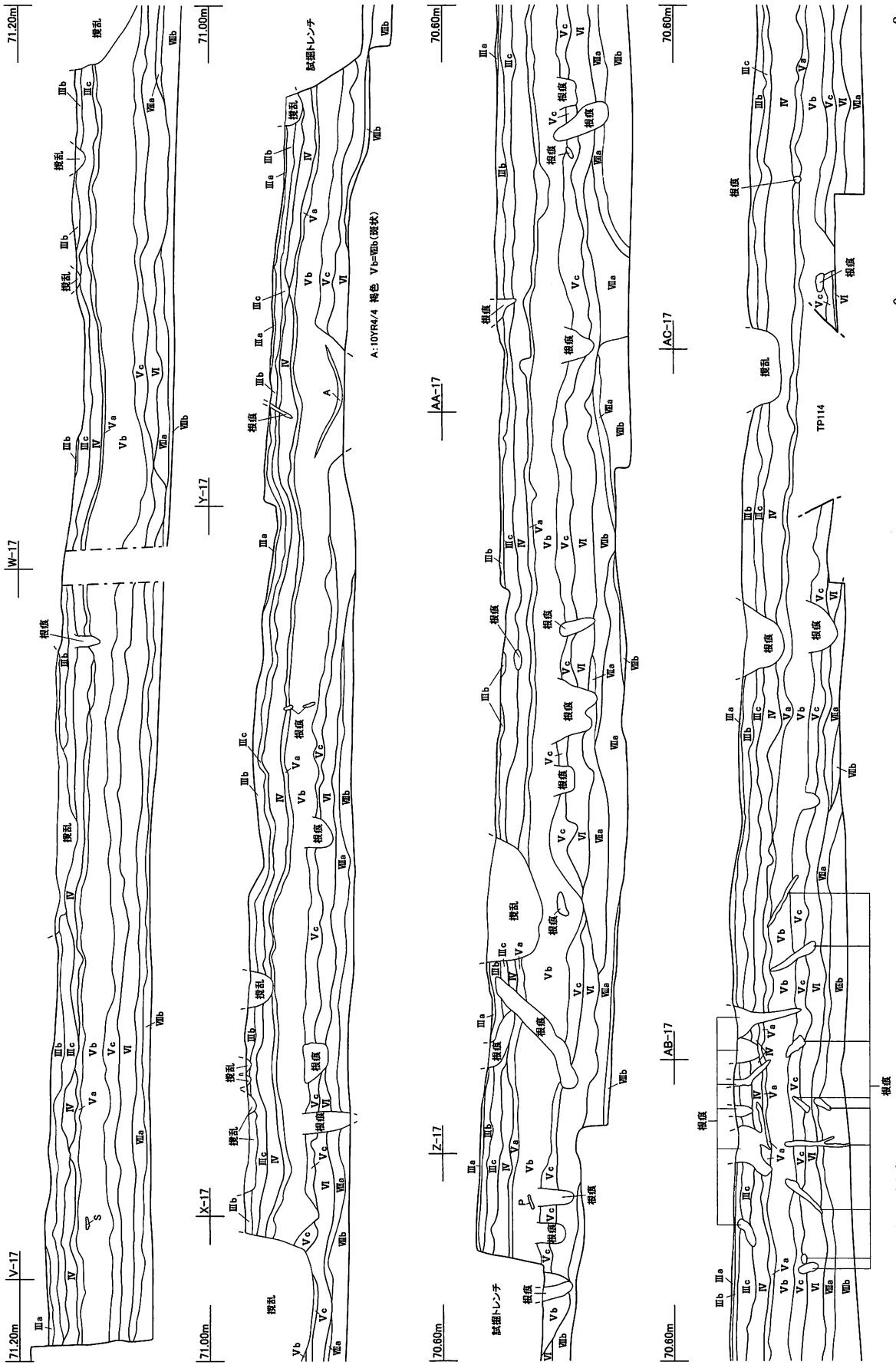


図 I-15 17ライン南北断面図

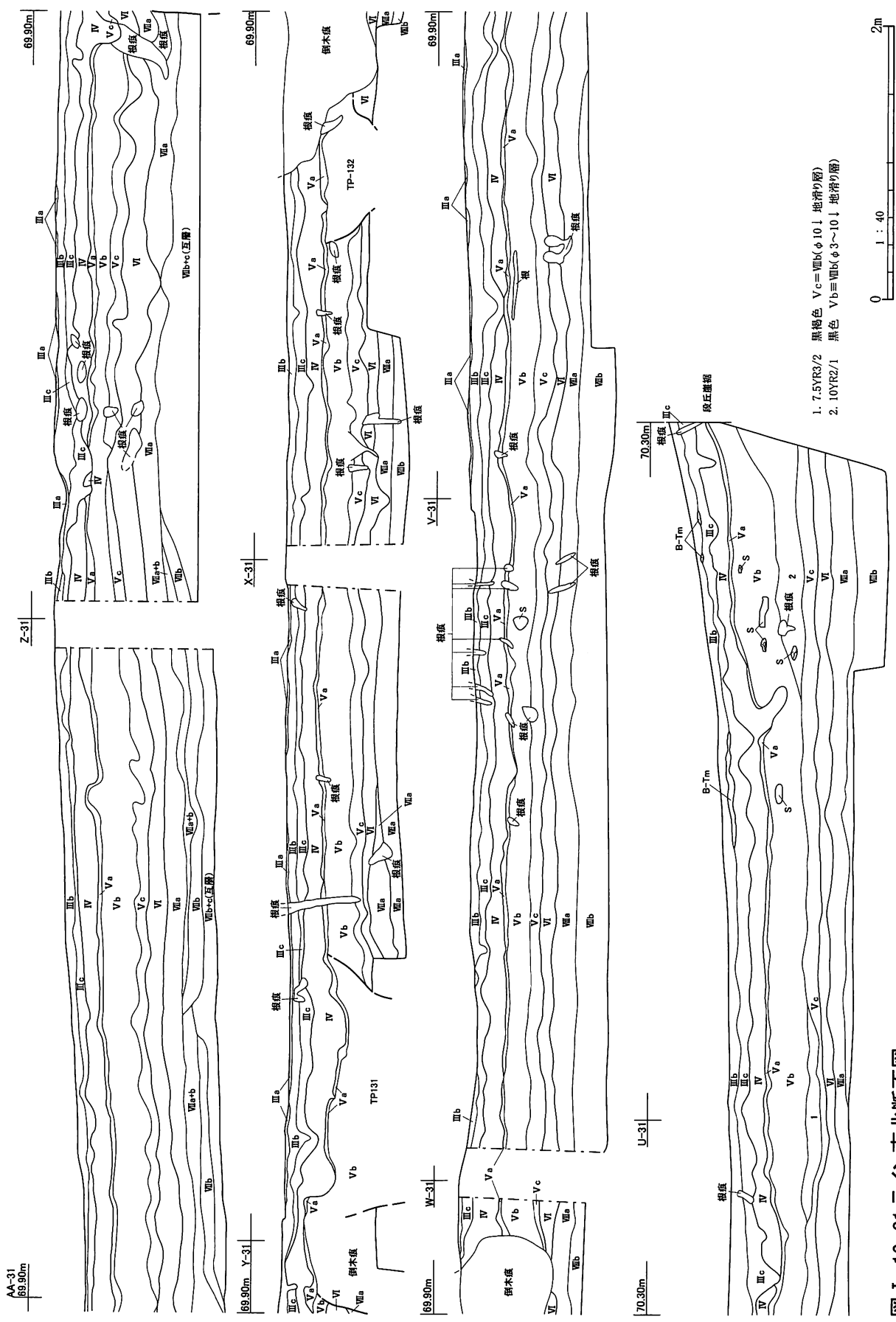


図 I-16 31 ライン南北断面図

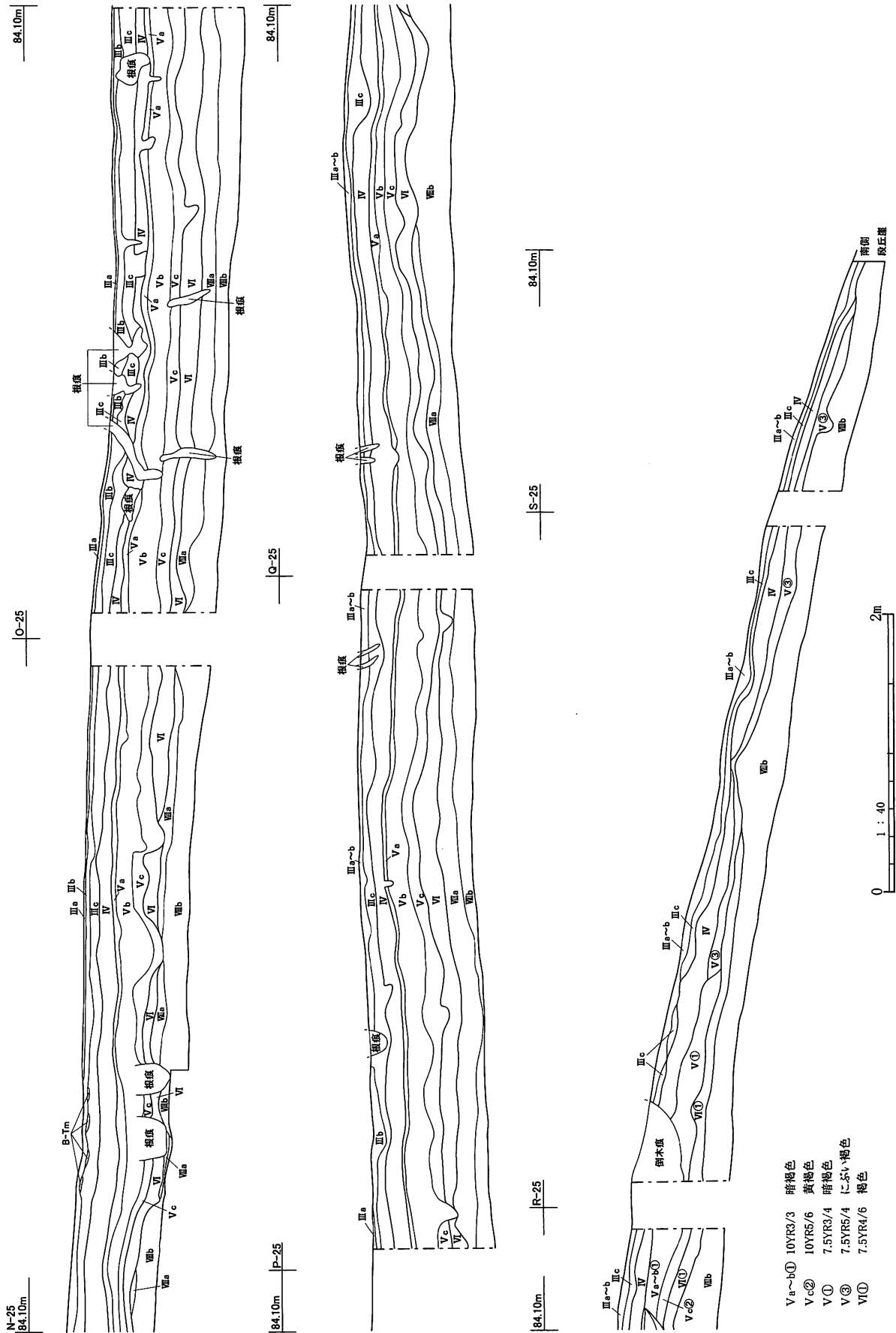


図 I-17 25ライン南北断面図

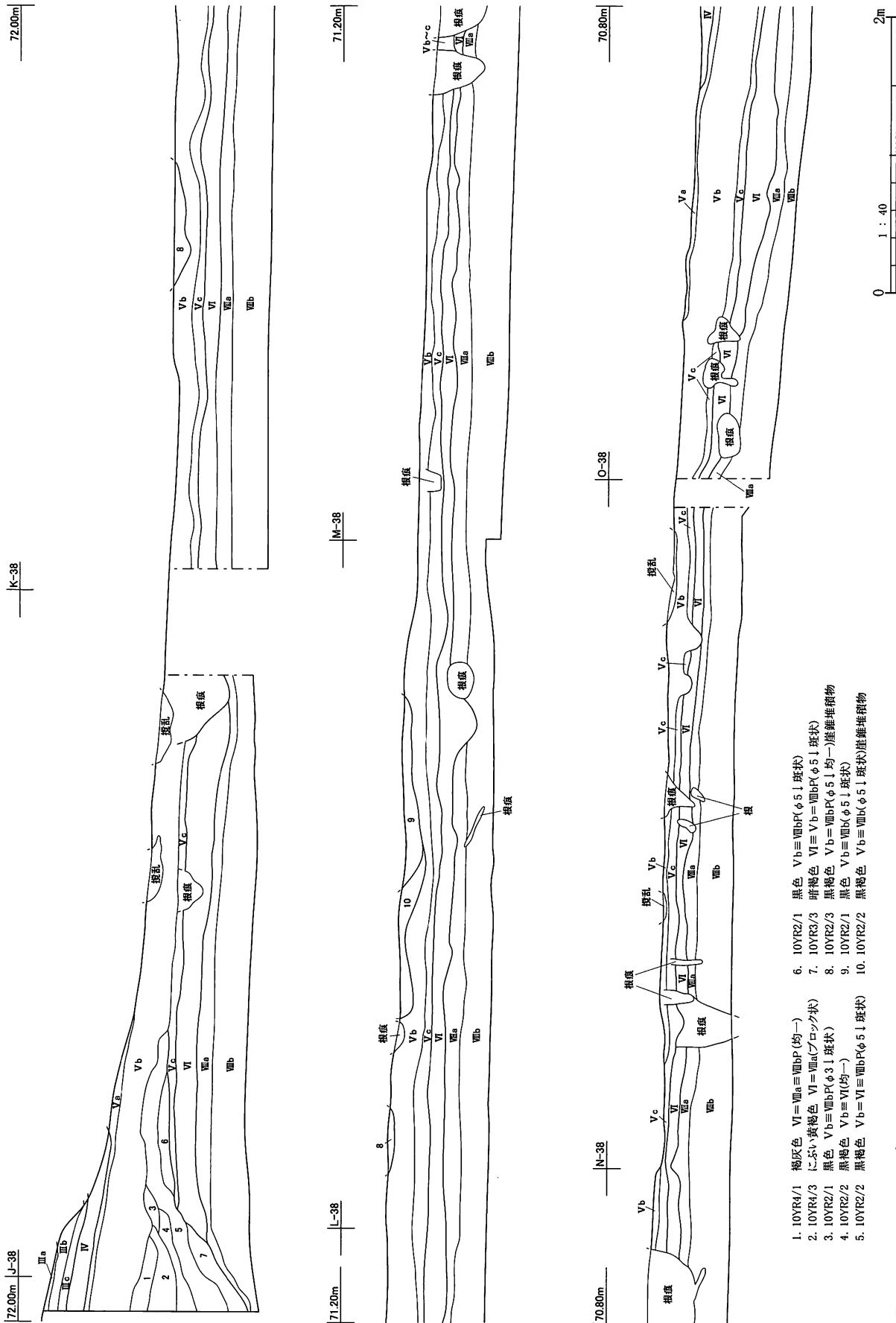
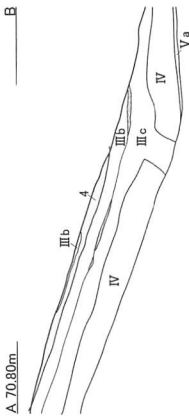
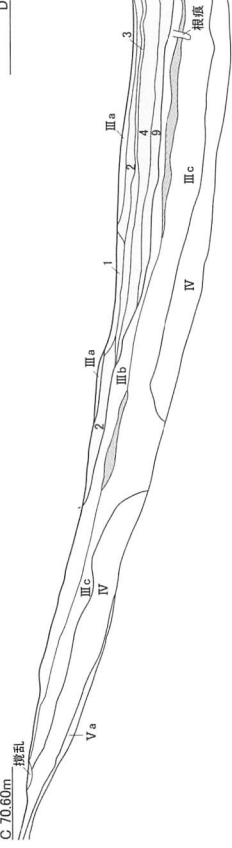


図 I-18 38 ライン南北断面図

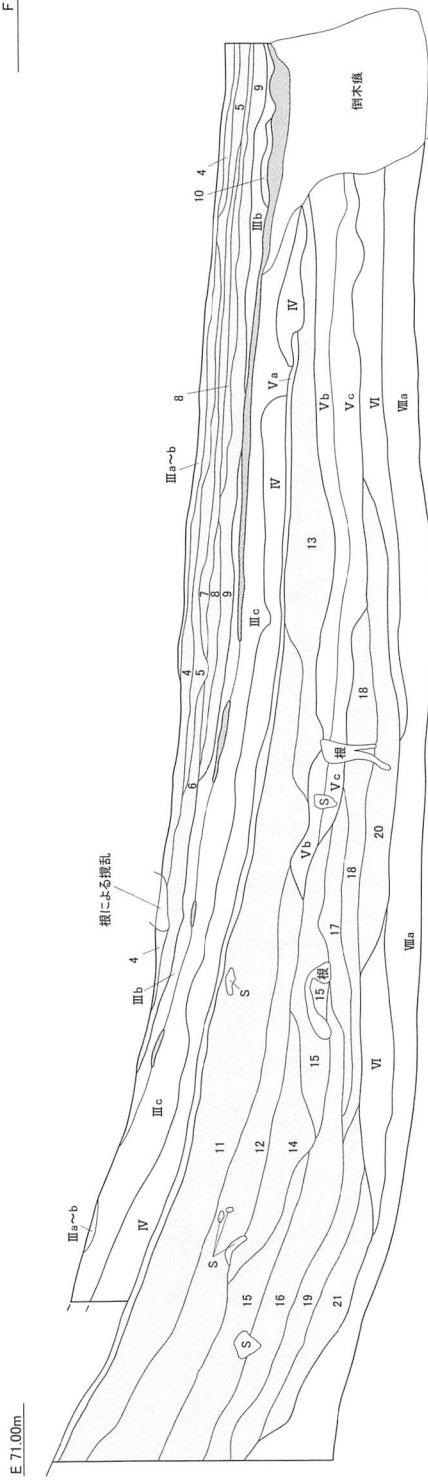
LS-01



LS-02



LS-03



LS(崖錐堆積物)土層注記

- 1. 10YR2/1 黒色 垂角礫(φ5~20)主体=V~VI(均一)
- 2. 10YR2/3 黒褐色 V-VI・VIIbP(均一)
- 3. 10YR1.7/1 黒色 IIIb≒I層(均一)
- 4. 10YR4/6 褐色 シルト質土≒VIIbP(斑状)粘性有
- 5. 10YR2/3 黒褐色 V=シルト質土≒VIIbP(斑状)
- 6. 10YR2/2 黒褐色 V=VI(均一)≒VIIbP(斑状)
- 7. 10YR3/3 暗褐色 V-VI(均一)≒VIIbP(斑状)
- 8. 10YR2/2 黒褐色 Vb=Vc-VI(均一)≒VIIbP(斑状)
- 9. 10YR3/4 暗褐色 V-VI(均一)≒VIIbP・シルト岩(斑状)
- 10. 5YR3/2 暗赤褐色 赤化したB-Tm
- 11. 10YR2/1 黒色 Vb=シルト岩(φ5↓均一)
- 12. 10YR2/1 黒色 Vb=シルト岩(φ5↓)≒VIIbP(斑状)
- 13. 10YR2/1 黒色 Vb=シルト岩(φ5↓)
- 14. 10YR2/3 黒褐色 Vb-Vc=VIIb・シルト岩(φ5↓斑状)
- 15. 10YR3/4 暗褐色 Vc=Vb・VIIbP・シルト岩(φ5↓斑状)
- 16. 10YR2/1 黒色 Vb=シルト岩(φ5↓)≒VIIb(均一)
- 17. 7.5YR4/4 褐色 VI=Vc・VIIbP(均一)
- 18. 10YR3/3 暗褐色 Vc=Vb=シルト岩(φ5↓均一)
- 19. 10YR4/4 褐色 VI-VIIb(均一)
- 20. 7.5YR4/6 褐色 VI-VIIbL≒VIIbP(均一)
- 21. 10YR5/6 黄褐色 VIIa-VI(均一)

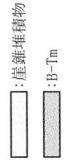


図 I-19 LS (崖錐堆積物) セクション断面図

## 第Ⅱ章 Ⅲ層の調査

平成 26～28 年度の調査範囲は、Ⅲ層が主に残存する範囲は平成 27 年度と平成 28 年度の高位段丘面で、それ以外は窪みや段丘縁辺、斜面裾に残るのみであった。Ⅲ層で主体となる時期は土器型式から擦文文化期後期前半が主体で、これに伴う集中区も 2 ヲ所検出している。その他には Ta-b テフラ直下から遺物が出土していないため、中世アイヌ文化期と考えられる集中区が 2 ヲ所、続縄文時代の土器集中を僅かに検出した。Ⅲ層では時期ごとに分類することができるが、いずれの時期も遺構、遺物が少ないため本章でまとめて記載する。

遺構は集中区 4 ヲ所、焼土 7 ヲ所（うち集中区 5 ヲ所）、杭跡 6 基（うち集中区 3 基）、炭化物集中 1 ヲ所、土器集中 3 ヲ所を検出している。今回調査した集中区は焼土と遺物がまとまる地点（集中区 4・6・7）、遺物のみで構成される地点（集中区 5）と 2 パターン確認された。集中区以外の遺構については、時期や分布が疎らであることから、本遺跡の段丘奥部については高位段丘面も含め殆ど生活空間として利用されていなかったと推察される。

遺物は土器 636 点、礫石器 14 点、剥片石器 3 点、鉄製品 2 点、礫 1,744 点、剥片類 34 点、その他 3 点の 2,436 点出土している。遺物の多くは集中区と土器集中に帰属し、包含層自体の出土量は僅少である。

### 第 1 節 集中区

集中区とした遺構については、これまで町内で調査した事例を元に遺構と遺物のまとまりで一つの空間と捉え報告している。今回は 4 ヲ所の集中区を検出しており、2 ヲ所は東側段丘縁辺部、1 ヲ所は中央やや西側、1 ヲ所は高位段丘面に位置している。遺物も集中区とした範囲付近には密な分布を示すため、関連するものと判断し同一層位のものは集中区範囲内遺物として報告している。

集中区は 4・6・7 が焼土を伴っている。そのうち集中区 4・7 は棒状礫のまとまりがみられるなど、平地式住居跡の要素をもっているが、柱穴の配列がないため作業場としての機能が考えられる。集中区 5 は広範囲に遺物が分布しており、段丘縁辺を利用した捨て場と考えられる。

以下に各集中区の詳細を記載する。 (奈良)

#### 集中区 4 (図Ⅱ-2・3・13 図版 8・9)

位置：AC-13・14 区 規模：450×300 cm 検出層位：ⅢbL・Ⅲc

立地：段丘東側縁辺部

関連遺構：ⅢF-26・27A・B、ⅢSB-09・11

**確認・調査** 平成 27 年度の調査区南東端部、Ta-b を含む攪乱層除去中に検出した。当該地区は段丘の自然堤防上にあるためか表土層が薄く、一部Ⅲb 層まで攪乱が及んでいた。2 ヲ所の焼土（北からⅢF-27A・B・ⅢF-26）を北東から南西方向に並んで検出した時点で、重機による掘削を中止し人力によって攪乱層を除去した。ⅢF-26 の東西から、2 ヲ所の礫集中（ⅢSB-09・11）を検出した。焼土・礫集中の検出位置関係等から住居跡の可能性を考え、周辺をⅤ層上面まで各層の境界部を中心に層毎に精査したが、柱穴と思われるプランは確認できなかった。

集中区 4 と付番し、写真撮影の後、焼土・礫集中の平面形を記録した。2 ヲ所の焼土に 1 本の

断面観察用トレンチを入れ、断面図を作成した。焼土周辺からフローテーションサンプルを採取したが、炭化種子等は検出されず、焼骨片は微小なもので、詳細を判別できるものはなかった。

**焼土 [ⅢF-26] (図Ⅱ-3 図版 8)**

位置：AC-13区 規模：96×41cm 層位：ⅢbL・Ⅲc

集中区4のほぼ中央に位置し、ⅢF-27と長軸が一致する。確認面上層は攪乱が著しく、南側上層に焼骨片を含む弱い焼土が残存していたが、焼骨片を含む層はⅢF-26全体に広がっていたと思われる。焼骨片を伴わない焼土と付帯黒色土層は北東側に緩く傾斜しており、延長線上にⅢF-27A・Bが位置する。2ヵ所の焼土とも緩斜面に形成されていることも積極的に住居跡とする根拠に欠ける。

焼土東縁からエゾタマキガイ2点を検出した。上層の攪乱が著しいことから積極的に本遺構に伴う遺物とは考えにくい。出土位置を平面図に記載した。

**焼土 [ⅢF-27A・B] (図Ⅱ-3 図版 8-1・2 9-1・2)**

位置：AC-13 規模：A：49×48cm/B：10×10cm 層位：ⅢbL・Ⅲc

集中区4の北側に位置する。Aは40cm弱の範囲に焼土がみられ、Bは直径10cmと小型で、いずれも上層は攪乱されている。Aの付帯黒色土層はⅢc層まで、Bの付帯黒色土層はⅣ層上面に達している。ⅢF-26と共に、斜面に焼土が形成されており、このことも住居跡とする根拠には欠ける。

**礫集中 [ⅢSB-09] (図Ⅱ-3 図版 9-3 62-1-1)**

位置：AC-14区 規模：140×100cm 層位：ⅢbL・Ⅲc

ⅢF-26の西側に位置する。南側に多く分布し、一部並列した出土状態が認められる。礫はほぼ平坦に分布し、2～6cmの小型の棒状礫が主体、すべて砂岩製である。被熱をしたものは僅かに1点である。

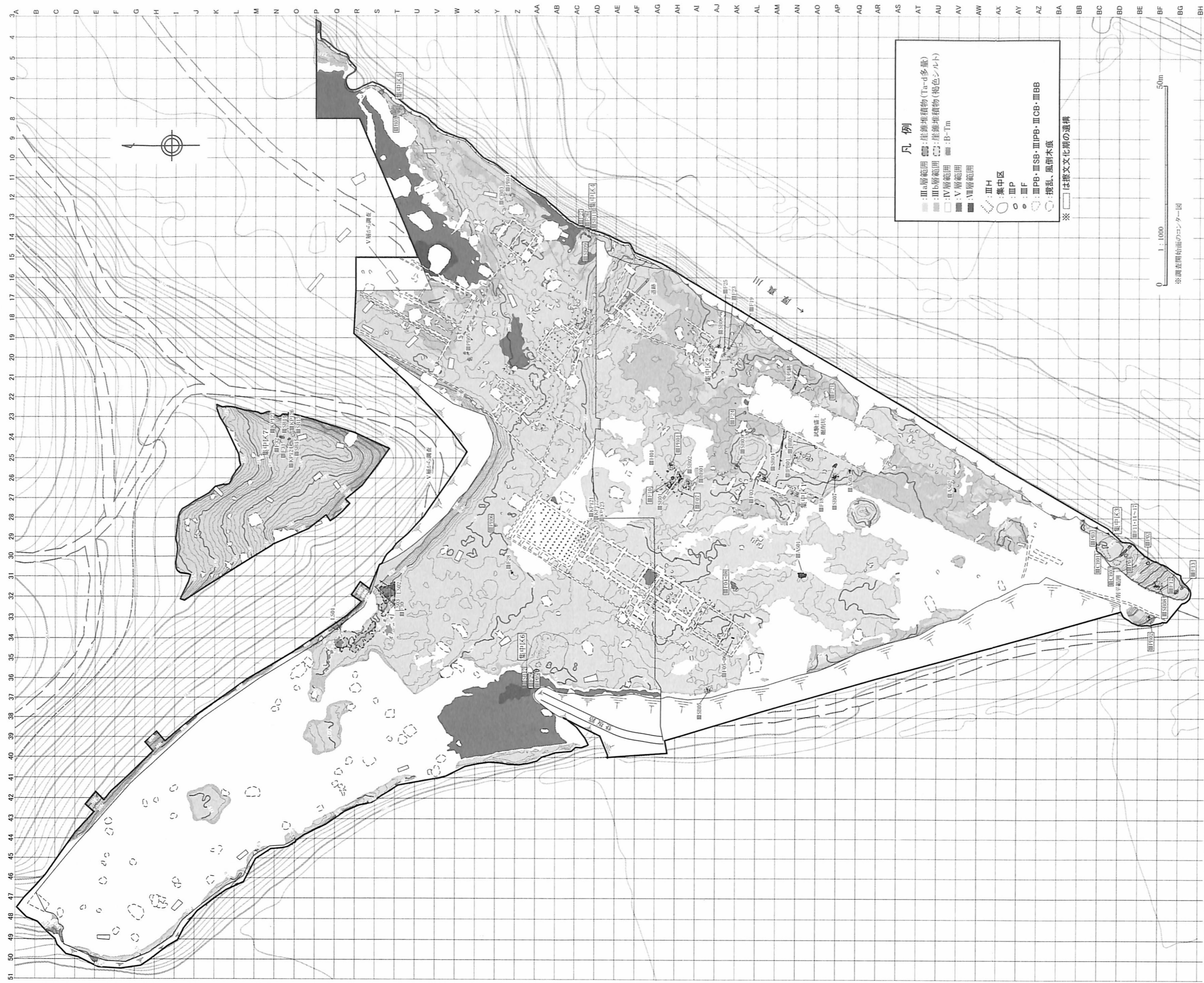
**礫集中 [ⅢSB-11] (図Ⅱ-3 図版 9-4・5 62-1-2)**

位置：AC-13区 規模：156×120cm 層位：ⅢbL・Ⅲc

ⅢF-26の南東側に位置する。東側は厚真川浸食崖に向かって落ち込んでおり、落ち込みの方向に沿って接合した礫もみられる。被熱した礫は認められなかった。泥岩製1点を除き、全て砂岩製である。

**時期・性格** 時期を判断する土器片は出土していないが、遺物はⅢb層下位から多く出土しており、集中区4の帰属時期・性格は、擦文文化期に属する作業場跡と思われる。(宮塚)

**出土遺物**(図Ⅱ-13 図版 62-1-1・2) Ⅱ-13-1～8はⅢSB-09の構成礫で、完形は22点。全て砂岩製である。形状は楕円形から棒状を呈するものが多いが、1・3の様に不定形なものも構成礫に含まれる。厚さは平均17.7mmであるが15mm以上が15点とやや厚みのある礫がまとまっている。Ⅱ-13-9～13はⅢSB-11の構成礫で完形は15点、1点は泥岩製、それ以外は砂岩製である。形状は長短比平均1.9とあるように棒状を呈するものが主体である。長軸最小と最大では約50mmの差があるが、13点が58mm以上でⅢSB-09に比べ規格的な印象を受ける。(奈良)



図II-1 H25~28年度 ショロママ1遺跡III層遺構配置図



集中区4

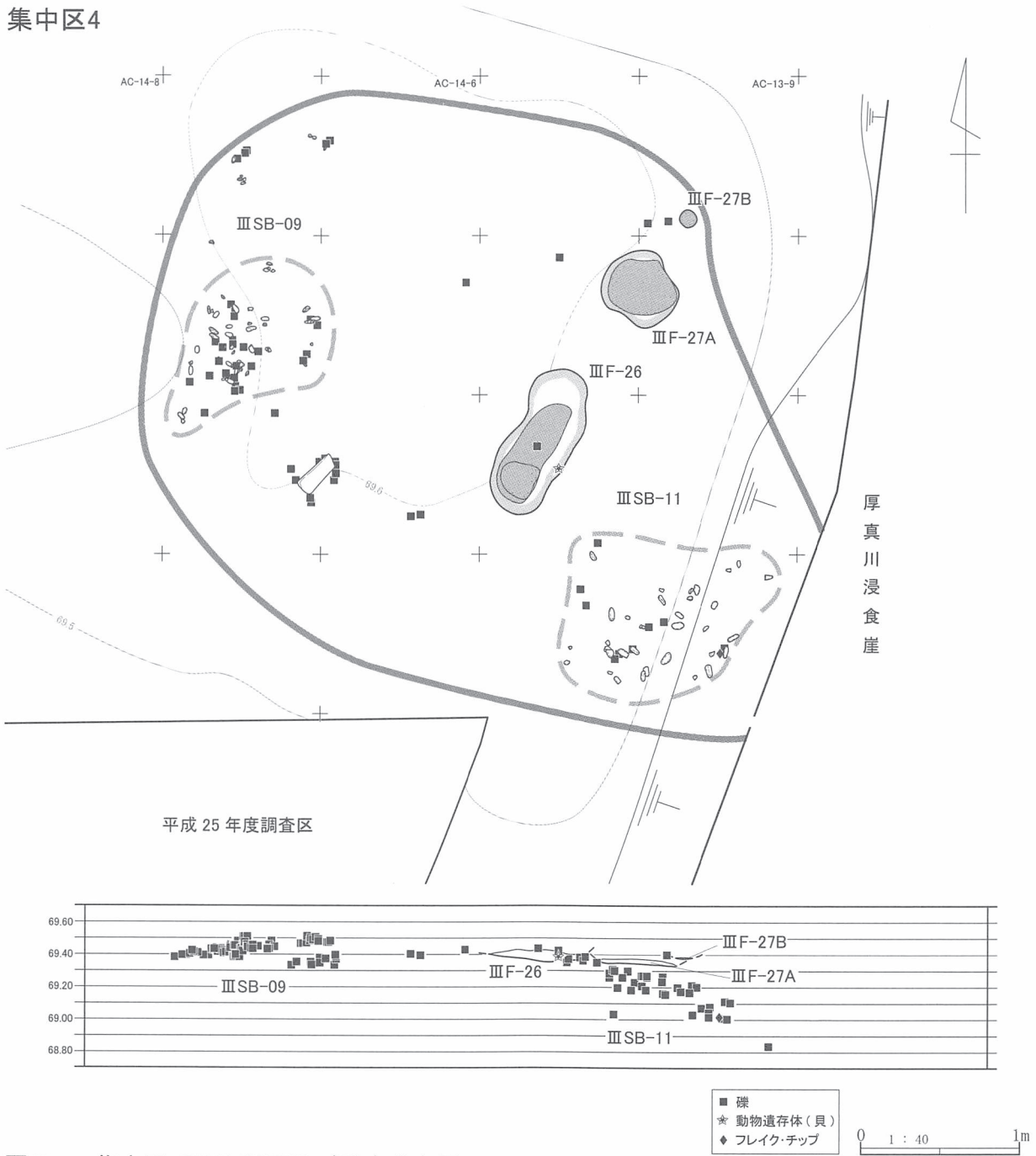
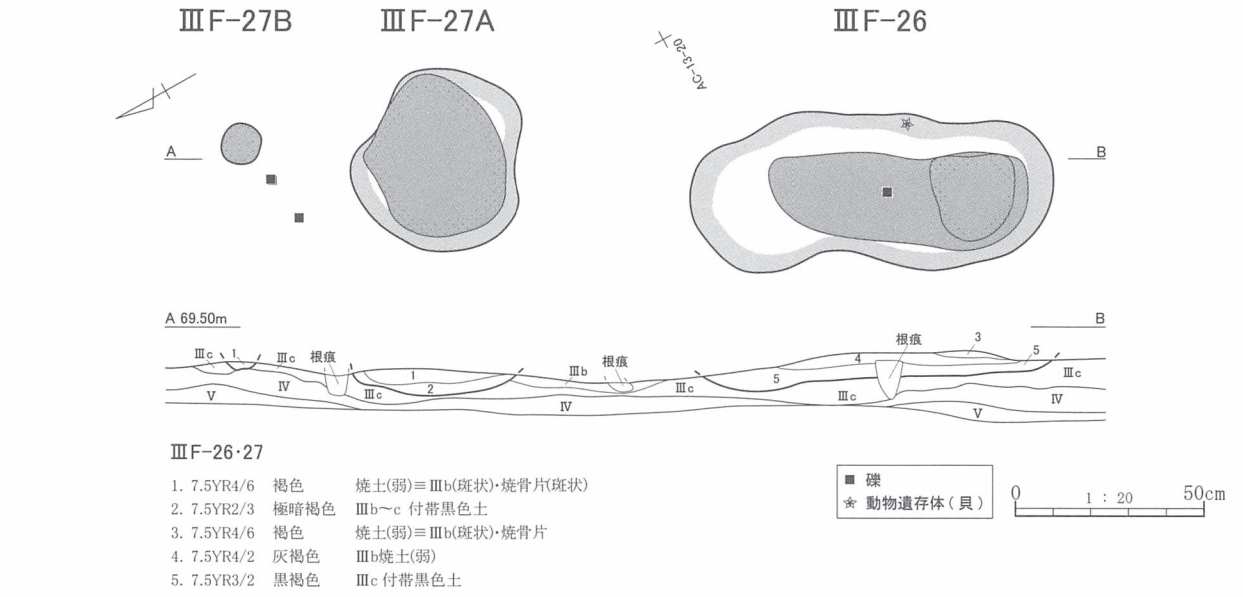
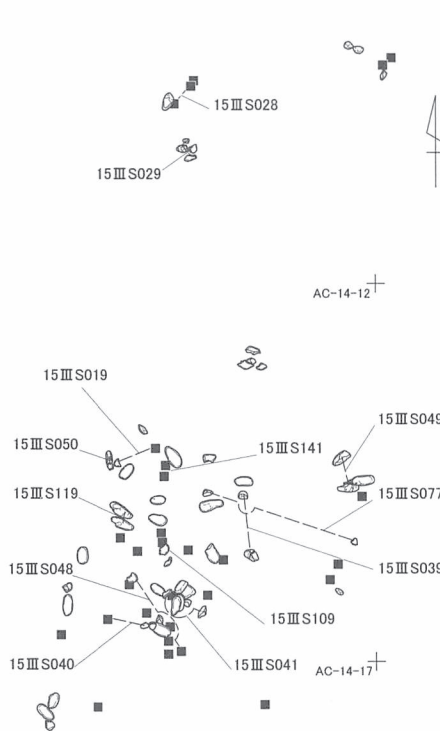


図 II-2 集中区4平面・断面及び垂直分布図

集中区4



III SB-09



III SB-11

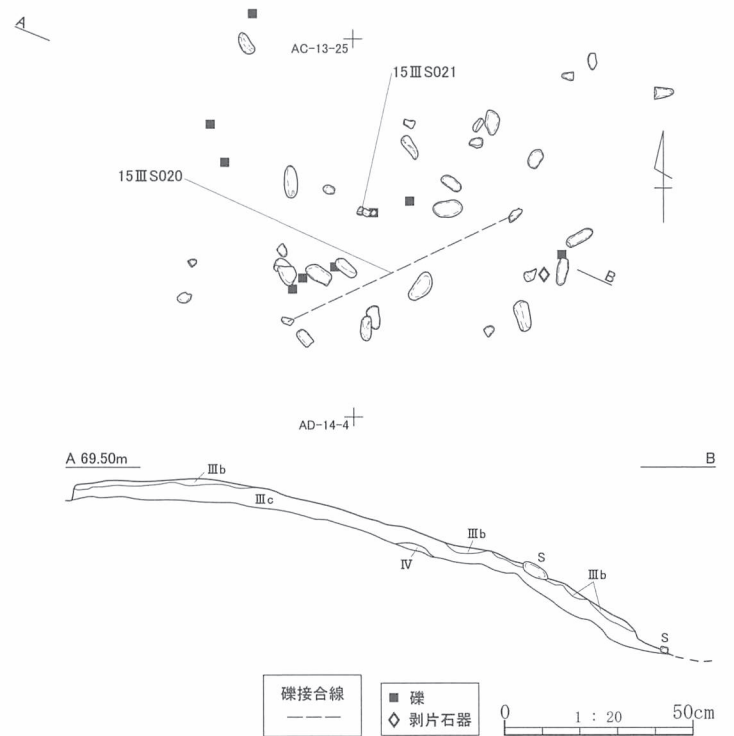


図 II-3 集中区4関連遺構 III F-26・27・III SB-09・11平面及び断面図

## 集中区5 (図II-4~6・14・15 図版10-1~3 62-2-1~14 63-1-1)

位置：S・T-7区 規模：456×(268)cm 検出層位：IIIbL

立地：段丘東側縁辺部

関連遺構：IIIb-01

**確認・調査** III層包含層を面的に掘り下げていると、IIIb層下位の段階でS・T-7区周辺から棒状礫がややまとまった状態で出土した。そのため礫集中を想定し、慎重に周囲を広げて分布確認を行った。また、礫以外に土器や金属製品も出土しており、レベル確認のため必要に応じて断面の記録を行った。遺物はIIIc層からも出土しているが主体はIIIb層下位であり、集中する範囲とその周辺も含めて写真撮影を行った。

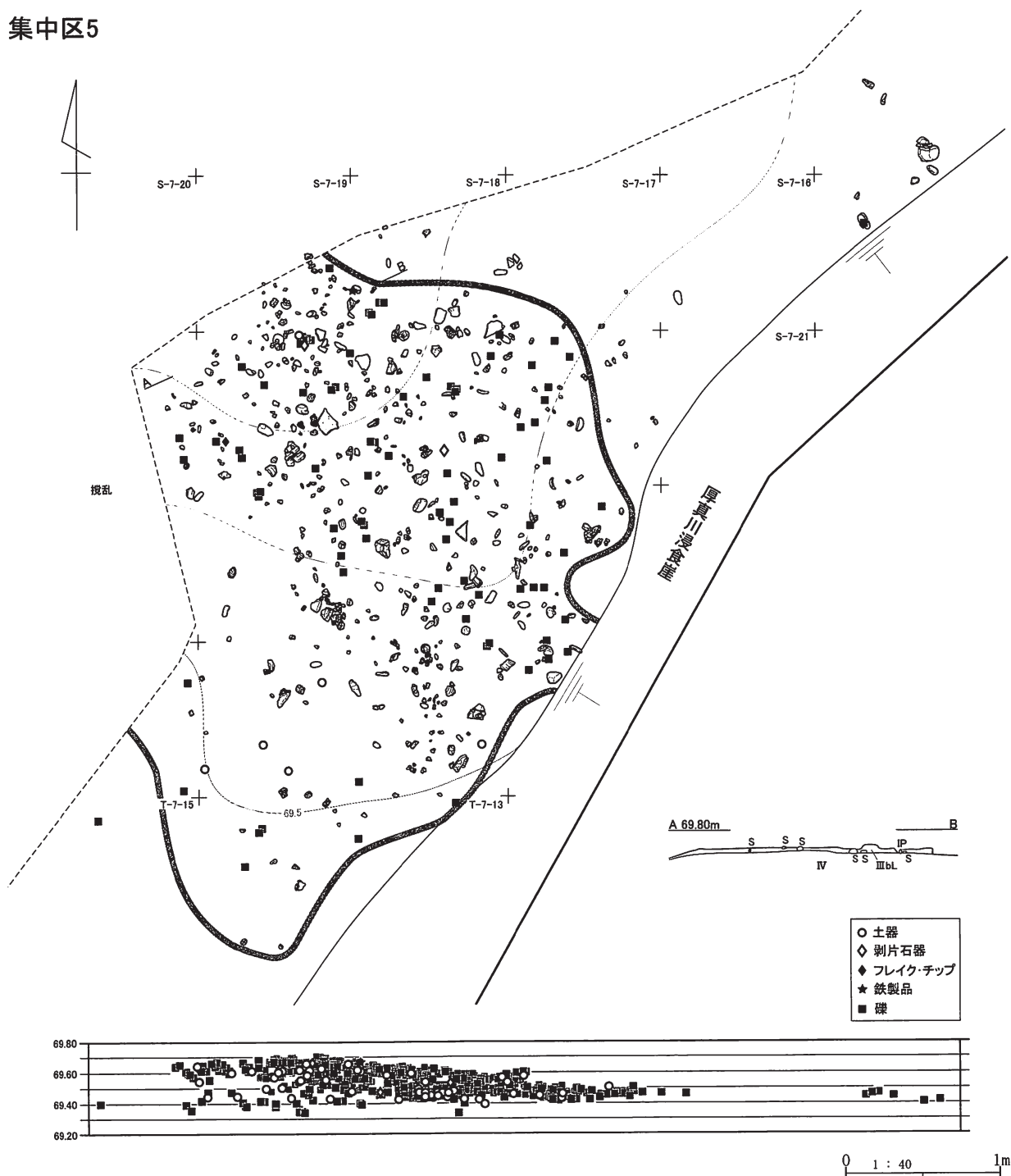
本集中範囲から遺構は検出されていないが、遺物分布が段丘縁辺部に限られることから意図的なまとまりと考え、集中区と設定して調査を行った。遺物は当初、礫と土器にそれぞれ集中番号を付与して図化を行っていたが、整理段階で礫や土器の出土地点や、種別、器種ごとにまとまりがないことから、全体を遺物集中(IIIb-01)として掲載した。これらは微細図を作成後、図と合わせて遺物を取り上げ調査終了とした。

**性格** 遺物集中は段丘縁辺部を利用した捨て場跡と考えられる。同様の地形を利用した事例は町内のオニキシベ4遺跡や上幌内2遺跡(町教委2014a・2017)で検出されている。これらは若干の時間差は認められるが擦文文化期後期に属しており、本遺構も同様の性格を有すると考えられる。(奈良)

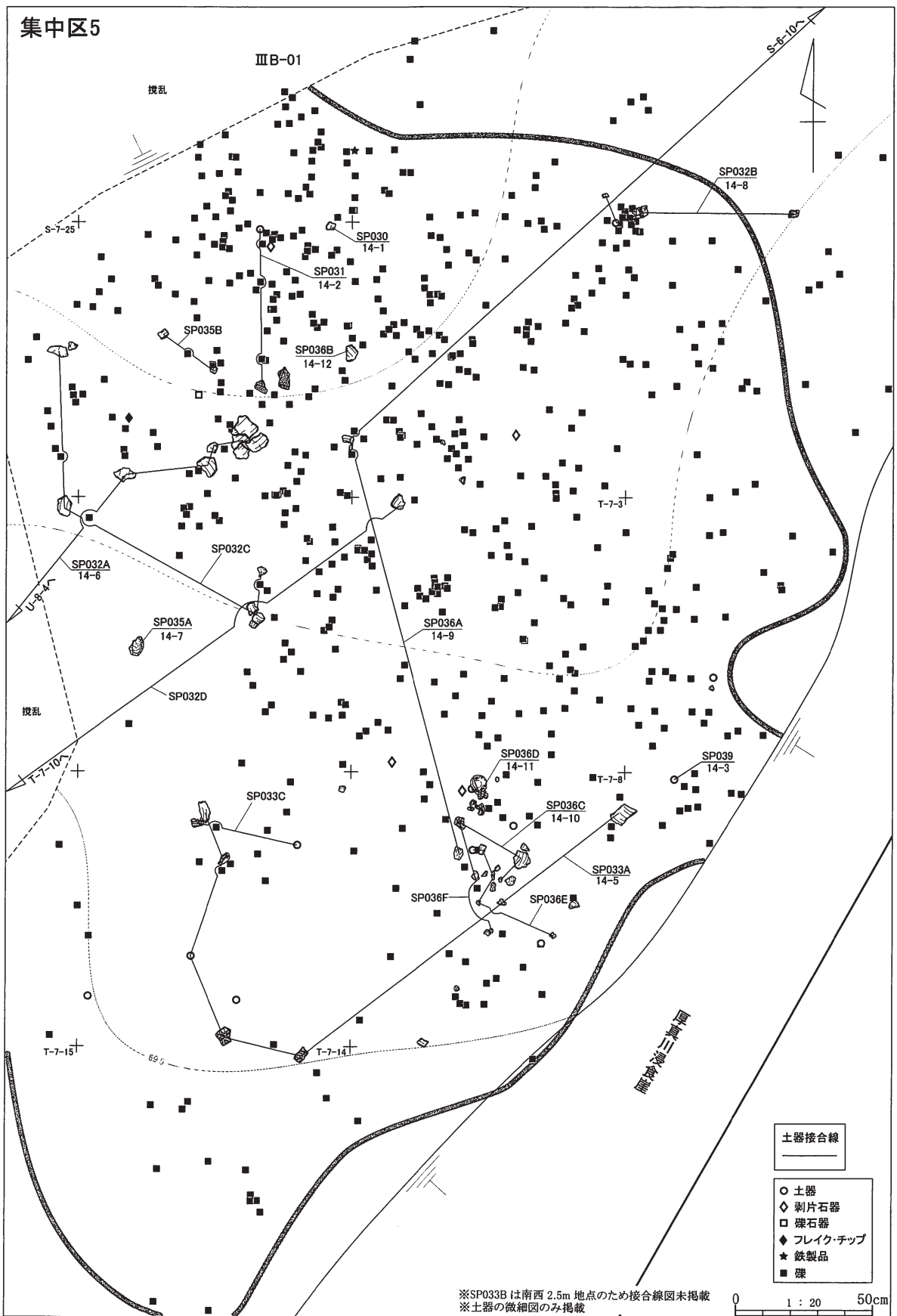
**出土遺物** (図II-14・15 図版62-2-1~14 63-1-1) 1~8はVII群B3類である。1・2・4は口縁部に矢羽根状の刻みが施され、3は横走沈線文が巡る。4の口縁は屈曲して立ち上がり、口唇の断面形状は丸状である。5は4と同一個体で、胴部は直立して立ち上がる。胴部文様帯は2~3条1対の縦位沈線文と間に斜位の刻みを充填し、「X」字状を描く。下位には馬蹄形押捺文が施された貼付圍繞帯が巡り複段構成となる。6は胴部下半までの資料で、胴部文様帯は3条1対の斜位沈線文で鋸歯状文を描き、2条の貼付圍繞帯と馬蹄形押捺文で区画している。調整は両面粗雑なミガキで内面は黒色処理が施されている。7は内面黒色処理が施される胴部片。8は6と同一個体の底部で、側面はやや張り出し、変換点は隅丸角状である。底面には木葉痕が認められる。9~12はVII群C4類の坏で同一個体である。9・10の口縁部は無文帯で大きく外傾する。体部文様帯は無文帯下に刻みを巡らし、斜位、縦位沈線文で鋸歯状と樹状文を描く。内外面共にミガキが顕著で、内面は上半まで横ミガキ、下半は縦ミガキを施している。11は脚部立ち上がりから体部にかけての資料で、9・10から続く文様構成が認められる。12は高坏の脚部から底部である。上げ底で底面にはハケメ調整が残る。底面は欠損しているが棒状工具による深い刻みが2カ所認められ、本来は4カ所と思われる。底側縁は沈線文とこれに沿った3段の刻みが施される。脚部は縦ナデ、ミガキ調整である。13は厚みのある礫を素材としたたたき石である。側縁が張り出す部分に敲打とそれに伴う剥離が認められる。14は棒状鉄製品で、中央付近から折れ曲がる。断面は角状を呈し上端は潰れている。下方向に向かって細くなるため釘と思われる。図II-15-1~40はIIIb-01範囲内から出土した完形の構成礫である。完形及び略完形は124点出土しており、被熱資料も認められる。33・38の様に接合破片ごとに色調が異なることから、破損後の被熱とわかる資料も出土している。礫の規模は平均で長軸60.4mm、

短軸 33.6 mm、長短比 1.8 と棒状を呈しているような数値であるが、実際は最小が長軸 15.2 mm 短軸 14.1 mm で完形を見る限りでは規格にややばらつきがある。また、形状も厚みがあるものから扁平なものまでバリエーションが認められる。石材は砂岩が主体で次いで泥岩が多く認められる。  
 (土器：山戸 礫石器・鉄器・礫：奈良)

集中区5



図Ⅱ-4 集中区5平面・断面及び垂直分布図



図Ⅱ-5 集中区5出土土器接合線図



**集中区 6** (図Ⅱ-7～10・16 図版 10-4・5 11-1・2 63-2-1～10)

位置：Z・AA-35 区 規模：(1200) × 1020 cm 検出層位：ⅢbL・Ⅲc

立地：段丘平坦面(西側Ⅲ層削平のため一部不明)

関連遺構：ⅢF-29・ⅢP-05・ⅢSB-12

**確認・調査** Ta-b テフラ除去中、AA-35 区付近で焼骨片の分布が認められた。焼骨片の西側はⅢ層の大部分が削平を受けており、断面によって一部灰層と被熱層が認められたため焼土と判断しⅢF-29 と付番して調査を行った。同時に焼土周辺も同一レベルで掘り下げたところ、東側に礫集中と土器が散在している状態で、その分布から焼土を含めた集中区と判断した。

調査は焼土と遺物を面的に検出した状態で写真撮影し、特に棒状礫が密な地点はⅢSB-12 と付番し微細図で記録して遺物を取り上げた。焼土及びこれに重複した土坑を調査して終了とした。また、焼土を調査する際には燃焼面のフローテーションサンプルを回収している。集中区の範囲に関しては焼土周辺に広がる土器や礫の分布としたが、図上の範囲外に点在する遺物(図Ⅱ-9)は同一レベルであるため、関連する資料と考えられる。

**焼土・土坑**〔ⅢF-29〕位置：Z・AA-35 区 規模：143×59×9 cm 検出層位：ⅢbL

〔ⅢP-05〕位置：Z・AA-35 区 規模：151×(73)×21 cm 検出層位：ⅢbL

**確認・調査** 本遺構はⅢa 層の段階で焼骨片が僅かに認められていたが、帰属層位については西側のⅢ層削平により一部断面が露出しており、予めⅢb 層下位であると知ることができた。調査は被覆する黒色土の層厚を確認するため長軸に合せてベルトを設定し、写真記録後に外して検出写真を撮影した。平面の記録後、断面確認を行った。トレンチで焼土下位に Ta-c テフラを切るⅢ層主体の堆積が認められ、土坑との重複が想定できたため、断面図記録後に燃焼面のサンプルを採取しながら土坑の完掘を行った。完掘写真と平面を記録し調査終了とした。

**堆積** 本遺構は焼土と土坑の重複遺構で、土坑は焼土の真下に位置し、間にプライマリーな黒色土が発達していないことから関連遺構と判断した。土坑はⅤ層上面まで不整形に浅く掘り込まれている。6～9 層はⅣ・Ⅴ層とⅢc 層を均一に含み南側から段階的に堆積し、最終的にⅢc 層主体の 4 層で土坑が埋まりきっている。堆積過程については 4～9 層に灰層や焼土ブロックが認められず、自然堆積後に焼土を形成したと考えられる。焼土は 3 層が燃焼面で 2 層はⅢ層にⅣ層や焼骨片が含まれることから燃焼面及び被熱層を一部攪拌したものと思われる。1 層は灰層で平面でも面的に広がることからこれ以降の攪拌は行われていないと思われる。焼土の下位に土坑を構築する例は本遺跡の 1 号平地式住居跡(中世アイヌ文化期)で認められるが、土坑と焼土の間に細砂を挟むなど異なった点もあり用途は不明である。

**礫集中**〔ⅢSB-12〕位置：AA-35 区 規模：136×104 cm 検出層位：Ⅲc

焼土南東側は礫を主体に土器も広く分布しているが、中でも焼土から約 1.5m 地点には棒状礫がややまとまった状態で出土している。Ⅲc 層まで掘り下げた段階で検出写真及び微細図で記録を行った。なお、本集中とした周辺には 2 cm 以下の細片なども多く出土しているが、写真等の記録は行わず、完形を中心とした礫だけを図化している。遺物の分布は漸位的に広がるが、図に示す範囲で遺構名を付番し、取り上げて調査終了とした。

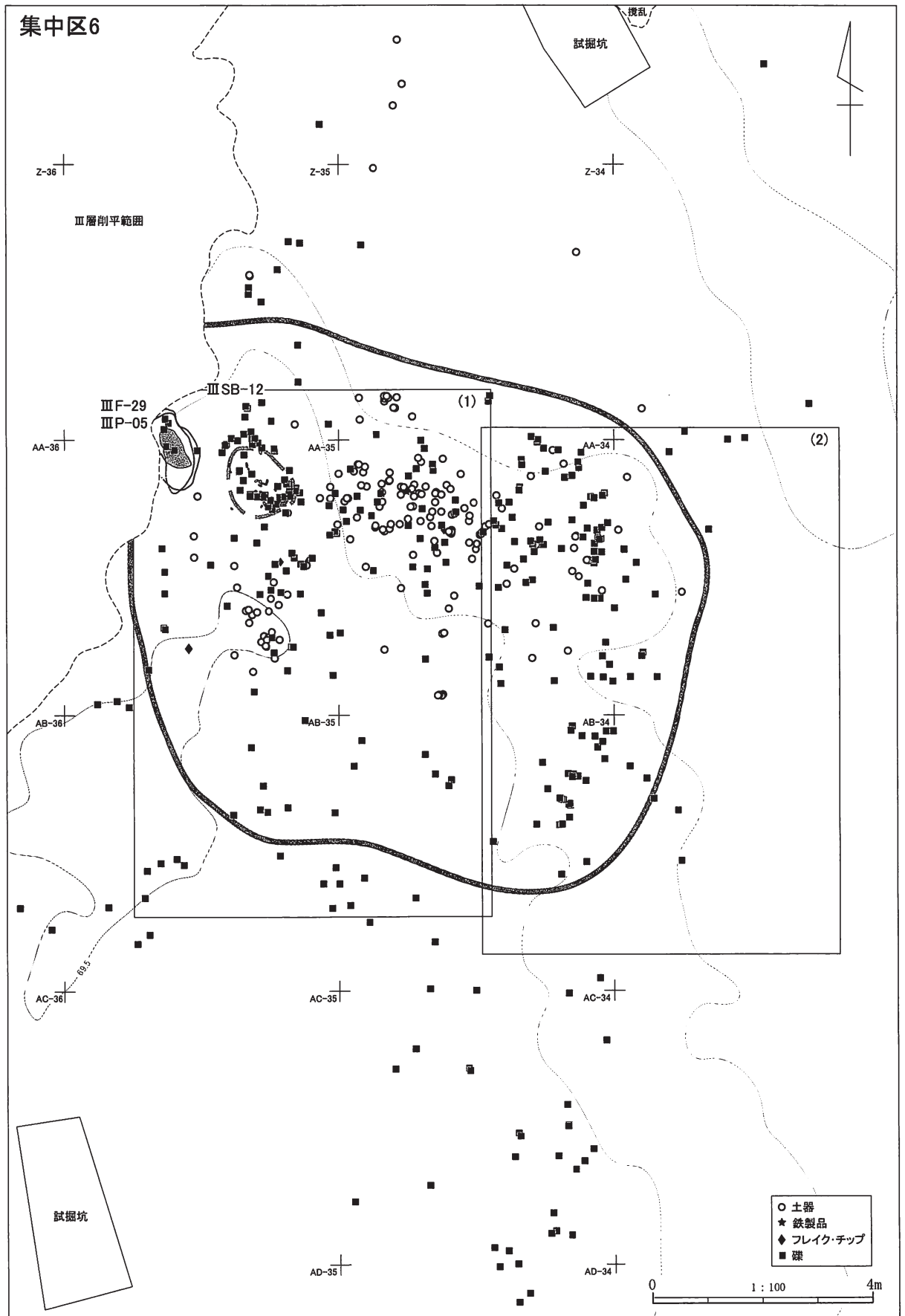
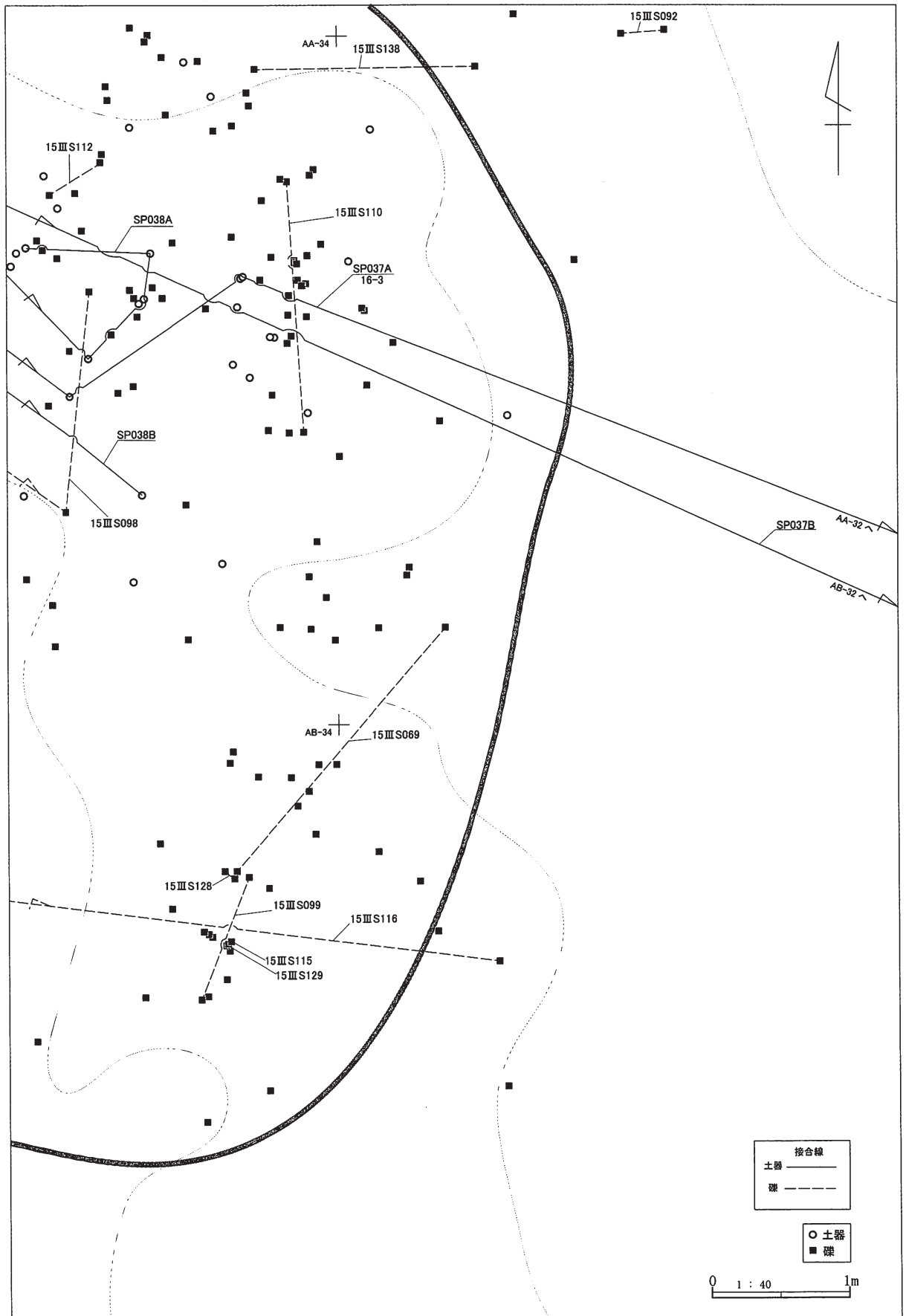


図 II-7 集中区6平面図

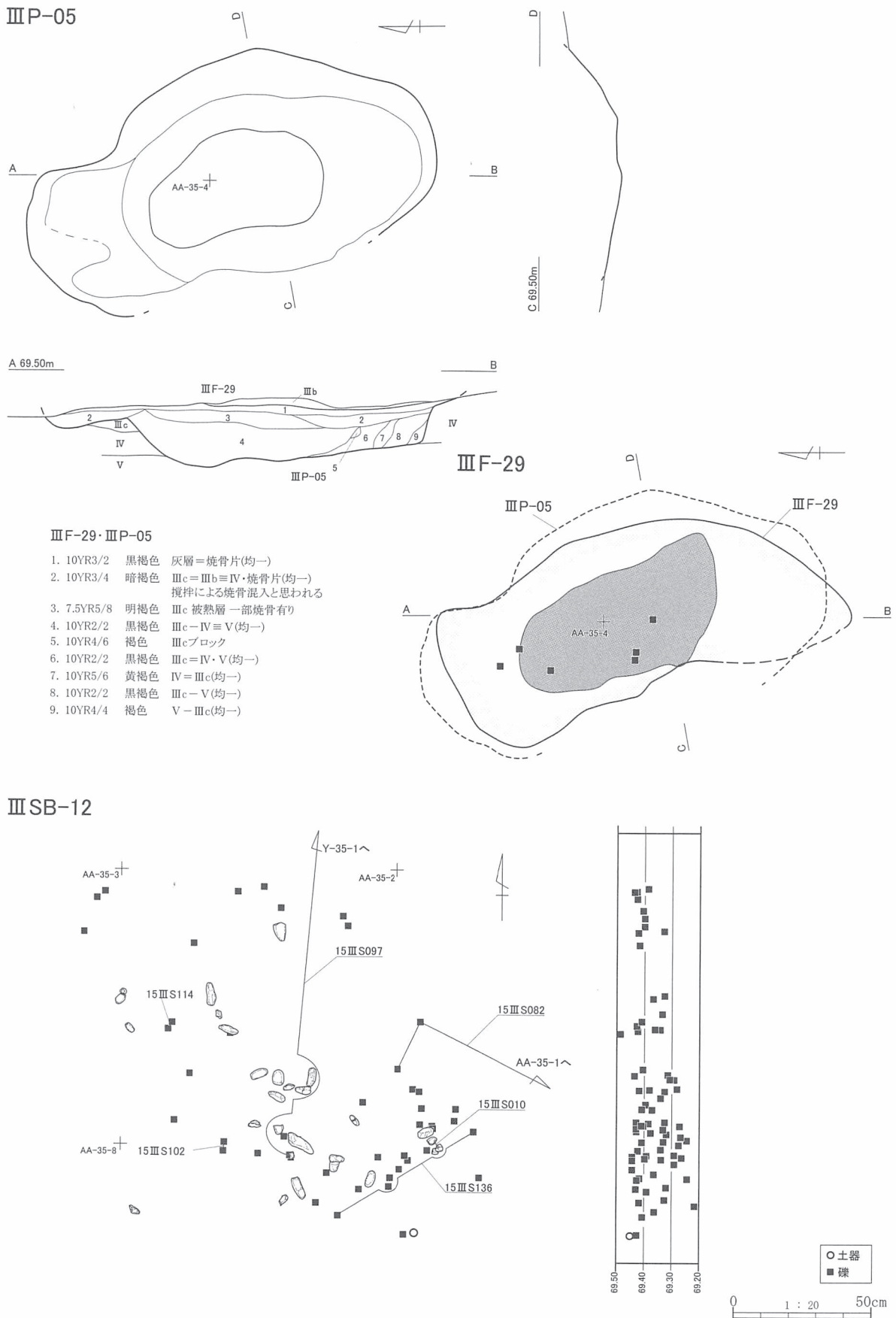




図II-8 集中区6拡大遺物分布図(1)



図Ⅱ-9 集中区6拡大遺物分布図(2)



図II-10 集中区6関連遺構平面・断面及び垂直分布図

**性格** 遺物は焼土周辺に濃い分布域を示しており、同一レベルの検出であることから焼土を含めた集中区と考えられる。焼土北西側は削平のため不明な部分もあるが、焼土には灰層及び焼骨片が残存するため、日常的な作業場としての性格が考えられる。

**出土遺物** (図Ⅱ-16-1~16 図版 63-2-1~10) 1・2はⅦ群 B3 類の同一個体。1は口縁部から胴部下半まで復元した土器である。口唇部は丸状で、口縁部は外反から内湾して立ち上がる。胴部下半は外傾し、上半で直立して立ち上がる。口縁部文様帯には径1cmの馬蹄形押捺文とその下に刻みで矢羽根状文を巡らす。3段目の刻みは不連続で部分的に認められる。胴部文様帯は多条の斜位沈線文で交差させ、2条の横走沈線文で区画後、下位に2~3条1対の斜位沈線文で鋸歯状文を構成する。2は底部で側面はやや張り出し、変換点は隅丸角状である。両面ともにミガキ調整が顕著である。3は口縁部片で口唇には沈線を施し、口縁部には合計3条の横走沈線文と斜位沈線文が施される。横走沈線文の一部には刻みを重ねている。4はⅦ群 C4 類の高坏で上げ底。脚部から比較的急角度に立ち上がり、やや深い器形となる。口唇部は角状で、口縁部と体部の間に段差が認められる。口縁部は横ナデ調整で無文帯、体部は斜位沈線文の後に3条1対の縦位沈線文を施し樹状文風を描いているが規格的ではなく、比較的ラフなモチーフである。内面は横ミガキが顕著で、表面は縦ミガキ主体で脚部変換点に横ミガキがみられる。5~8はⅦ群 C4 類の同一個体である。5は口縁部破片で口唇は丸状。口縁部には1条の浅い横走沈線文が施文される。6は口縁部直下の資料で口縁部文様帯が無文で、体部との境界に刻みがみられる。7・8は体部片で横位、斜位沈線文が施され、8は6から続く刻みが認められる。全体のモチーフは口縁部直下に浅い沈線文、その下位は無文帯、体部は刻みが巡り、その下位には横位、斜位沈線文が施されている。器面は両面横ミガキが施される。9は板状鉄製品で厚さ2.3mmだが錆ぶくれを考慮すると本来はより薄いと思われる。断面では下方に向かって薄くなることから刀子等の破片とも考えられるが判然としない。10~16はⅢSB-12の構成礫で完形は19点出土した。厚さはいずれも10mm以上あり長短比から棒状を呈するものが多いが、標準偏差が10以上示す資料もわずかに認められる。材質は砂岩が主体である。

(土器：山戸 鉄器・礫：奈良)

#### 集中区7 (図Ⅱ-11・12・17 図版 11-3~9 12 64)

位置：M・N-23~25区 規模：約635×455cm 検出層位：ⅢbM

立地：高位段丘面東側縁辺

関連遺構：ⅢF-31・32・ⅢKP-124・126・127・ⅢSB-13~15

**確認・調査** 本集中は高位段丘面のⅢb層を掘り下げていた際に検出した。Ⅲ層は元々遺物が少なく、礫が疎らに出土する程度であったが、N-23・24区付近は被熱した棒状礫が多く出土した。また、当初発掘予定範囲から北側に2mのクリアランスを設けていたが、調査区外のⅢ層上面より礫が既に数点出土しており、これら集中遺物が北側に広がることは予想できた。当初予定範囲を優先させ、V層まで調査した後、拡張を行っている。

調査は礫の周囲を面的に掘り下げたところ、Ⅲb層中位で棒状礫のブロックが比較的まとまって3カ所、焼土1カ所を検出した。それぞれに遺構番号を付番して微細図、断面図、写真の記録を行った。焼土の位置はⅢSB-13~15の内側でほぼ等距離に検出し、礫集中の出土位置から平地式住居跡の可能性が考えられ、台状に残して周囲の柱穴確認調査を行った。柱穴の検出

はⅢc層からⅣ層にかけてジョレンを用いて行ったが、明瞭に認められたのは2基のみであった。その後、北側を拡張し、同一面での遺構、遺物の確認を行ったところ、ⅢF-31の北側に楕円形状の焼土を検出し、ⅢF-32を付番した。調査区外に当初から認められた礫は不定形で、南側に出土したⅢSBとは構成が異なり出土量も少ないことから、集中遺物としては記録していない。これら焼土及び礫集中を残した状態で全体の撮影を行い、北側の柱穴調査をして全体の調査終了とした。

**焼土〔ⅢF-31〕** 位置：N-24区 規模：63×48×8cm 検出層位：ⅢbM

〔ⅢF-32〕 位置：N-23・24区 規模：117×49×6cm 検出層位：ⅢbM

ⅢF-31は礫集中の基底面を精査中、Ⅲb層中位から下位にかけて楕円形プランを確認した。断面確認のため半截したところ、黒色土下位に褐色の被熱層がレンズ状に認められた。ⅢcやⅣ層と明らかに異なる色調を示しており、弱い被熱と考えられた。1層は黒色土主体で、2層を斑状に含む。やや皿状に窪んだ堆積であることからⅢb層まで掘り込んでいる可能性がある。2層下の黒色土は完掘した結果、いびつな形状をしていたため根の影響と考えられる。

ⅢF-32は31の北側に検出した焼土で、南北軸に長楕円形の形状を示す。検出層位はⅢF-31とほぼ同レベルで、Ⅲb上位から黒色土を約2cm被覆して被熱層が認められる。1層とした被熱層は比較的色彩が明るく、付帯黒色土も明瞭である。2層は南側に小規模な範囲で検出され、1層に比べ弱い被熱層である。これらの焼土はいずれも燃焼面及び被熱層に焼骨片や炭化物を含まないことが共通要素として挙げられる。

**杭跡〔ⅢKP-124・126・127〕** 位置：N-23・24区

杭跡は先述したように焼土と礫集中の位置から平地式住居跡を想定していたため、周囲を中心に精査を行ったが検出したのは3基のみであった。杭跡はいずれも打ち込みで、先端はⅤからⅥ層まで達しており特定方向の傾きは認められない。堆積は124・126がⅢ層主体で、127は下位半分がⅤ層主体の堆積である。この杭跡に関しては焼土や礫集中との関連を示すのは難しいが、Ⅲ層主体の堆積であることや、集中区付近であることなどから本集中に含めた。

**礫集中〔ⅢSB-13〕** 位置：N-23区 規模：62×52cm 検出層位：ⅢbM

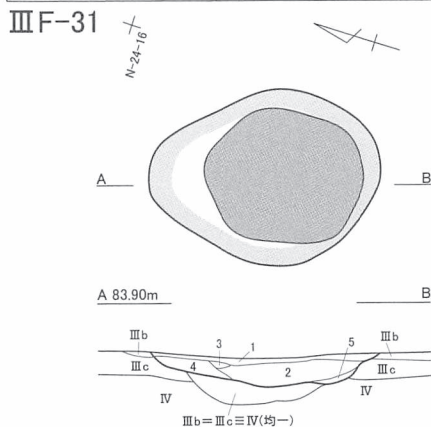
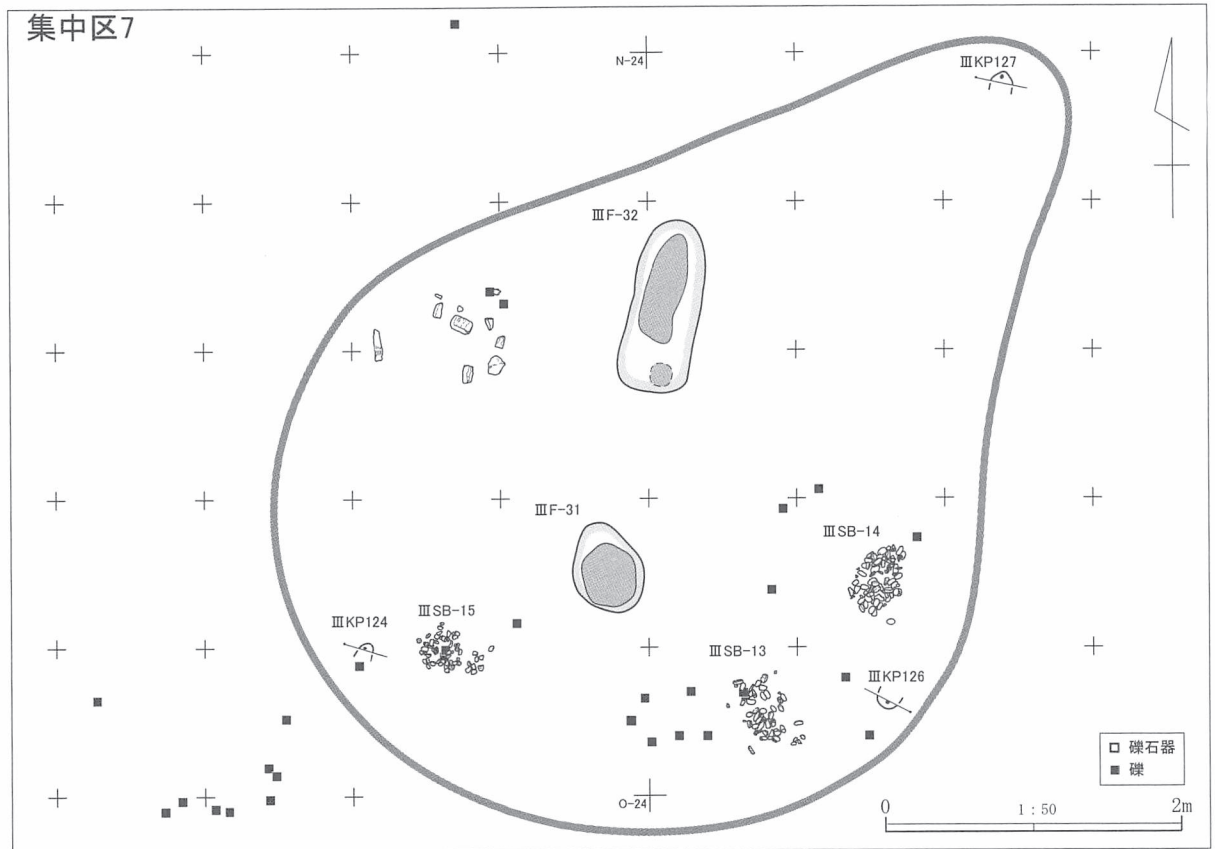
〔ⅢSB-14〕 位置：N-23区 規模：52×40cm 検出層位：ⅢbM

〔ⅢSB-15〕 位置：N-24区 規模：52×33cm 検出層位：ⅢbM

礫集中はⅢb層上位では殆ど認められなかったが、Ⅲb層中位でまとまって出土した。いずれも棒状礫の集中で被熱している。被覆するⅢb層は約2cmで、同段丘面からは礫以外出土していないため検出層位から中世アイヌ文化期に相当すると思われる。ⅢSB-14や15は中心付近に円形の空間があり、柱などの有機質を想定したが下位から杭跡は確認できなかった。出土地点はⅢSB-13とⅢSB-14が約75cm、ⅢSB-13とⅢSB-15が約180cmで近接しており、L字状に分布する。

**性格** 長軸方向に複数の焼土が並び、周囲に棒状礫のまとまりが出土することから、平地式住居跡の可能性もあるが、柱穴の配列がみられないため日常的な作業場であると思われる。

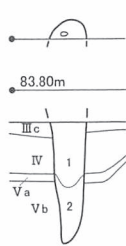
(奈良)



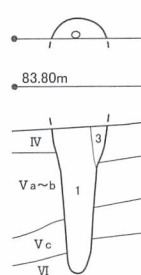
III F-31

1. 10YR2/1 黒色 焼面=焼土(斑状)
2. 7.5YR4/6 褐色 IIIc被熟層
3. 10YR5/6 黄褐色 被熟層に含まれるB-Tm
4. 10YR3/3 暗褐色 IIIc付帯黒色土
5. 10YR3/2 黒褐色 IIIc-IV付帯黒色土

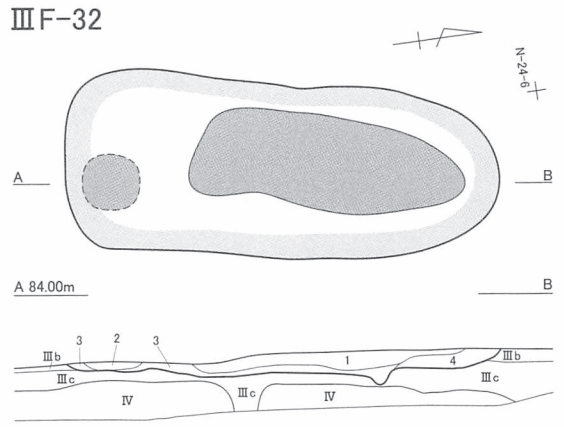
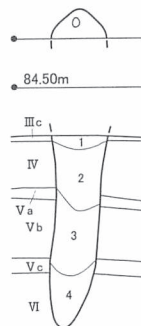
III KP-124



III KP-126



III KP-127



III F-32

1. 7.5YR5/8 明褐色 IIIb被熟層(強)≒汚れたIIIb(斑状)
2. 7.5YR4/6 褐色 IIIb被熟層(弱)
3. 7.5YR3/4 暗褐色 IIIc付帯黒色土 やや粘性強い
4. 7.5YR2/3 極暗褐色 IIIc付帯黒色土 粘性強い

III KP-124・126

1. 10YR2/2 黒褐色 IIIb=IIIc≒IV(均一)
2. 10YR2/1 黒色 IIIb-V(均一)
3. 10YR3/4 暗褐色 IIIb-IV=IIIc(均一)

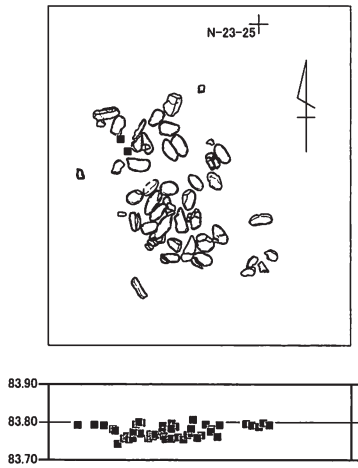
III KP-127

1. 10YR2/2 黒褐色 IIIb=IIIc(均一)しまりやや弱い
2. 10YR2/3 黒褐色 IIIc≒IIIb(均一)しまり弱い
3. 10YR2/2 黒褐色 Vb≒Va(均一)しまり弱い
4. 10YR2/1 黒色 Vb≒Vc(均一)しまり弱い

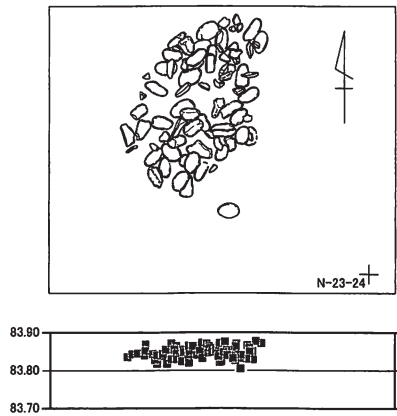


図 II-11 集中区7平面及び断面図

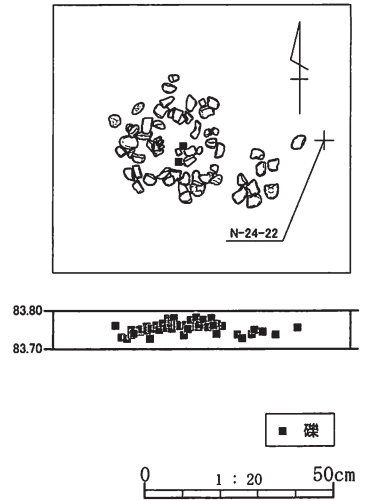
III SB-13



III SB-14

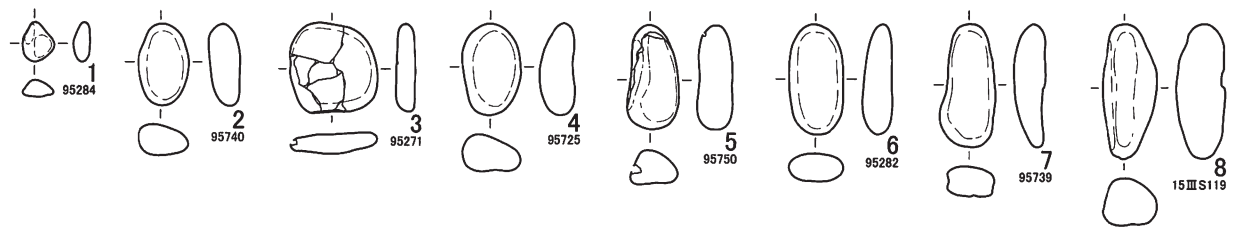


III SB-15

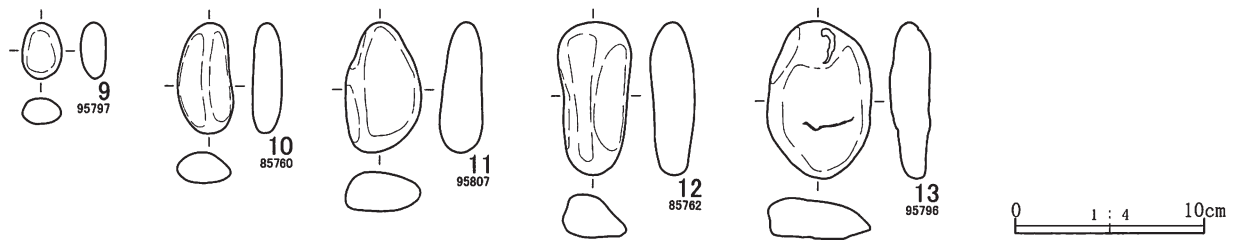


図II-12 集中区7礫集中平面及び垂直分布図

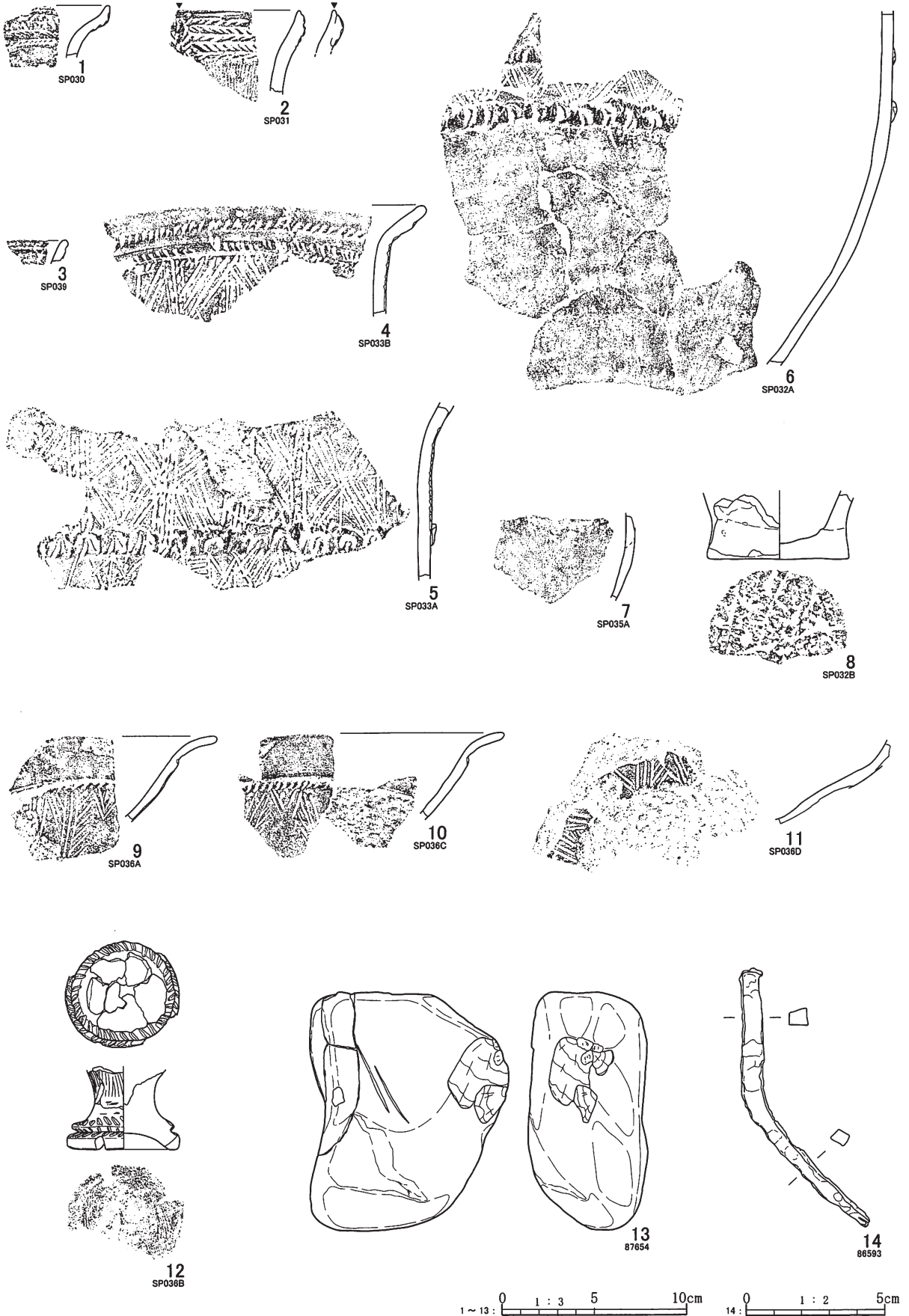
III SB-09



III SB-11



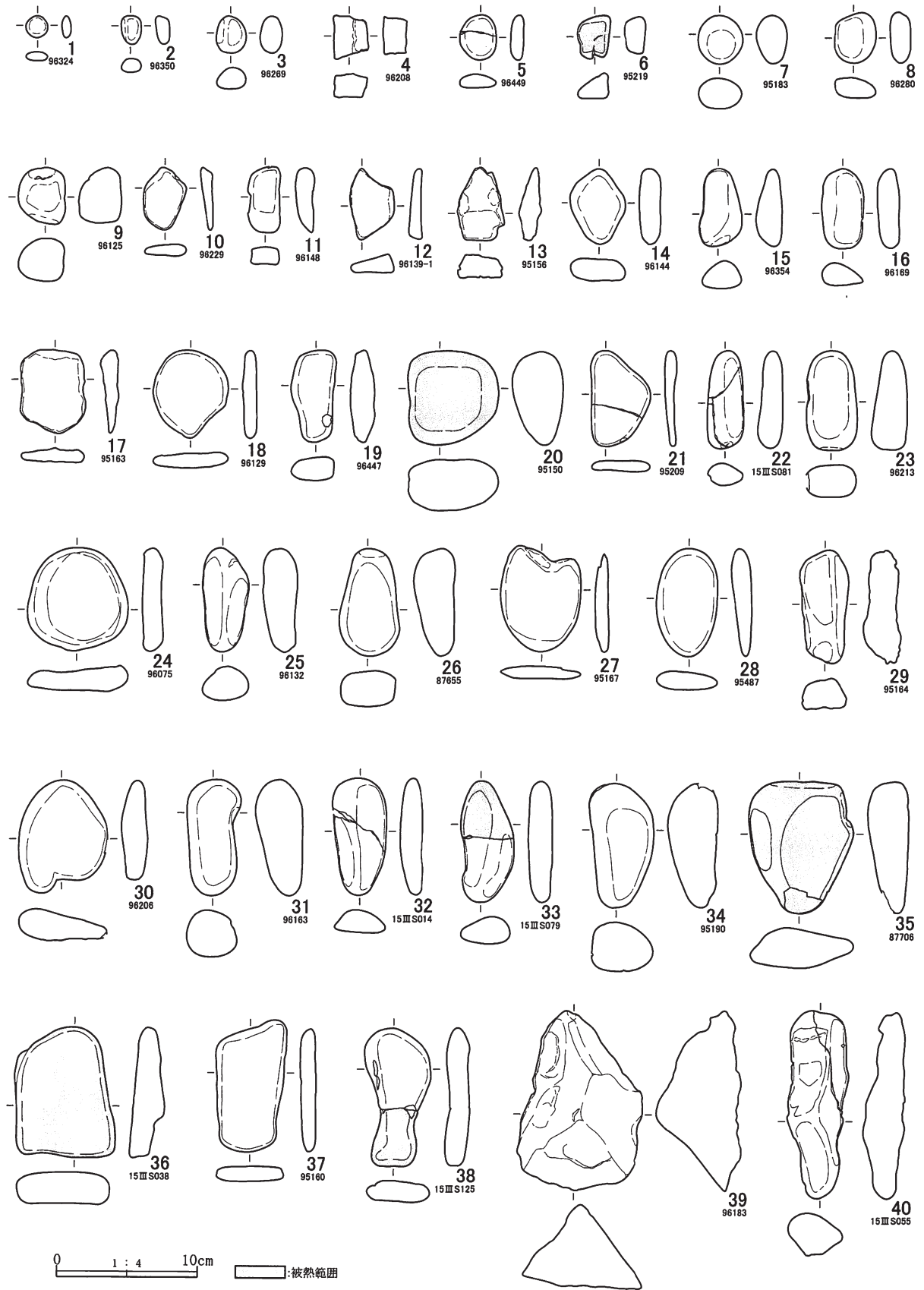
図II-13 集中区4出土礫



図Ⅱ-14 集中区5出土遺物



III B-01



図II-15 集中区5出土礫

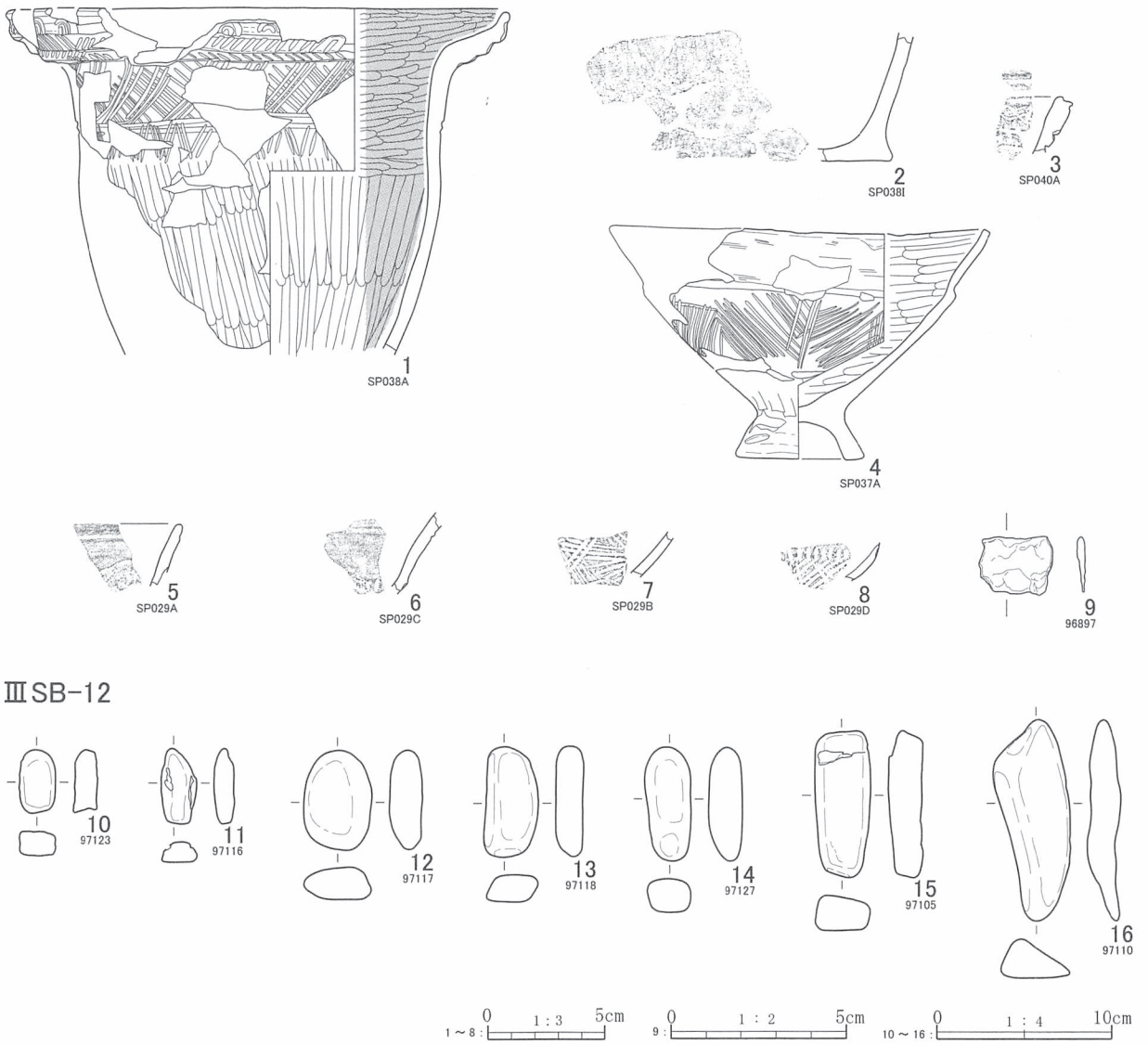
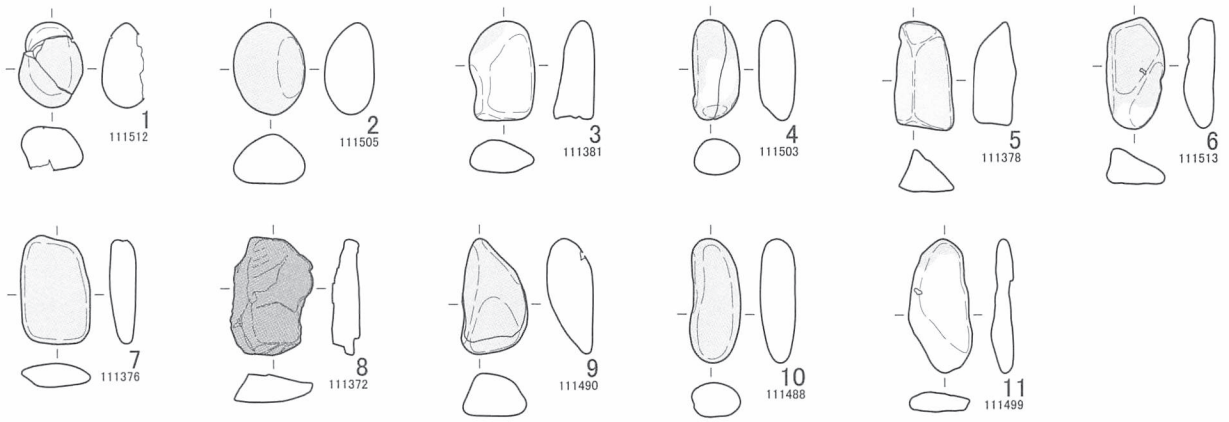
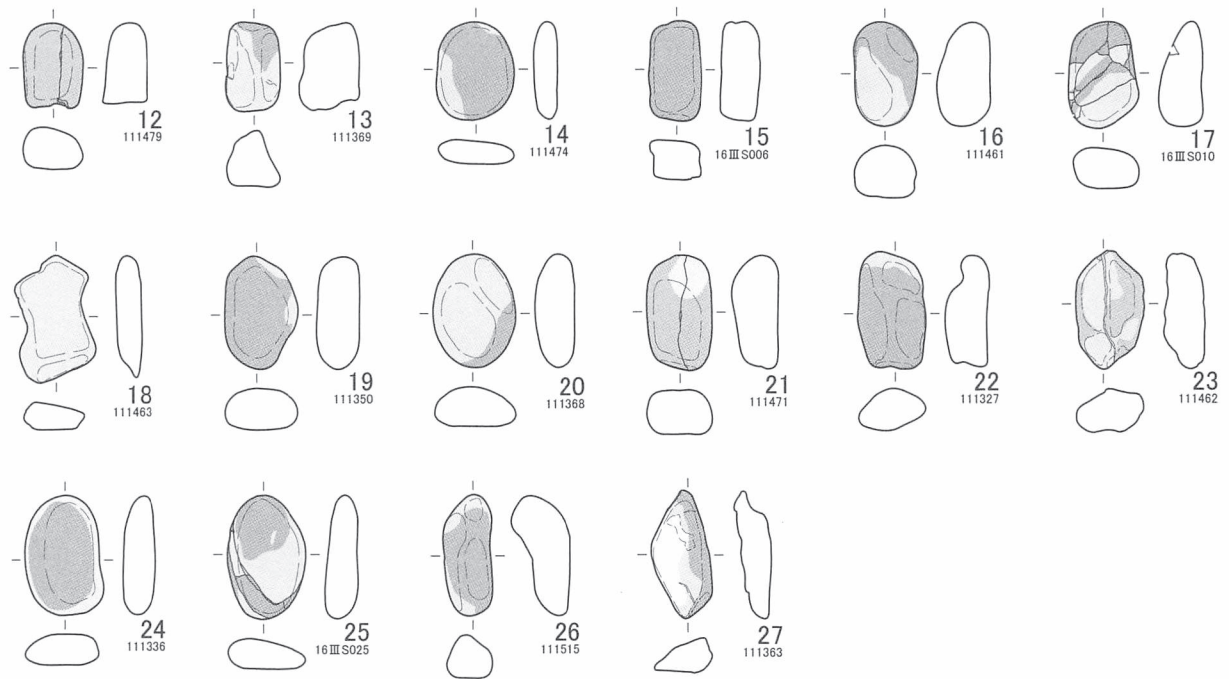


図 II-16 集中区6出土遺物

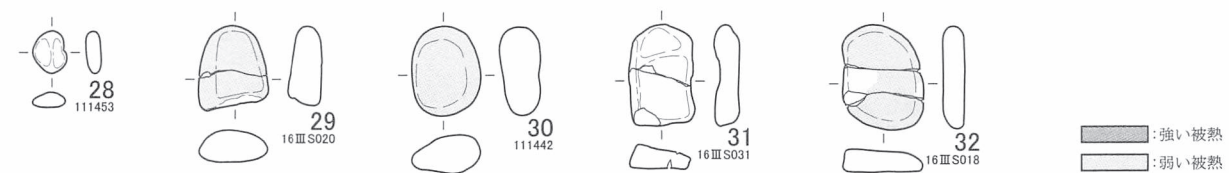
III SB-13



III SB-14



III SB-15



■ : 強い被熱  
□ : 弱い被熱

1 ~ 32 : 0 1 : 4 10cm

図 II-17 集中区7出土礫

## 第2節 焼土

### ⅢF-28 (図Ⅱ-18 図版13-1・2)

位置：Y-30区 規模：(44)×37cm 検出層位：ⅢbU

31ラインの南北トレンチ掘削中、Ⅲb層上位から小規模な倒木痕に切られる形で炭化物を含む被熱層を検出した。周辺を同一レベルまで掘り下げたが遺構、遺物は検出されず、単独の焼土と判断し平面、断面の記録を行って調査終了とした。

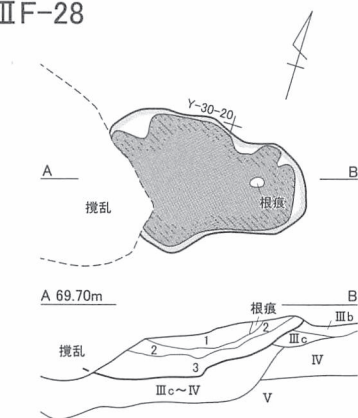
焼土下位にはⅢc～Ⅳ層の乱れた層位が認められるが、根等によるものと考えられる。その上位には付帯黒色土と焼土1～3層が形成される。西側は後の倒木痕により浅い窪みとなり一部攪乱を受けている。燃焼面には灰層、焼骨片等がなく、微細遺物も認められない。時期は検出層位から中世アイヌ文化期であるが同一層位からの遺物が殆ど出土していないため詳細は不明である。

### ⅢF-30 (図Ⅱ-18 図版13-3・4)

位置：T-32区 規模：31×24cm 検出層位：ⅢbU

Ⅲb層上位調査中に焼土を検出した。ベルトを設定し周囲を掘り下げたが、同一レベルでは遺物は出土していないため単独の焼土と判断した、付番して平面、断面の記録を行って調査終了とした。断面で焼骨片などは確認することができず、一部に炭化物が認められる。時期はⅢF-28と同じ検出層位であるため、中世段階のアイヌ文化期の可能性が考えられる。(奈良)

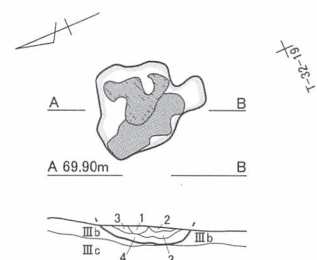
ⅢF-28



ⅢF-28

- |            |        |                      |
|------------|--------|----------------------|
| 1. 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Ⅲb被熱層(強)=焼土粒(斑状)=炭化物 |
| 2. 10YR3/1 | 黒褐色    | Ⅲb被熱層(弱)=焼土粒(斑状)=炭化物 |
| 3. 10YR2/2 | 黒褐色    | Ⅲc付帯黒色土              |

ⅢF-30



ⅢF-30

- |             |       |              |
|-------------|-------|--------------|
| 1. 7.5YR5/6 | 明褐色   | Ⅲb被熱層(強)     |
| 2. 10YR3/1  | 黒褐色   | Ⅲb落ち込み       |
| 3. 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅲb被熱層(弱)=炭化物 |
| 4. 10YR3/1  | 黒褐色   | Ⅲb付帯黒色土      |

0 1 : 20 50cm

図Ⅱ-18 ⅢF-28・30平面及び断面図

### 第3節 杭跡

IIIKP-121~123 (図II-19 図版13-5~11)

位置：AD・AE-28区 検出層位：IV

IIIc からIV層にかけてジョレンを用いて遺構確認したところ、IV層上面で円形黒色プランを確認した。プランは北東-南西軸に並んでおり建物跡等の可能性を考慮したが、過年度調査区にも検出しておらず、杭跡として報告する。

杭跡は上端が17cm以上で比較的太いが掘り方は確認できない。先端は尖り状で、いずれも打ち込みタイプとなる。傾きはIIIKP-122がやや南東に傾くがほぼ垂直である。堆積はIII層主体でIV層が混じる。覆土にTa-bテフラが混入しないことや、本遺跡に近世初頭アイヌ文化期が認められないことから、擦文から中世アイヌ文化期の所産と考えられる。(奈良)

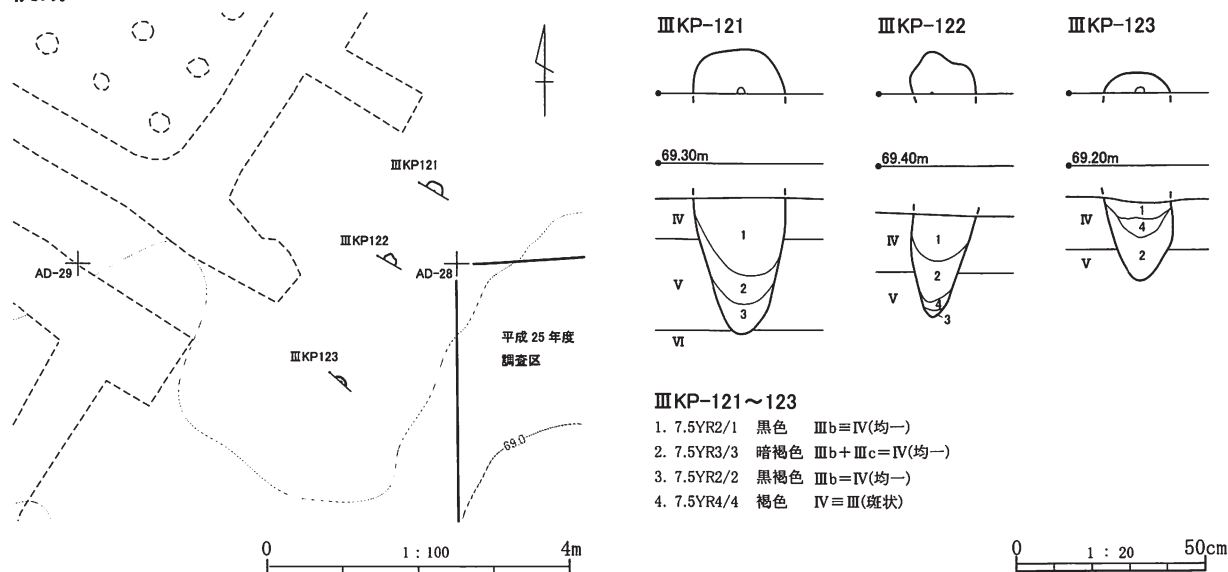
### 第4節 炭化物集中

III CB-03 (図II-20 図版14-2)

位置：Y-11・12区 検出層位：IIIc

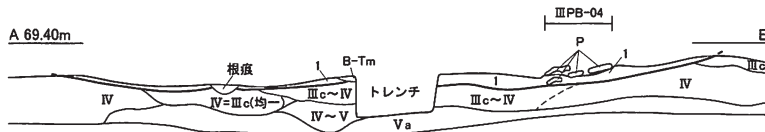
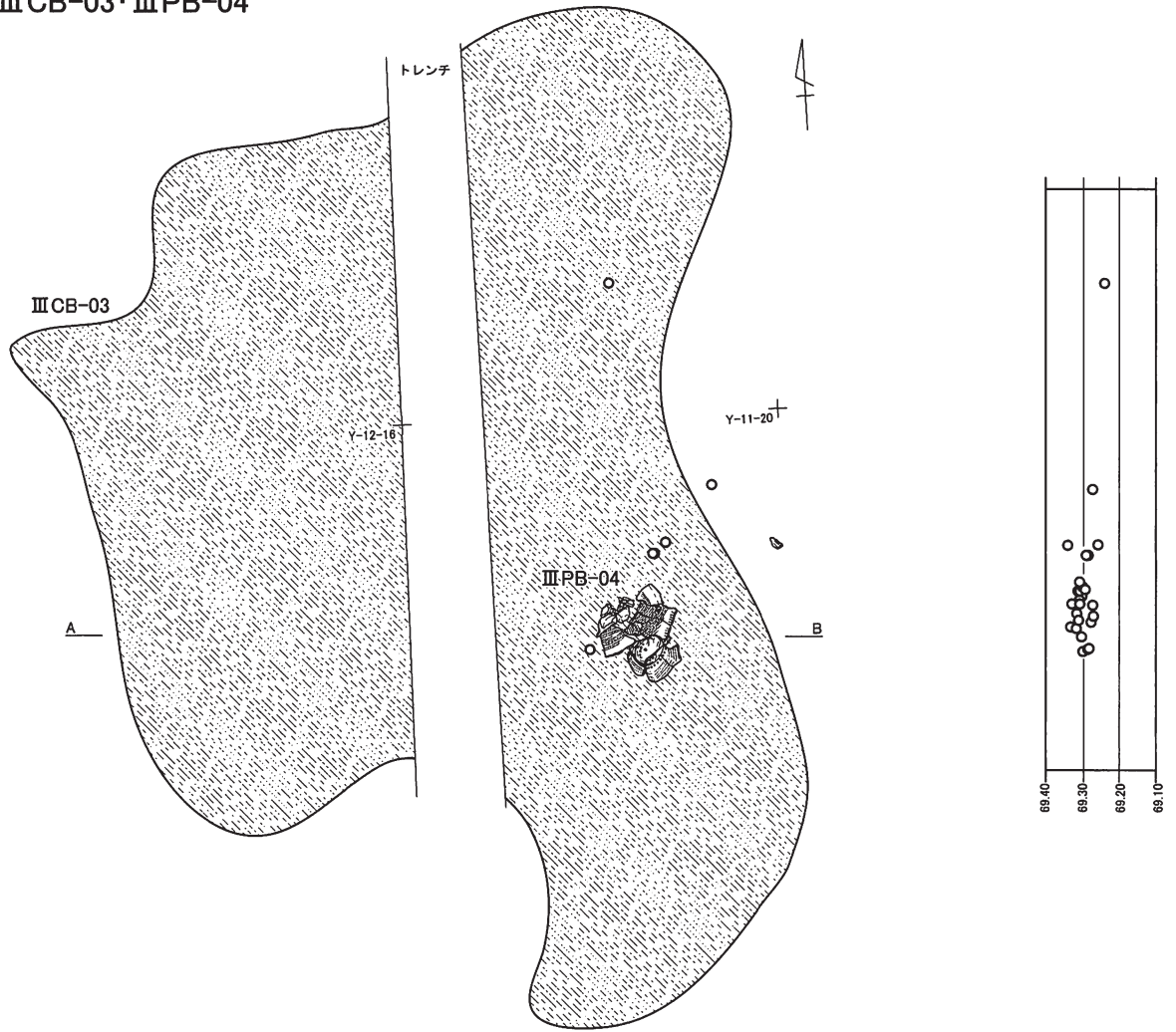
III PB-04 調査中に検出した。平面の精査を行ったところIIIc層に不整形な広がり認められた。トレンチで断面確認したところ、IIIc~IV層を基底面に最大厚約4cmで炭化物がみられた。焼土や他の混入物は認められず、炭化物集中上の一部には土器集中が分布している。(奈良)

### 杭跡



図II-19 杭跡平面及び断面図

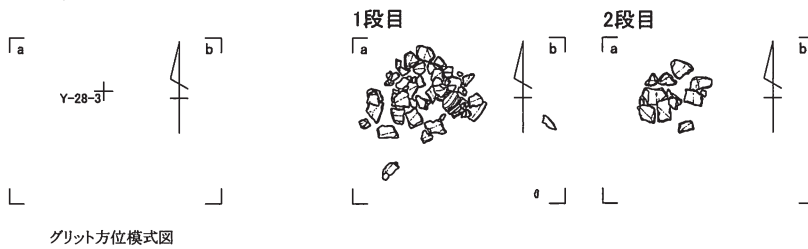
ⅢCB-03・ⅢPB-04



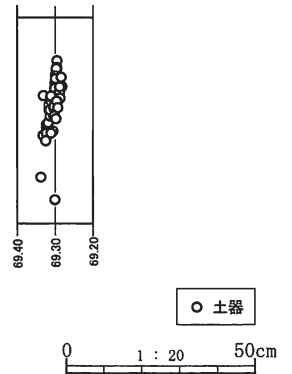
ⅢCB-03

1. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅲc=炭化物(φ10 ↓ 均一)

ⅢPB-06



グリット方位模式図



図Ⅱ-20 ⅢCB-03・ⅢPB-04・06平面・断面及び垂直分布図

## 第5節 集中出土遺物

### 1. 土器集中

今回出土した土器集中は擦文文化期前期（ⅢPB-06）、続縄文文化期後葉（ⅢPB-05）、続縄文文化期前葉（ⅢPB-04）の3カ所で、関連遺構はⅢPB-04と同一レベルで検出したⅢCB-03以外認められない。分布域はいずれも段丘中央付近に検出され、出土位置など特徴的な傾向は認められない。以下に詳細を記す。

#### ⅢPB-04（図Ⅱ-20・22-1・2 図版14-1・2）

位置：Y-11区 規模：38×30cm 検出層位：Ⅲc

**確認・調査** Y-11区をⅢc層まで掘り下げたところ、比較的大きな土器片がまとまって出土した。検出段階で土器底部が2個体以上あることが認められ、一部重なるように出土することから土坑等を想定し断面で土器下位の堆積を確認した。断面から付属遺構は認められなかったため、単独の土器集中と判断、平面を記録して取り上げた。また、土器の分布範囲を確認する際に周囲を同一レベルで掘り広げたところⅢc層に炭化物が混入する範囲を認めたためⅢCB-03と付番し範囲及びサンプルを回収して調査終了とした。（奈良）

**出土遺物**（図Ⅱ-22-1・2 図版65-1・2） 1・2はⅥ群A1b類の鉢底部で、1は底部側面がやや張り出し、底部変換点は隅丸角状である。底面は中央部が凸底になる上げ底である。地文は横位のLR縄文を施し、底側面には刺突列が巡り、底面には同一工具で同心円状に施文される。2も鉢底部で、底部側面が張り出し、底部変換は隅丸角状である。底面は中央部がやや凸底になる上げ底である。地文は胴部下半に整然としない縦位のRL縄文と底部付近は横位のRL縄文が施文される。（山戸）

#### ⅢPB-05（図Ⅱ-21・22-3～5 図版14-3～5 65-3～5）

位置：W-19・20区 規模：286×128cm 検出層位：ⅢbL・Ⅲc

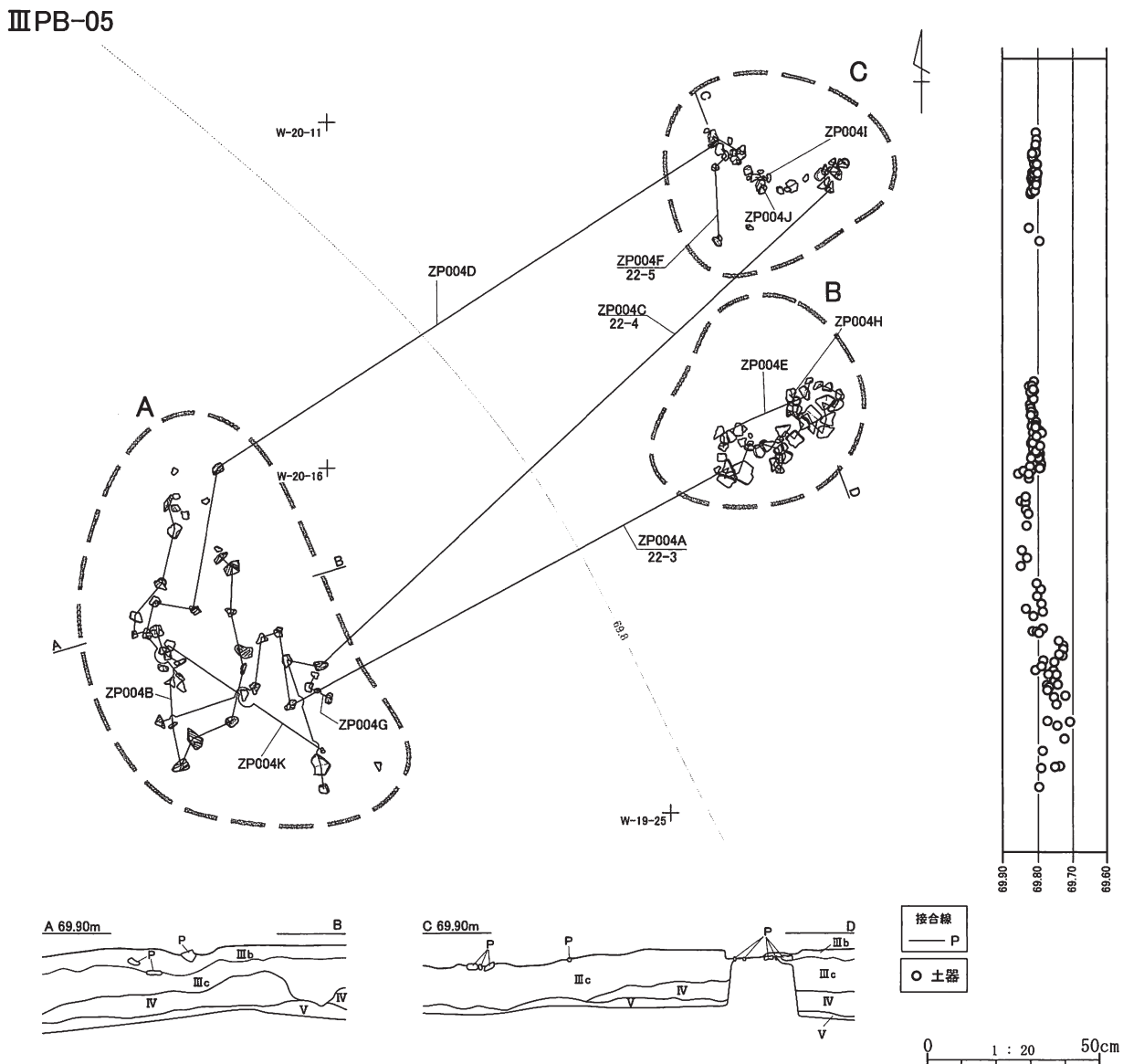
**確認・調査** Ⅲb層下位を調査中、土器片が比較的まとまって出土した。土器から続縄文文化期の所産であったため、Ⅲb層下位で出土した土器を台状に残し、周囲をⅢc層まで掘り下げた。当初まとまって出土した地点から北西側1.5m地点のⅢc層でも土器片が出土したが、いずれも同一個体であったため同一の番号を付番し、平面、断面の記録と取り上げを行い調査終了とした。（奈良）

**出土遺物**（図Ⅱ-22-3～5 図版65-3～5） 3～5はⅥ群C4類の同一個体片で、3・4は胴部、5は底部である。器形は底部から直線状に外傾し、胴部上半から直立に近くなる。胴部上半の文様はRL帯縄文で横位、弧状を描き、胴部下半は4～5条単位の帯縄文が縦方向に施文される。5の底部変換点は隅丸角状、平底である。顕著ではないが、底部側面には横ナデ、ミガキの調整痕がみられる。（山戸）

#### ⅢPB-06（図Ⅱ-20・22-6 図版14-6 65-6）

位置：X・Y-28区 規模：56×38cm 検出層位：Ⅲc

**確認・調査** Ⅲc層調査中、56×38cmの狭い範囲に土器がまとまって出土した。土器は口縁部から底部まであり、周囲には遺物が認められない状態であった。調査は付番を行った後、検出写真と微細図を記録して遺物を取り上げた。なお、土器の出土状態は1個体が横に潰れた状態であったため、土坑などの掘り込みがないか断面確認したが認められなかった。（奈良）



図Ⅱ-21 III PB-05平面・断面及び垂直分布図

出土遺物(図Ⅱ-22-6 図版 65-6) 6はⅦ群 B1a 類で、擦文文化期前期後半に分類した土器である。口唇部は角状で、口縁部は緩く外傾して開く。底部から胴部はやや外傾して、胴部上半で膨らみをもって立ち上がる。底部変換点は隅丸角状で、平底である。口唇部には板状工具による調整が見られ、口縁部文様帯には3条の段状沈線文が施される。胴部は縦ミガキ調整で、口縁部文様帯の段状沈線文に切られている。内面は口縁部が横ミガキ、胴部以下は縦ミガキ調整がみられる。(山戸)

## 第6節 包含層出土遺物

### 1. 土器(図Ⅱ-23-1~3 図版 66-1~3)

1・2はⅦ群 B3 類の同一個体片で、1は口縁部から胴部上半の破片である。口唇部は丸状で胴部上半は直立し、口縁部で外反して立ち上がる。口縁部文様帯は2段の刻みにより矢羽根状を構成する。また、口縁部直下に剥落のため不鮮明であるが、一部刻みが施されるボタン状の貼



付文が付される。胴部文様帯は2を見ると、やや不規則であるが、2条1対の縦位沈線文とその間に刻みを充填し、この縦位沈線文を繋ぐように斜位沈線文が施文されている。下位には刻みと貼付囲繞帯、馬蹄形押捺文が施され文様帯を区画している。内面は口縁部が横ミガキ、胴部は縦ミガキ調整である。なお、1の胴部には補修孔が認められる。3は胴部下半から底部にかけての破片で、底面は欠損している。表面は縦のハケメ、内面は縦のミガキが施されている。  
(山戸)

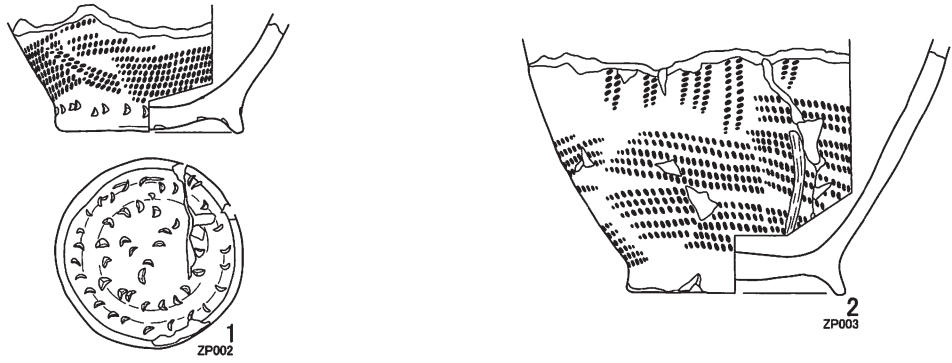
## 2. 剥片石器 (図Ⅱ-23-4 図版 66-4)

Ⅲ層からはポイント類2点が出土し、そのうち1点を図示した。4は平基の無茎石鏃である。素材形状が湾曲しているため、側面観は直線状にならない。裏面に素材の主剥離面が残る。  
(矢野)

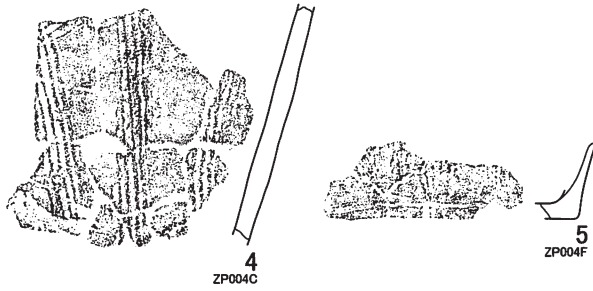
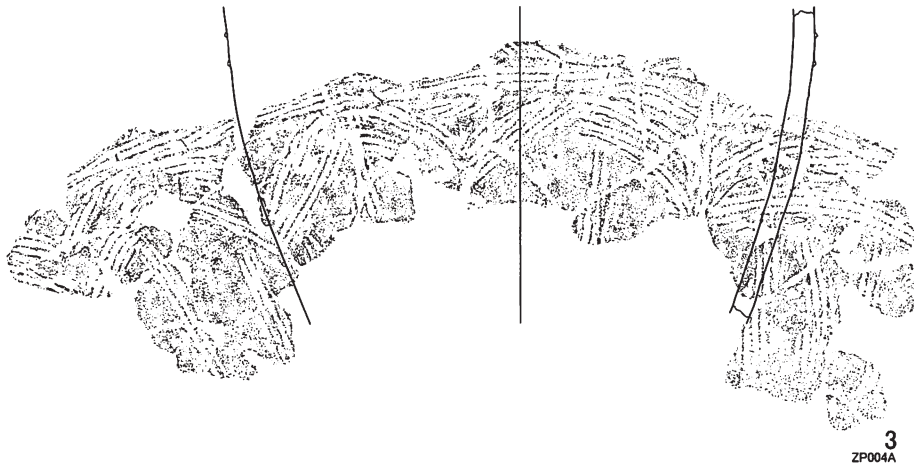
## 3. 礫石器 (図Ⅱ-23-5～9 図版 66-5～9)

Ⅲ層包含層出土の礫石器は破片を含めて10点である。内訳はたたき石5点、台石1点、線状痕のある礫1点、滑沢面のある礫2点、加工痕のある礫1点で、そのうち5点を図示した。5はたたき石で棒状礫を素材としたもの。折損しており正面に2単位の敲打痕が、端部には密集した剥離と敲打痕がある。6は重量から便宜的に台石に分類したもの。厚みのある礫を素材として主に縁辺部に敲打痕が認められることからたたき石として使用していたものと思われる。7は縦長の礫の破片を素材とした滑沢面のある礫。中心よりやや上に滑沢面が認められる。8は線状痕のある礫。断面三角形の亜角礫を素材とし、片面に2方向の深く明瞭な線状痕が認められる。約2m南西に遺物集中ⅢB-01があり、出土層位から関連する可能性もある。9は加工痕のある礫で扁平な不整形礫を素材としたもの。上端部に4枚の連続した剥離があり、裏面に剥離と敲打痕が認められる。5～7と9は砂岩製、8は溶結凝灰岩製である。  
(宮崎)

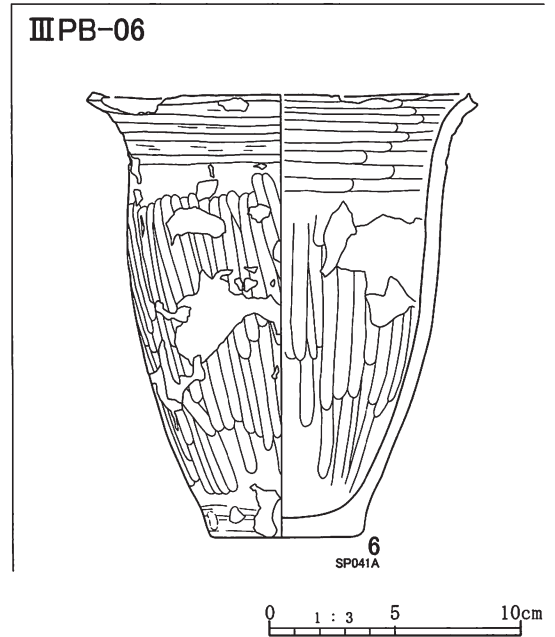
ⅢPB-04



ⅢPB-05



ⅢPB-06



図Ⅱ-22 ⅢPB出土土器



図Ⅱ-23 Ⅲ層包含層出土遺物

表Ⅱ-1 Ⅲ層遺構群一覽表

遺構名	帰属時期	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
		長軸	短軸				
集中区4	擦文文化期	450	300	AC-13・14	ⅢbL/ Ⅲc	ⅢF-26・27 ⅢSB-09・11	作業場
集中区5	擦文文化期	456	(268)	S・T-7	ⅢbL	ⅢB-01	遺物集中
集中区6	擦文文化期	(1200)	1020	Z・AA-35	ⅢbL/ Ⅲc	ⅢF-29、ⅢP-05 ⅢSB-12	ⅢF-29とⅢP-05 重複
集中区7	中世 アイヌ文化期	635	455	M・N-23～25	ⅢbM	ⅢF-31・32 ⅢSB-13～15 ⅢKP-124・126・127	B区東側縁辺
ⅢF-28	中世後半 アイヌ文化期	(44)	37	Y-30	ⅢbU	-	
ⅢF-30	中世後半 アイヌ文化期	31	24	T-32	ⅢbU	-	
ⅢKP-121	擦文～中世 アイヌ文化期	24	-	AE-28	Ⅳ	-	
ⅢKP-122	擦文～中世 アイヌ文化期	17	-	AE-28	Ⅳ	-	
ⅢKP-123	擦文～中世 アイヌ文化期	18	-	AD-28	Ⅳ	-	
ⅢCB-03	続縄文文化期	249	212	Y-11・12	Ⅲc	-	
ⅢPB-04	続縄文文化期	38	30	Y-11	Ⅲc	-	
ⅢPB-05	続縄文文化期	286	128	W-19・20	ⅢbL/ Ⅲc	-	A・Bブロックあり
ⅢPB-06	擦文文化期	56	38	X・Y-28	Ⅲc	-	

表Ⅱ-2 ⅢP属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	備考	
					調査面 /坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅱ-10	10-4・5 11-1	集中区6	ⅢP-05	Z・AA-35	ⅢbL	不整形/不整形	151	(73)	65	35	21	N-17° W	-	1.9	

表Ⅱ-3 ⅢF属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考	
						長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-3	8-1～5	集中区4	ⅢF-26	AC-13	ⅢbL/Ⅲc	長楕円形	96	41	7	有	
Ⅱ-3	8-1・2 9-1・2		ⅢF-27A	AC-13	ⅢbL/ Ⅲc	円形	49	48	7	有	
			ⅢF-27B			円形	10	10	2	有	
Ⅱ-18	13-1・2	-	ⅢF-28	Y-30	ⅢbU	不整形	(44)	37	11	-	
Ⅱ-10	10-4 11-1	集中区6	ⅢF-29	Z・AA-35	ⅢbL	不整形	143	59	9	有	ⅢP-05重複
Ⅱ-18	13-3・4	-	ⅢF-30	T-32	ⅢbU	不整形	31	24	5	-	
Ⅱ-11	11-3・5 12-1	集中区7	ⅢF-31	N-24	ⅢbM	楕円形	63	48	8	-	
Ⅱ-11	11-4・6		ⅢF-32	N-23・24	ⅢbM	隅丸 長方形	117	49	6	-	

表Ⅱ-4 杭跡属性表

挿図番号	図版番号	遺構名		グリッド	層位	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
						上端	下端	深さ			
Ⅱ-19	13-5~7	-	ⅢKP-121	AE-28	Ⅳ	24	2	36	0	打込み	
Ⅱ-19	13-5・8・9	-	ⅢKP-122	AE-28	Ⅳ	17	1	27	3	打込み	
Ⅱ-19	13-5・10・11	-	ⅢKP-123	AD-28	Ⅳ	18	2	21	4	打込み	
Ⅱ-11	12-2・3	集中区7	ⅢKP-124	N-24	Ⅲc	9	1	33	3	打込み	
Ⅱ-11	12-4・5		ⅢKP-126	N-23	Ⅲc	15	2	40	0	打込み	
Ⅱ-11	12-6・7		ⅢKP-127	N-23	Ⅲc	14	2	52	7	打込み	

表Ⅱ-5 ⅢSB・ⅢB・ⅢPB・ⅢCB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名		グリッド	層位	平面形	規模(cm)		被熱の有無	備考
							長軸	短軸		
Ⅱ-3	8-1 9-3	集中区4	ⅢSB-09	AC-14	ⅢbL/Ⅲc	不整形	140	100	有	
Ⅱ-3	8-1 9-4・5		ⅢSB-11	AC-13	ⅢbL/Ⅲc	不整形	156	120	-	
Ⅱ-4	10-1~3	集中区5	ⅢB-01	S・T-7	ⅢbL	不整形	456	(268)	有	
Ⅱ-10	11-2	集中区6	ⅢSB-12	AA-35	Ⅲc	不整形	136	104	-	
Ⅱ-12	11-7 12-1	集中区7	ⅢSB-13	N-23	ⅢbM	不整形	62	52	有	
Ⅱ-12	11-8 12-1		ⅢSB-14	N-23	ⅢbM	楕円形	52	40	有	
Ⅱ-12	11-9 12-1		ⅢSB-15	N-24	ⅢbM	不整形	52	33	有	
Ⅱ-20	14-1・2	-	ⅢPB-04	Y-11	Ⅲc	楕円形	38	30	-	
Ⅱ-21	14-3~5	-	ⅢPB-05A	W-19・20	ⅢbL/Ⅲc	楕円形	128	74	-	
			ⅢPB-05B			楕円形	45	18	-	
			ⅢPB-05C			不整形	46	36	-	
Ⅱ-20	14-6	-	ⅢPB-06	X・Y-28	Ⅲc	不整形	56	38	-	
Ⅱ-20	14-2	-	ⅢCB-03	Y-11・12	Ⅲc	不整形	249	212	-	

表Ⅱ-6 Ⅲ層遺構出土土器属性表(擦文文化期)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物 番号	遺構名/ グリッド	層位	点数	器種	部位	器面調整		文様 口縁部/文様帯	備考
										内側	外側		
Ⅱ-14-1	62-2-1	SP030	VIB3	96504	集中区5 /S-7	ⅢbL	1	甕	口縁部	横ミガキ	ミガキ	矢羽根状刻み/-	
Ⅱ-14-2	62-2-2	SP031	VIB3	96234・ 96389	集中区5 /S-7	ⅢbL	2	甕	口縁部 ～胴部	横ミガキ	縦ハケメ	横走沈線文・矢羽 根状刻み・貼付文 +斜位沈線文/-	
Ⅱ-14-3	62-2-3	SP039	VIB3	95270	集中区5 /T-7	ⅢbL	1	甕	口縁部	横ミガキ	横ナデ	横走沈線文	
Ⅱ-14-4	62-2-4	SP033B	VIB3	87011・ 85379 他3点	集中区5 /U-8	ⅢbL	5	甕	口縁部 ～胴部	横ミガキ	横ナデ・ ミガキ	横走沈線文・矢羽 根状刻み/縦位 沈線文・刺突文・ 斜位沈線文	
Ⅱ-14-5	62-2-5	SP033A	VIB3	95237・ 95143 他4点	集中区5 /T-7	ⅢbL	6	甕	胴部	横ミガキ	横ナデ	縦位沈線文・刺突 文・斜位沈線文 ・貼付圍繞帯+ 馬蹄形押捺文 ・斜位・縦位 ・横位線文・刺突文	
Ⅱ-14-6	62-2-6	SP032A	VIB3	96238・ 96237 他3点	集中区5 /S-7・U-8	ⅢbL	5	甕	胴部	縦ミガキ	縦ナデ・ 縦ミガキ	斜位沈線文・貼付 圍繞帯+馬蹄形 押捺文	
Ⅱ-14-7	62-2-7	SP035A	VIB3	96258	集中区5 /S-7	ⅢbL	1	甕	体部	縦ナデ・ 縦ミガキ	縦ナデ・ 縦ミガキ	-	
Ⅱ-14-8	62-2-8	SP032B	VIB3	96242	集中区5 /T-7	ⅢbL	1	甕	底部	-	縦ナデ・ 縦ミガキ	-	底面に 木葉痕
Ⅱ-14-9	62-2-9	SP036A	VIC4	96503・ 96501 他2点	集中区5 /S-7	ⅢbL	4	坏	口縁部 ～体部	横ミガキ・ 縦ミガキ	横ナデ・ 横ミガキ	横走沈線文・刻み ・縦位沈線文・ 斜位沈線文/-	
Ⅱ-14-10	62-2-10	SP036C	VIC4	85417・ 96259 他2点	集中区5 /S-6・7・ T-7	ⅢbL Ⅲc	4	坏	口縁部 ～体部	横ナデ・ 横ミガキ・ 縦ミガキ	横ナデ・ 横ミガキ	横走沈線文・刻み ・斜位沈線文/-	
Ⅱ-14-11	62-2-11	SP036D	VIC4	96251・ 96250 他3点	集中区5 /T-7	ⅢbL	5	坏	体部	縦ミガキ	縦ナデ・ 縦ミガキ	縦位沈線文・斜位 沈線文	
Ⅱ-14-12	62-2-12	SP036B	VIC4	96431・ 96244	集中区5 /T-7	ⅢbL	2	坏	体部	-	ハケメ 縦ナデ・ 縦ミガキ	矢羽根状刻み	底面 ハケメ
Ⅱ-16-1	63-2-1	SP038A	VIB3	95400・ 97092 他30点	集中区6/ /Y-34・ AA-34・35	ⅢbM ⅢbL Ⅲc	32	甕	口縁部 ～胴部	横ミガキ・ 縦ミガキ	横ミガキ・ 縦ミガキ	馬蹄形押捺文・ 矢羽根状刻み/ 横走沈線文・ 斜位沈線文 ・鋸齒状文	
Ⅱ-16-2	63-2-2	SP038I	VIB3	96889・ 96885 他7点	集中区6/ /Y-34・ AA-34・ 35	ⅢbL	9	甕	底部	縦ミガキ	縦ミガキ・ 横ナデ・ 横ミガキ	-	
Ⅱ-16-3	63-2-3	SP040A	VIB3	95832	集中区6 /Z-35	ⅢbL	1	甕	口縁部	横ナデ・ 横ミガキ	横ミガキ	横走位沈線文・ 斜位沈線文・刻み	
Ⅱ-16-4	63-2-4	SP037A	VIC4	95840・ 96633 他19点	集中区6 /AA-32・ 34・ Z-33・34	ⅢbM ⅢbL	21	坏	口縁部 ～底部	横ナデ・ 横ミガキ	横ミガキ・ 縦ミガキ	横位・斜位・縦位 沈線文	
Ⅱ-16-5	63-2-5	SP029A	VIC4	96972	集中区6 /AA-35	ⅢbL	1	坏	口縁部	横ミガキ	横ナデ・ 横ミガキ	横走沈線文	
Ⅱ-16-6	63-2-6	SP029C	VIC4	96985	集中区6 /AA-35	ⅢbL	1	坏	体部	横ミガキ	横ミガキ	横位沈線文・刻み	
Ⅱ-16-7	63-2-7	SP029B	VIC4	96983	集中区6 /AA-35	ⅢbL	1	坏	体部	縦ミガキ	-	横位・斜位沈線文	
Ⅱ-16-8	63-2-8	SP029D	VIC4	96976	集中区6 /AA-35	ⅢbL	1	坏	体部	横ミガキ	横ミガキ	刻み・横位・ 斜位沈線文	
Ⅱ-22-6	65-6	SP041A	VIB1a	97548・ 97544 他59点	ⅢPB-06 /Y-28	Ⅲc	61	甕	口縁部 ～底部	横ミガキ 縦ミガキ	横ミガキ・ 縦ミガキ	段状沈線文	

表II-7 III層遺構出土土器属性表(統縄文文化期)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面	口唇-口縁-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面		
II-22-1	65-1	ZP002	VIA1b	III PB-04/Y-11	IIIc	3	底部	外傾-角状(張り出し)-上げ底(凸底)	LR縄文(横位気味)刺突文-刺突文	砂粒中量混入	
II-22-2	65-2	ZP003	VIA1b	III PB-04/Y-11	IIIc	25	胴部下 半 ~ 底部	外傾/外傾-角状(張り出し)-上げ底	RL縄文(縦位)RL縄文(横位気味)	砂粒中量混入	
II-22-3	65-3	ZP004A	VIC4	III PB-05/W-19・20	IIIbL IIIc	35	胴部	やや外傾	隆起線文・RL縄文(帯状)	砂粒中量混入	
II-22-4	65-4	ZP004C	IVC4	III PB-05/W-19・20	IIIbL IIIc	11	胴部	やや外傾	RL縄文(帯状)	砂粒中量混入	
II-22-5	65-5	ZP004F	IVC4	III PB-05/W-19	IIIc	4	底部	やや外傾-丸状-平底	RL縄文(帯状)・沈線文	砂粒中量混入	

表II-8 III層出土礫属性表(アイヌ文化期)(1)

III SB-13

は括弧表記のこと

挿図番号	図版番号	個体名称	付属関連遺構	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質			
							長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ						標準偏差		
II-17-1	-	-	集中区7	111512	IIIbM	略完形	44.7	-13.3	32.0	-0.7	22.1	2.4	1.4	-0.4	38.8	○	Sa.		
-	-	-		111493	IIIbM	略完形	47.4	-10.6	43.3	10.6	17.7	-2.0	1.1	-0.7	47.7	○	Sa.		
II-17-2	-	-		111505	IIIbM	完形	49.0	-9.0	37.9	5.2	26.8	7.1	1.3	-0.5	60.8	○	Sa.		
-	-	-		111500	IIIbM	完形	49.0	-9.0	29.2	-3.5	28.7	9.0	1.7	-0.1	45.8	○	Sa.		
-	-	-		111510	IIIbM	完形	50.2	-7.8	34.2	1.5	18.1	-1.6	1.5	-0.3	36.5	○	Sa.		
-	-	-		111491	IIIbM	略完形	50.5	-7.5	28.6	-4.1	21.1	1.4	1.8	0.0	33.7	○	Sa.		
II-17-3	-	-		111381	IIIbM	完形	52.5	-5.5	34.3	1.6	23.4	3.7	1.5	-0.3	47.0	○	Sa.		
-	-	-		111387	IIIbM	完形	52.6	-5.4	38.7	6.0	24.1	4.4	1.4	-0.4	58.5	○	Sa.		
II-17-4	-	-		111503	IIIbM	完形	52.7	-5.3	25.0	-7.7	19.6	-0.1	2.1	0.3	35.2	○	Sa.		
-	-	-		111373	IIIbM	完形	53.1	-4.9	34.2	1.5	15.3	-4.4	1.6	-0.2	39.4	○	Sa.		
II-17-5	-	-		111378	IIIbM	完形	55.0	-3.0	31.1	-1.6	22.5	2.8	1.8	0.0	42.8	○	Mud.		
-	-	-		111509	IIIbM	完形	55.3	-2.7	38.1	5.4	21.5	1.8	1.5	-0.3	51.3	○	Sa.		
-	-	-		111504	IIIbM	完形	55.8	-2.2	31.3	-1.4	15.6	-4.1	1.8	0.0	39.1	○	Sa.		
-	-	-		111508	IIIbM	完形	55.9	-2.1	24.0	-8.7	19.5	-0.2	2.3	0.5	42.5	-	Sa.		
II-17-6	-	-		111513	IIIbM	完形	56.6	-1.4	30.6	-2.1	21.4	1.7	1.8	0.0	40.5	○	Sa.		
-	-	-		111374	IIIbM	完形	57.2	-0.8	38.3	5.6	17.8	-1.9	1.5	-0.3	48.8	○	Sa.		
II-17-7	-	-		111376	IIIbM	完形	57.6	-0.4	36.7	4.0	13.6	-6.1	1.6	-0.2	40.5	○	Sa.		
-	-	-		111485	IIIbM	略完形	58.1	0.1	29.4	-3.3	22.3	2.6	2.0	0.2	38.6	○	Sa.		
-	-	-		111388															
-	-	-		111424	IIIbM	略完形	60.0	2.0	30.1	-2.6	23.9	4.2	2.0	0.2	33.8	○	Sa.		
-	-	-		111430															
-	-	-		111502	IIIbM	完形	60.0	2.0	30.8	-1.9	21.1	1.4	1.9	0.1	34.0	○	Sa.		
-	-	-		111483	IIIbM	完形	61.3	3.3	18.2	-14.5	15.5	-4.2	3.4	1.6	29.0	○	Mud.		
II-17-8	-	-		111372	IIIbM	完形	61.3	3.3	42.5	9.8	17.6	-2.1	1.4	-0.4	43.7	○	Mud.		
-	-	-		111489	IIIbM	完形	61.7	3.7	33.8	1.1	16.3	-3.4	1.8	0.0	33.1	-	Mud.		
II-17-9	-	-		111490	IIIbM	完形	62.1	4.1	33.7	1.0	25.4	5.7	1.8	0.0	55.0	○	Sa.		
-	-	-		111384	IIIbM	完形	63.5	5.5	36.3	3.6	15.9	-3.8	1.7	-0.1	50.4	○	Sa.		
-	-	-		111375	IIIbM	完形	63.9	5.9	34.5	1.8	17.4	-2.3	1.9	0.1	48.9	○	Sa.		
-	-	-		111385															
-	-	-		111484															
-	-	-		111486	IIIbM	略完形	64.2	6.20	37.1	4.4	15.7	-4.0	1.7	-0.1	29.2	○	Mud.		
-	-	-		111487															
-	-	-	111495																
II-17-10	-	-	111488	IIIbM	完形	65.6	7.6	25.3	-7.4	18.9	-0.8	2.6	0.8	44.6	○	Sa.			
-	-	-	111497	IIIbM	完形	67.6	9.6	34.8	2.1	18.9	-0.8	1.9	0.1	53.4	○	Sa.			
-	-	-	111501	IIIbM	完形	69.2	11.2	27.9	-4.8	17.5	-2.2	2.5	0.7	37.2	○	Sa.			
-	-	-	111380																
-	-	-	111382	IIIbM	略完形	69.9	11.9	31.9	-0.8	23.1	3.4	2.2	0.4	50.2	-	Mud.			
-	-	-	111383																
II-17-11	-	-	111499	IIIbM	完形	70.9	12.9	32.8	0.1	10.9	-8.8	2.2	0.4	83.6	○	Sa.			
完形合計												32							
完形平均値							58.0					32.7		19.7		1.8		44.2	
遺物総重量														1413.6					

表Ⅱ-8 Ⅲ層出土礫属性表(アイヌ文化期)(2)

ⅢSB-14

は括弧表記のこと

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層 位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差					
Ⅱ-17-12		-		111479	ⅢbM	完形	44.5	-13.6	32.0	-3.8	23.1	3.3	1.4	-0.3	48.0	○	Sa.
-		-		111325	ⅢbM	完形	45.0	-13.1	33.8	-2.0	15.4	-4.4	1.3	-0.4	36.9	○	Sa.
Ⅱ-17-13		-		111369	ⅢbM	完形	45.1	-13.0	35.1	-0.7	30.7	10.9	1.3	-0.4	54.7	○	Sa.
-		16ⅢS009		111329	ⅢbM	完形	48.1	-10.0	35.5	-0.3	17.4	-2.4	1.4	-0.3	33.3	○	Mud.
-		-		111355													
-		-		111473	ⅢbM	完形	49.6	-8.5	42.4	6.6	18.6	-1.2	1.2	-0.5	43.9	○	Sa.
-		-		111332	ⅢbM	完形	50.2	-7.9	34.0	-1.8	22.6	2.8	1.5	-0.2	59.9	○	Sa.
Ⅱ-17-14		-		111474	ⅢbM	完形	51.2	-6.9	41.1	5.3	13.2	-6.6	1.2	-0.5	40.0	○	Sa.
Ⅱ-17-15		16ⅢS006		111351	ⅢbM	完形	52.4	-5.7	25.8	-10.0	21.4	1.6	2.7	1.0	47.4	○	Sa.
-		-		111352													
-		-		111460	ⅢbM	完形	52.4	-5.7	38.8	3.0	28.7	8.9	1.4	-0.3	67.9	○	Sa.
-		-		111331	ⅢbM	完形	52.9	-5.2	32.2	-3.6	22.6	2.8	1.6	-0.1	55.9	○	Sa.
-		-		111360	ⅢbM	完形	54.3	-3.8	29.9	-5.9	23.5	3.7	1.8	0.1	46.3	○	Mud.
Ⅱ-17-16		-		111461	ⅢbM	完形	55.1	-3.0	34.3	-1.5	29.6	9.8	1.6	-0.1	69.9	○	Sa.
-		16ⅢS007		111475	ⅢbM	略完形	55.5	-2.6	38.0	2.2	24.3	4.5	2.9	1.2	59.6	○	Sa.
-		-		111476													
-		-		111364	ⅢbM	完形	55.8	-2.3	25.9	-9.9	29.5	9.7	2.2	0.5	54.7	○	Mud.
-		-		111362	ⅢbM	完形	56.3	-1.8	36.4	0.6	17.0	-2.8	1.5	-0.2	49.4	○	Sa.
-		16ⅢS008		111454	ⅢbM	略完形	56.4	-1.7	39.0	3.2	11.0	-8.8	1.4	-0.3	32.1	○	Sa.
-		-		111457													
Ⅱ-17-17		16ⅢS010		111335													
-		-		111337													
-		-		111342													
-		-		111347	ⅢbM	略完形	56.8	-1.3	39.4	3.6	23.0	3.2	1.4	-0.3	54.5	○	Sa.
-		-		111348													
-		-		111349													
-		-		111359													
-		-		111482													
-		-		111330	ⅢbM	完形	57.1	-1.0	39.9	4.1	19.8	0.0	1.4	-0.3	55.9	○	Sa.
-		-		111459	ⅢbM	完形	58.1	0.0	38.4	2.6	17.4	-2.4	1.5	-0.2	52.9	○	Sa.
-		-		111458	ⅢbM	完形	58.1	0.0	37.8	2.0	13.8	-6.0	1.5	-0.2	36.9	○	Mud.
-		-		111367	ⅢbM	完形	58.4	0.3	30.2	-5.6	13.6	-6.2	1.9	0.2	31.7	○	Sa.
-		-		111470	ⅢbM	完形	58.7	0.6	32.8	-3.0	20.9	1.1	1.8	0.1	50.6	○	Sa.
-		-		111346	ⅢbM	完形	59.1	1.0	30.9	-4.9	19.6	-0.2	1.9	0.2	51.4	○	Sa.
Ⅱ-17-18		-		111463	ⅢbM	完形	59.1	1.0	39.4	3.6	15.5	-4.3	1.5	-0.2	47.3	○	Mud.
-		-		111478	ⅢbM	完形	59.2	1.1	31.8	-4.0	23.2	3.4	1.9	0.2	62.5	○	Sa.
Ⅱ-17-19		-		111350	ⅢbM	完形	59.2	1.1	38.4	2.6	22.8	3.0	1.5	-0.2	68.1	○	Sa.
-		-		111481	ⅢbM	完形	59.2	1.1	35.7	-0.1	20.9	1.1	1.7	0.0	53.7	○	Sa.
Ⅱ-17-20		-		111368	ⅢbM	完形	59.4	1.3	43.2	7.4	21.5	1.7	1.4	-0.3	65.8	○	Sa.
-		-		111324	ⅢbM	完形	59.5	1.4	37.4	1.6	14.4	-5.4	1.6	-0.1	42.7	○	Sa.
-		16ⅢS021		111333	ⅢbM	略完形	60.0	1.9	32.8	-3.0	23.4	3.6	1.8	0.1	53.5	○	Sa.
-		-		111334													
-		-		111353	ⅢbM	完形	60.3	2.2	32.7	-3.1	15.8	-4.0	1.8	0.1	37.8	○	Sa.
-		-		111455	ⅢbM	完形	60.3	2.2	38.0	2.2	8.7	-11.1	1.6	-0.1	30.9	○	Sa.
Ⅱ-17-21		-		111471	ⅢbM	完形	60.5	2.4	34.3	-1.5	24.8	5.0	1.8	0.1	79.1	○	Sa.
-		16ⅢS022		111339	ⅢbM	略完形	60.6	2.5	35.2	-0.6	24.2	4.4	1.7	0.0	65.7	○	Sa.
-		-		111472													
-		-		111468	ⅢbM	完形	60.9	2.8	38.8	3.0	15.8	-4.0	1.6	-0.1	49.2	○	Sa.
-		-		111354	ⅢbM	完形	61.0	2.9	41.5	5.7	15.5	-4.3	1.5	-0.2	49.7	○	Sa.
Ⅱ-17-22		-		111327	ⅢbM	完形	61.1	3.0	35.6	-0.2	22.6	2.8	1.7	0.0	58.7	○	Sa.
-		-		111477	ⅢbM	完形	61.5	3.4	34.2	-1.6	17.9	-1.9	1.8	0.1	53.8	○	Sa.
-		-		111456	ⅢbM	完形	62.5	4.4	35.4	-0.4	15.5	-4.3	1.8	0.1	48.8	○	Sa.
Ⅱ-17-23		-		111462	ⅢbM	完形	62.6	4.5	37.2	1.4	24.2	4.4	1.7	0.0	42.7	○	Ser.
-		-		111361	ⅢbM	完形	62.7	4.6	39.9	4.1	15.4	-4.4	1.6	-0.1	49.3	○	Sa.
Ⅱ-17-24		-		111336	ⅢbM	完形	63.0	4.9	39.9	4.1	17.6	-2.2	1.6	-0.1	58.8	○	Sa.
-		-		111356	ⅢbM	完形	63.5	5.4	43.1	7.3	12.7	-7.1	1.5	-0.2	48.7	○	Sa.
-		-		111357	ⅢbM	完形	64.6	6.5	38.6	2.8	16.2	-3.6	1.7	0.0	49.0	○	Sa.
Ⅱ-17-25		16ⅢS025		110733													
-		-		111343													
-		-		111345	ⅢbM	完形	65.5	7.4	41.6	5.8	18.3	-1.5	1.6	-0.1	46.3	○	Sa.
-		-		111370													
-		-		111480													
-		-		111341	ⅢbM	完形	66.1	8.0	33.6	-2.2	23.4	3.6	2.0	0.3	64.7	○	Sa.
Ⅱ-17-26		-		111515	ⅢbM	完形	66.3	8.2	27.6	-8.2	24.9	5.1	2.4	0.7	52.1	○	Sa.
-		-		111466	ⅢbM	完形	67.7	9.6	33.5	-2.3	22.7	2.9	2.0	0.3	52.9	○	Sa.
Ⅱ-17-27		-		111363	ⅢbM	完形	67.7	9.6	30.5	-5.3	17.9	-1.9	2.2	0.5	37.5	○	Sa.

完形合計

49

完形平均値

58.1

35.8

19.8

1.7

51.1

遺物総重量

2503.1



表Ⅱ-8 Ⅲ層出土礫属性表(アイヌ文化期)(3)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層 位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質		
							長軸		短軸		厚さ							
							標準 偏差	標準 偏差	標準 偏差	標準 偏差	標準 偏差	標準 偏差						
Ⅱ-17-28	-	-	集中区 7	111453	ⅢbM	完形	22.4	-22.1	18.4	-13.0	8.5	-8.0	1.2	-0.2	5.3	-	Sa.	
-	-	-		111429	ⅢbM	略完形	23.1	-21.4	16.1	-15.3	16.0	-0.5	1.4	0.0	6.8	-	Sa.	
-	-	-		111443	ⅢbM	完形	38.1	-6.4	30.1	-1.3	24.0	7.5	1.3	-0.1	36.3	○	Sa.	
Ⅱ-17-29	16ⅢS020	-		111440	ⅢbM	完形	41.4	-3.1	37.0	5.6	18.9	2.4	1.1	-0.3	35.4	○	Sa.	
-	16ⅢS012	-		111441	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-		111444	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-		111450	ⅢbM	略完形	43.8	-0.7	25.2	-6.2	17.8	1.3	1.7	0.3	26.1	-	Mud.	
-	-	-		111452-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Ⅱ-17-30	-	-		111390	ⅢbM	完形	46.3	1.8	31.5	0.1	17.9	1.4	1.5	0.1	42.3	○	Sa.	
-	16ⅢS015	-		111442	ⅢbM	完形	46.7	2.2	37.1	5.7	22.4	5.9	1.3	-0.1	48.3	○	Sa.	
-	-	-		111446	ⅢbM	完形	47.9	3.4	33.8	2.4	18.6	2.1	1.4	0.0	37.3	-	Sa.	
-	16ⅢS011	-		111447	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-		111419	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Ⅱ-17-31	16ⅢS031	-		111420	ⅢbM	略完形	49.7	5.2	31.6	0.2	12.3	-4.2	1.6	0.2	31.3	-	Sa.	
-	16ⅢS016	-		111426	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-		110170	ⅢbM	略完形	53.2	8.7	33.9	2.5	15.4	-1.1	1.6	0.2	38.0	○	Sa.	
-	-	-		111445	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Ⅱ-17-32	16ⅢS018	-		111406	ⅢbM	略完形	54.3	9.8	37.9	6.5	15.4	-1.1	1.4	0.0	45.5	○	Sa.	
-	-	-		111449	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-		111401	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-		111423	ⅢbM	略完形	55.5	11.0	43.2	11.8	12.4	-4.1	1.3	-0.1	44.8	○	Sa.	
-	16ⅢS024	-		111432	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-		111396	ⅢbM	略完形	56.4	11.9	33.0	1.6	14.8	-1.7	1.7	0.3	33.8	○	Sa.	
-	-	-		111397	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
完形合計													13					
完形平均値							44.5		31.4		16.5		1.4		33.2			
遺物総重量													431.2					

表Ⅱ-9 Ⅲ層出土礫属性表(擦文文化期)(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層 位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質		
							長軸		短軸		厚さ							
							標準 偏差	標準 偏差	標準 偏差	標準 偏差	標準 偏差	標準 偏差						
Ⅱ-13-1	-	-	集中区 4	95284	Ⅲc	完形	20.4	-32.2	16.6	-12.6	9.0	-8.7	1.2	-0.6	3.0	-	Sa.	
Ⅱ-13-2	-	-		95740	ⅢbL	完形	42.9	-9.7	26.6	-2.6	16.6	-1.1	1.6	-0.2	23.6	-	Sa.	
-	-	-		102924	ⅢbL	略完形	44.6	-8.0	29.7	0.5	15.1	-2.6	1.5	-0.3	27.8	-	Sa.	
-	15ⅢS048	-		95728	ⅢbL	完形	46.6	-5.99	30.8	1.6	24.2	6.5	1.5	-0.3	42.1	○	Sa.	
-	-	-		95756	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Ⅱ-13-3	-	-		95271	ⅢbL	完形	47.6	-5.0	46.0	16.8	11.5	-6.2	1.0	-0.8	32.7	-	Sa.	
-	-	-		95755	ⅢbL	完形	47.6	-5.0	24.6	-4.6	11.3	-6.4	1.9	0.1	17.2	-	Sa.	
-	-	-		95729	ⅢbL	完形	47.1	-5.5	29.8	0.6	17.3	-0.4	1.6	-0.2	28.7	-	Sa.	
Ⅱ-13-4	-	-		95725	ⅢbL	完形	48.2	-4.4	31.2	2.0	19.6	1.9	1.5	-0.3	34.4	-	Sa.	
-	-	-		95736	ⅢbL	完形	49.3	-3.3	29.2	0.0	14.0	-3.8	1.7	-0.1	26.1	-	Sa.	
-	-	-		95761	ⅢbL	完形	50.1	-2.5	27.4	-1.8	15.5	-2.2	1.8	0.0	25.0	-	Sa.	
-	-	-		95741	ⅢbL	完形	50.4	-2.2	30.8	1.6	12.5	-5.3	1.6	-0.2	25.9	-	Sa.	
-	62-1-1	15ⅢS028		87501	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-		87506	ⅢbL	略完形	51.4	-1.2	35.5	6.3	25.8	8.1	1.4	-0.4	49.3	-	Sa.	
-	-	-		87512	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-		87513	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-		95281	Ⅲc	完形	53.2	0.6	30.3	1.1	25.6	7.9	1.8	0.0	55.7	-	Sa.	
Ⅱ-13-5	-	-		95750	ⅢbL	完形	55.0	2.4	26.9	-2.4	19.9	2.2	2.0	0.2	35.2	-	Sa.	
-	-	-		95723	ⅢbL	完形	55.0	2.4	28.1	-1.1	13.3	-4.5	2.0	0.2	24.9	-	Sa.	
Ⅱ-13-6	-	-		95282	ⅢbL	完形	57.9	5.3	28.8	-0.4	16.1	-1.6	2.0	0.2	36.1	-	Sa.	
-	-	-		102923	ⅢbL	完形	62.9	10.3	26.8	-2.4	24.3	6.6	2.3	0.5	67.0	-	Sa.	
-	-	-		95274	ⅢbL	完形	63.4	10.8	27.3	-1.9	21.4	3.7	2.3	0.5	35.2	-	Sa.	
-	-	-		95757	ⅢbL	完形	63.4	10.8	24.9	-4.3	14.5	-3.2	2.5	0.7	31.9	-	Sa.	
Ⅱ-13-7	-	-		95739	ⅢbL	完形	64.4	11.8	29.1	-0.1	16.7	-1.0	2.2	0.4	37.7	-	Sa.	
-	-	-		95734	ⅢbL	完形	65.8	13.2	36.1	6.9	16.6	-1.1	1.8	0.0	42.7	-	Sa.	
Ⅱ-13-8	15ⅢS119	-		95726	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-		95727	ⅢbL	完形	70.7	18.1	25.9	-3.4	28.1	10.4	2.7	0.9	61.7	-	Sa.	
完形合計													22					
完形平均値							52.6		29.2		17.7		1.8		34.7			
遺物総重量													764.0					





表Ⅱ-9 Ⅲ層出土礫属性表(擦文文化期)(4)

ⅢB-01(3)

は括弧表記のこと

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層 位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差					
Ⅱ-15-32		15ⅢS014		96126	ⅢbL	略完形	83.2	22.8	38.3	4.7	16.3	-2.6	2.2	0.4	54.9	-	Mud.
				96127													
-		15ⅢS045	集中 区 5	96128	ⅢbL	略完形	83.6	23.2	44.4	10.8	28.9	10.1	1.9	0.1	118.3	-	Mud.
				95490													
				95491													
				95500													
				96308													
				96309													
				96312													
				96001													
				96083													
				87652													
Ⅱ-15-33		15ⅢS079		96070	ⅢbL	完形	86.4	26.0	35.2	1.6	19.3	0.5	2.5	0.7	73.5	○	Sa.
				96087													
-				95203	ⅢbL	略完形	86.4	26.0	37.1	3.5	14.8	-4.0	2.3	0.5	73.4	-	Sa.
				96155													
				96155													
Ⅱ-15-34	63-1-1			95190	ⅢbL	完形	87.4	27.0	44.0	10.4	36.2	17.4	2.0	0.2	164.2	-	Sa.
				87659													
Ⅱ-15-35				87706	ⅢbL	略完形	93.6	33.2	72.3	38.7	29.3	10.5	1.3	-0.5	240.0	○	Sa.
				96111													
Ⅱ-15-36		15ⅢS038		96007	ⅢbL	略完形	95.2	34.8	70.0	36.4	22.9	4.1	1.4	-0.4	205.0	○	Sa.
				96010													
Ⅱ-15-37				95160	ⅢbL	完形	96.5	36.1	49.2	15.6	11.4	-7.4	2.0	0.2	77.1	-	Sa.
				95161													
Ⅱ-15-38		15ⅢS125		96176	ⅢbL	完形	99.1	38.7	45.9	12.3	16.1	-2.7	2.2	0.4	87.4	-	Sa.
				96211													
				96107													
-		15ⅢS004		96435	ⅢbL	略完形	108.9	48.5	45.5	11.9	29.4	10.6	2.4	0.6	102.0	-	Sa.
				96469													
				96154													
				96154													
Ⅱ-15-39				96183	ⅢbL	略完形	127.6	67.2	90.3	56.7	58.2	39.4	1.4	-0.4	550.0	-	Con.
				87712-2													
Ⅱ-15-40		15ⅢS055		95173	ⅢbL	完形	128.7	68.3	50.7	17.1	31.7	12.9	2.5	0.7	227.0	-	Sa.
				96123													
完形合計															124		
完形平均値							60.4	33.6	18.8	1.8	57.8						
遺物総重量															7171.2		

ⅢSB-12

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層 位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差					
Ⅱ-16-10				97123	Ⅲc	完形	36.1	-28.4	20.6	-8.0	14.8	-4.5	1.8	-0.4	16.9	-	Sa.
				97126													
-				97108	Ⅲc	略完形	41.2	-23.3	20.2	-8.4	16.4	-2.9	2.0	-0.2	15.6	-	Sa.
				97116													
				97116													
Ⅱ-16-11				97124-1	Ⅲc	略完形	43.2	-21.3	28.5	-0.1	15.4	-3.9	1.5	-0.7	27.3	-	Sa.
				97117													
Ⅱ-16-12				97117	Ⅲc	完形	56.8	-7.7	38.8	10.2	19.3	0.0	1.5	-0.7	57.7	-	Sa.
				97103													
-				97106	Ⅲc	完形	59.7	-4.8	26.1	-2.5	26.4	7.1	2.3	0.1	36.4	-	Sa.
				97100													
				97114													
				97114													
Ⅱ-16-13	63-2-10			97118	Ⅲc	略完形	62.1	-2.4	27.9	-0.7	15.5	-3.8	2.2	0.0	32.2	-	Sa.
				97118													
-				97118	Ⅲc	完形	63.0	-1.5	31.2	2.6	16.8	-2.5	2.0	-0.2	45.5	-	Sa.
				97113													
				97127													
				97120													
Ⅱ-16-14				97115	Ⅲc	完形	70.4	5.9	26.9	-1.7	18.5	-0.8	2.6	0.4	43.5	-	Sa.
				97115													
				97115													
Ⅱ-16-15				97105	Ⅲc	略完形	83.4	18.9	31.1	2.5	20.2	0.9	2.7	0.5	83.4	-	Sa.
				97121													
				97121													
-		ⅢS097		95335	Ⅲc	完形	106.2	41.7	30.7	2.1	20.3	1.0	3.5	1.3	72.3	-	Mud.
				97128													
Ⅱ-16-16				97110	Ⅲc	完形	114.9	50.4	40.1	11.5	23.5	4.2	2.9	0.7	90.3	-	Mud.
完形合計															19		
完形平均値							64.5	28.6	19.3	2.2	46.1						
遺物総重量															875.4		

表Ⅱ-10 Ⅲ層包含層出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物 番号	グリッド	点数	層位	器種	部位	器面調整		文様	備考
										内側	外側	口縁部/文様帯	
Ⅱ-23-1	66-1	SP028A	VII B3	95823・ 95821 他8点	T-35・ S-34	10	ⅢbM ⅢbL	甕	口縁部～ 胴部	横ミガキ・ 縦ミガキ	縦ナデ	横走沈線文・ 矢羽根状刻み・ 貼付文・刻み/ 縦位・斜位沈線文・ 刻み・貼付圍繞帯	
Ⅱ-23-2	66-2	SP028B	VII B3	105560 他5点	S-33・34	6	ⅢbL	甕	胴部	横ミガキ・ 縦ミガキ	縦ナデ	縦位・斜位沈線文・ 刻み・貼付圍繞帯 +馬蹄形押捺文	
Ⅱ-23-3	66-3	SP034A	VII B3	85457・ 85451	V-12・ W-12	6	ⅢbL	甕	底部	縦ミガキ	縦ミガキ	-	

表Ⅱ-11 Ⅲ層遺構・包含層出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構/ グリッド	規模(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-14-13	62-2-13	-	87654	たたき石	ⅡB3	ⅢbL	集中区5 /ⅢB-01/S-6	130.0	108.0	61.2	1138.0	Sa.	完形
Ⅱ-14-14	62-2-14	-	86593	棒状鉄製品	-	ⅢbL	集中区5 /S-7	103.1	12.7	12.1	22.1	Irn.	
Ⅱ-16-9	63-2-9	-	96897	板状鉄製品	-	ⅢbL	集中区6/AA-34	21.6	16.4	2.3	1.3	Irn.	
Ⅱ-23-4	66-4	-	105565	ポイント類	A2a	Ⅲc	S-34	32.8	13.5	3.2	1.4	Obs.	完形
Ⅱ-23-5	66-5	-	99761	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	S-18	(80.5)	47.6	24.0	(126.7)	Sa.	欠損
Ⅱ-23-6	66-6	-	113024	台石	-	ⅢbM	N-24	143.3	87.7	66.5	1500.0	Sa.	完形
Ⅱ-23-7	66-7	-	113025	滑沢面のある礫	-	ⅢbM	N-24	220.0	54.9	34.6	500.0	Sa.	完形
Ⅱ-23-8	66-8	-	85385	線状痕のある礫	-	ⅢbL	S-6	71.6	38.1	25.4	88.0	We-Tu.	完形
Ⅱ-23-9	66-9	-	86504	加工痕のある礫	-	Ⅲc	Y-23	175.0	108.0	29.7	683.0	Sa.	完形